

11. 景気の先行きに対する判断理由

景気の先行きに対する判断の理由について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北海道)		一般小売店〔土産〕 (経営者)	・夏の観光シーズンは終わるものの、これから秋を迎えて、混雑を避けて観光したいと考える旅行客の入込が期待できる。インバウンドについても、韓国からのゴルフ客が相当増えていることがプラス材料となる。これらのことから、今後数か月は繁忙期に近いような入込が続くと期待できる。
		一般小売店〔酒〕(経営者)	・景気の良い状況が数か月続いていることから、今後も同様の状況が続くと期待している。
		一般小売店〔土産〕 (経営者)	・夏休み期間中は、雨の日が少なかったこと、観光客船の寄港があったことから、売上は前年を上回った。東南アジアからの観光客が引き続き多くみられるほか、国内客においては春の賃上げがプラスとなっているなど、良いことばかりが重なっていることから、今後にも期待を持てる。ただし、旧市街地はシャッターが閉まったままの店舗が目立ち、人影も少ないなど、今後に向けて心配に思う点もある。
		百貨店（販売促進担当）	・円相場が若干円安に振れ始めているものの、インバウンドの入込客数はいまだに伸びている。こうした傾向はしばらく続くと見込まれる。
		スーパー（店長）	・少し前から売上を増やすために、様々な取組を行っており、それらの取組が少しずつ定着し始めていることから、今後景気が上向くことを期待している。
		乗用車販売店（経営者）	・大手自動車メーカーの不正問題の影響も落ち着きを取り戻しつつある。生産停止車種はいまだあるものの、受注を再開する車種がこれから少しずつ増えてくることになる。受注残もあるため、今後も売上は比較的安定して推移することになる。今後の景気が上向くかどうかは、個人消費の動向に左右されることになる。
		乗用車販売店（従業員）	・新型車の発表を控えているため、今後の景気はやや良くなると期待している。
		観光型ホテル（スタッフ）	・これまでと比べて、3か月先の宿泊予約が安定して推移していることから、今後の景気はやや良くなる。
		旅行代理店（従業員）	・9月又は10月の旅行を予定している客が、個人客、団体客のいずれも前年を上回っている。新規の問合せも順調に推移していることから、今後の景気はやや良くなる。
		商店街（代表者）	・今後、国民の所得が増えていくような国の政策が行われ、景気が上向くことを期待している。自民党総裁選の行方にも大きく左右されることになる。
		商店街（代表者）	・今年は台風の被害が多いこともあって、ここに来て客足が鈍くなっている。今後についても、台風の被害が多くならないことを祈るばかりである。
		一般小売店（経営者）	・景気が上向くような明るい材料が見当たらない。
		百貨店（売場主任）	・国内客については、現在と同様のトレンドで推移するとみられる。インバウンドについては、今以上に上向くような要因が見当たらない。そのため、今後も同様の状況で推移することになる。
		スーパー（店長）	・今後については、残暑が長引くとみられることから、秋物商材の動きは期待できない。冬物が動き出す11月頃まで大きな期待は持てない。
		スーパー（企画担当）	・来客数の増加により売上は伸びているが、販売点数に伸びがみられない。夏物商材への消費が伸びた反動で買い控え傾向がみられることから、今後も景気は変わらないまま推移する。
	コンビニ（エリア担当）	・ここ3か月、来客数の前年比に変化がみられない。コロナ禍が明けてから同じような状況で推移しているため、今後も景気は余り変わらない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（エリア担当）	・最低賃金がかかるものの、物価の上昇がいまだに続いていることから、明るい兆しとまではいえない。コンビニエンスストアの価格を割高と感じている客も多いため、今後も景気は変わらない。
		衣料品専門店（経営者）	・先行きが見通せないことから、今後も景気は変わらないとしか答えようがない。
		衣料品専門店（エリア担当）	・前年ほど暑さが厳しくないこともあって、夏物商材の動きが前年よりも鈍くなっているものの、最低気温の下がり方が前年よりも早いことから、これから秋物商材に動きが出てくることを期待している。
		乗用車販売店（従業員）	・下取り車や中古車の価格は、輸出動向によっても変わってくることになる。米国の大統領選の結果も関係してくるため、先行きには不透明な部分がある。今は価格が高くても客の付いている車種もあるが、今後そうした車種の動きがどうなるかは分からない。そのため、今後の景気については判断が付かない状況にある。
		自動車備品販売店（店長）	・今後の景気が良くなるような情勢や情報などもないことから、景気は変わらない。
		住関連専門店（役員）	・客の購買意欲が上向くような環境変化がないため、今後も景気が大きく変わるようなことはなく、良くも悪くもない状況で推移する。
		その他専門店〔造花〕（店長）	・9月以降、季節商材に動きが出てくることを期待したいが、値上げが続いていることが、購買動向にどのような影響を与えるか分からない。
		高級レストラン（スタッフ）	・今後も景気は大きく変わらない。ただし、前年から地元客の減少や客単価の低下が続いていることから、客の外出控えが強まり、売上がじわじわと減少する不安も拭えない。季節要因により、観光客が減少することも懸念される。
		高級レストラン（スタッフ）	・当地では、観光のピークが9月までとなるため、今後の景気は横ばいで推移することになる。
		スナック（経営者）	・毎月の景気は余り変わらずに推移している。新規客が増えるような動きもないため、今後も同じように、変動のないまま推移する。
		旅行代理店（従業員）	・帰省需要のピークが過ぎたため、今後については、インバウンド客が増加するかどうかポイントとなってくる。特に国際線の直行便利用によるインバウンド客の増加を期待している。
		旅行代理店（従業員）	・現状、販売量や来客数が増加するような材料が見当たらないため、今後については、現状維持のまま推移することになる。
		旅行代理店（従業員）	・今後、政治的に大きな動きが出てくることになる。そのような時期は旅行の動きが鈍る傾向があるため、今後の景気は、現状と同様に低迷状態が続くことになる。ただし、現在の円安、燃料高などの状況が大きく改善されることになれば、海外旅行の需要が回復することも考えられる。
		タクシー運転手	・今後の予約状況から、客が増加するような様子はない。観光客やイベント関係者などからの問合せ状況にも変化がみられない。これらのことから、今後も景気は変わらないまま推移する。
		タクシー運転手	・乗務員不足が顕著である。様々な媒体を活用して、乗務員の採用に向けて努力しているが、状況が変わっていないため、今後も景気は変わらない。
		タクシー運転手	・夏の繁忙期が終わり、これから秋冬に向かっていくなかで、景気が上向くような大きな動きや催しなどが見当たらないことから、今後も現状と同様の状況で推移する。
		通信会社（企画担当）	・毎年9月に発売される人気の通信端末による売上増加は見込めるものの、インフルエンサー以外の客をひきつけるような大きな話題性がないことから、現在と同様の状況が続くことになる。
		美容室（経営者）	・季節要因もあって、客の来店頻度が上向いており、多少ではあるが、来客数が増加している。また、賃金が徐々に上がっていることもあって、以前のような閉塞感も少しずつ和らいでいる。これらのことから、今後も景気のやや良い状態が続くことになる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		美容室（経営者）	・販売量の動きや客の様子から、今後も現在と同様の状況で推移することになる。
		住宅販売会社（経営者）	・金利が上昇局面にあること、人件費や資材価格が高止まりしたままであることから、今後も厳しい状態が続く。
		商店街（代表者）	・自民党総裁選の動向によって、今後の景気の方向性が決まってくることになる。
		スーパー（店長）	・自民党総裁選や米不足などの影響もあって、先行きが読めない状況にある。ただし、消費者が安い商品を探して買い回りしていることだけは間違いないため、今後の景気はやや悪くなる。
		スーパー（店長）	・9月の自民党総裁選、11月の米国大統領選挙によって、今後の動向が左右されることになる。
		スーパー（店長）	・これから冬を迎えて、光熱費への支出が増えることになるため、客の買物の仕方が淡くなるとみられる。
		スーパー（企画担当）	・度重なる商材の値上げやエネルギーコストの上昇による家計の圧迫に加えて、自然災害や異常気象、実感の伴わない値上げなどが、消費者心理にマイナスの影響を与えている。そのため、今後の景気はやや悪くなる。
		スーパー（役員）	・食料品の値上げが続いていることから、消費者の低価格志向が強まっている。今後、小売各社が多少無理をしても価格競争を強めていくことを心配している。
		コンビニ（エリア担当）	・商品の値上げが続くことから、客がし好品の購入を控えるようになるとみられるため、今後も売上の落ち込みが続くことになる。
		コンビニ（エリア担当）	・商品の値上げの影響で、今後、客の買い控えが顕著になることが懸念される。
		家電量販店（店員）	・白物家電の動きが多少回復しているものの、エアコン特需が一段落していることから、全体的にそこまで良くない状況にある。これから暖房機器の販売が増える時期となるが、エアコンのような販売台数は期待できないことから、今後の景気はやや悪くなる。
		乗用車販売店（経営者）	・燃料費が高止まりしていることから、これから冬を迎えて、需要が横ばい又は微減で推移するとみられる。
		乗用車販売店（従業員）	・受注できる車両が限られていることから、受注量が目標を大きく下回っている。購入を希望している客は一定程度みられるが、新車、中古車のどちらも商材が不足していることから、今後の景気が上向くとは考えにくい。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・商品の値上げや輸送費の上昇に加えて、郵便料金の値上げも予定されていることから、今後の景気はやや悪くなる。特に郵便料金の値上げは、客へのダイレクトメール発送にも関係してくるため、影響が大きい。
		観光型ホテル（経営者）	・日本銀行の追加利上げ、株価の暴落、物価高の影響で集客に伸びがみられず、客単価も低下に転じている。今後の予約状況も、例年と比べて落ち込んでいる。さらに、今秋に予定されている最低賃金の引上げ額が大きすぎることマイナスであり、今後の景気悪化が懸念される。
		タクシー運転手	・例年、夏の暑い時期が過ぎ、気温が低くなってくると、タクシーの利用客が減ってくる。今年も気温が低くなることでタクシーの乗り控えが生じるとみられ、9月以降のタクシー1台当たりの売上は8月よりも少なくなる。
		タクシー運転手	・政局が混迷していることもあって、客の消費行動が様子見となっている。景気にとって良い材料とはなっていないことから、今後の景気はやや悪くなる。
		観光名所（従業員）	・当地を舞台とした劇場アニメとのコラボ企画が9月末で終了する。アニメファンによる聖地巡礼は4月から勢いが落ちることなく続いてきたが、10月以降は一旦落ち着くとみられる。アニメファンの入込が減少する分だけ、来客数の減少につながるのではないかと懸念している。
		美容室（経営者）	・最低賃金を上げるだけでは景気は良くならない。景気を上向かせるには、中小企業向けの対策も充実させていくことが望まれる。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・観光の最盛期を過ぎること、冬を控えて輸送量が減少するとみられることから、今後の景気はやや悪くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		住宅販売会社（経営者）	・物価の上昇率が所得の増加率よりも高いことから、分譲マンション購入に当たっての所得のボーダーラインが高くなっている。このままの状況が続くことになれば、分譲マンション市場は一層縮小することになる。中所得者層でも手の届く価格帯の住宅が供給できるように、政策面での支援が期待される。
	×	商店街（代表者）	・燃料価格が依然として高騰したままであることから、冬に備えて客の買い控えが強まるとみられる。また、インフルエンザなどの感染症が増えてくる季節でもあるため、客が外出を控えるようになるとみられる。これらのことから、今後の売上の伸びは期待できない。
	×	衣料品専門店（店長）	・スーツなどの高価格帯商材は、下見の客が大きく減っており、動きがますます鈍くなっている。今後についても、先行き不透明な状況にあることから、景気は悪くなる。残暑が続くとみられることもマイナスである。
企業 動向 関連 (北海道)		農林水産業（経営者）	・台風の影響が心配なところではあるが、これから主要果物の出荷のピークを迎えるため、今後の景気は良くなる。
		通信業（営業担当）	・この夏は観光客数が大幅に回復しており、観光客による消費単価も上昇している。北海道全体にも大きな経済波及効果が生じているとみられることから、先々の景況感はやや良くなる。
		金融業（従業員）	・企業においては、収益確保に向けた価格転嫁の動きが続くとみられる。一方、従業員については、夏のボーナスで定額減税を実感できること、酷暑乗り切り緊急支援の電気・ガス料金の負担軽減により、消費者マインドが改善することが期待される。インバウンドの回復もあって、個人消費は持ち直すことになり、今後の景気はやや良くなる。
		司法書士	・相続案件の受注は引き続き期待できる。取引先や同業者の様子から、住宅用地の売買、住宅新築も持ち直しているとみられることから、今後の景気はやや良くなる。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	・日本全体の建設投資は安定した公共投資をベースに、今後も順調な推移が見込まれる。また、半導体や再生可能エネルギーなどに関連した民間設備投資も当面期待できる。これらのことから、今後の景気はやや良くなる。
		食料品製造業（従業員）	・当面は現在と同様の状況が続くとみられる。
		食料品製造業（従業員）	・営業担当者の変更と併せて、取引条件の提示方法を変えた効果が出てきている。今後、景気が一段と良くなることまでは考えにくいだが、8月と同様の水準で推移することになる。
		建設業（経営者）	・今後については、施工能力の問題もあって、新規受注は官民のいずれも減少すると見込まれる。また、これから秋に向けて人手不足の影響が大きくなることも懸念される。土木工事の進捗が天候に大きく左右されることも気掛かりである。
		建設業（役員）	・台風シーズンの到来や局地的な豪雨の影響が、今後の工事進捗における懸念材料となる。ただし、工期遅延が生じるような甚大な影響を受けない限り、計画どおりの完工高と利益を確保できる見通しである。
		輸送業（支店長）	・円安が続くなか、木材などの輸出貨物の新規引き合いがようやく出てきた。今後については、積雪期間を前にして、建材などの輸送量が増加することを期待しているが、いまだ料金改定に至らない客先もあるため、それらの料金改定が進まなければ、収支面が改善することまでは望めない。
		広告代理店（従業員）	・広告予算の見通しが良くないため、今後も景気は変わらない。
		その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・新規案件の話はいろいろ聞こえてくるが、中途採用や外注先の確保が難しく、案件を新たに受注することが難しい状況にある。
		その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	・2024年度の北海道の鋼材出荷量が20%から30%ほど減るとの見通しがある。客先の2極化も進んでいることから、今後については厳しい状況になることが懸念される。
		金属製品製造業（従業員）	・建設費の高騰、金利の上昇などの影響で、今後の景気はやや悪くなる。北海道の人口は40年前と比べると10%減少しており、特に20歳の人口は50%も減少していることから、今後、住宅を取得する客が減少することは確実である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		建設業（従業員）	・案件は減っていないものの、設計者や施工者が不足しているため、今後、予定どおりに施工できずに中止となる案件が増えることが懸念される。
		司法書士	・物価上昇が続いていることから、今後の景気はやや悪くなる。また、全国的な米不足が報道されるなか、通常よりも高い金額で販売している状況もみられる。国や自治体が国民の負担を軽減するような施策を行うことが望まれる。
	x	-	-
雇用 関連		-	-
(北海道)		求人情報誌製作会社（編集者）	・前年の秋から求人数が減っていたことから、今年はその反動で求人数が増加することを期待している。
		人材派遣会社（社員）	・企業の人材需要は相変わらず底堅い。ただし、見方を変えると、企業が求めるスキルのある人材が少ないともいえる。このミスマッチを解消するためには、スキルのある人材を探すことに専念する必要がある。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・求職者の年齢構成から、仕事探しの意欲はシニア層で高いことがうかがえる。ただし、こうした傾向は、第1次産業とそれに付随する第2次産業が多い地方ならではの特徴かもしれない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・景気が上向くような話が聞こえてこない。
		職業安定所（職員）	・当地における有効求人数は16か月連続で前年を下回っているものの、新規求人数は前年比プラス1.4%と8か月ぶりに増加した。産業や業種によってその度合いは異なっているものの、今後の物価上昇の状況によっては、経済活動、消費行動が先を見通せない状態となることも懸念される。
		職業安定所（職員）	・新規求職申込件数、新規求人数のいずれも減少している。新規求人数は減少が続いているが、求人数の減少が景気の悪化と直結しているとはいえない状況にあることから、今後も景気は変わらない。
		学校〔大学〕（就職担当）	・給与の改定を行う企業が増えているが、採用動向に急激な変化が出てくることまでは考えにくい。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・地場の中小企業の動向から、景気が上向くような要素は特に見当たらない。むしろ物価高や悪天候などの影響で、景気が下向くことが懸念される。
	x	-	-

2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連		*	*
(東北)		百貨店（催事担当）	・秋の改装に伴い、新規オープンするショップが複数あり、これまでの主要顧客層よりも若い層の来客数増加が見込まれる。
		スーパー（店長）	・最低賃金改定などで収入が大きく増えることが予想されるため、消費も活性化するとみている。
		コンビニ（エリア担当）	・厳しい残暑が予想され、アイスなど夏物商材の売上伸長が見込める。また、円安のため紅葉の時期に例年よりもインバウンドを含む観光客が増加するとみている。
		コンビニ（店長）	・10月に予定されている最低賃金の引上げに期待している。
		コンビニ（店長）	・景気が良くなると期待したい。ただし、最低賃金の引上げが予定されており対応に頭を抱えている。
		衣料品専門店（経営者）	・単価の高い秋冬商材が売れる時期になる。
		衣料品専門店（店長）	・会議や会合などが何年ぶりかで開催されたという話を聞く。秋以降も新型コロナウイルス感染症発生前のいろいろな行事が再開され、それに合わせて洋服などを買いそろえる人が増えるのではないかと期待している。
		乗用車販売店（従業員）	・メーカーの半期決算で施策支援が予定されているため、今後の受注次第で収益の増加が見込める。新車入庫の納期を見ながら商談を進めることで受注を確保したい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（従業員）	・決算期を迎えるため、販売量、売上が増える見込みである。
		住関連専門店（経営者）	・受注生産をしており、今後生産量が増える予定なので、現状より良くなる。
		都市型ホテル（支配人）	・秋の行楽シーズンの先行予約が好調である。
		都市型ホテル（スタッフ）	・紅葉シーズンを迎えることや、イベントやコンサートが開催されることから、国内だけでなく海外からの客も多くなる見込みである。
		旅行代理店（従業員）	・当社契約施設の2～3か月先の受注状況が前月比5%増加している。
		旅行代理店（従業員）	・秋の紅葉シーズン、年末年始と旅行業界では人が動く季節となる。予約状況が少し上向いていることもあり、エネルギー価格の高騰や為替の影響が落ち着き、悪天候にならなければ、やや良くなるとみている。
		通信会社（経営者）	・建築が増えている新築住宅向けの需要で放送・通信のセットでの加入が増えるとみている。また、年末に向けて映像コンテンツが充実するため、放送サービスの加入者数の増加が期待できる。通信サービスは、年内に完成するアパートやマンションへのインターネット一括導入の増加が期待できる。
		設計事務所（経営者）	・新規業務が見込める。
		商店街（代表者）	・大型商業施設のオープン特需による商店街のにぎわいは落ち着くとみている。
		商店街（代表者）	・価格が高止まりしているため、販売量の増加は期待できない。
		商店街（代表者）	・プラス材料とマイナス材料の両方があり、変わらないとみている。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・暑い日が10月まで続くという予報が出ている。夏場に売れる商材は決まっているため、暑い日が続けば現在と同様の売上が続くとみている。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・9月以降は季節商材が大幅に変わり、客もそれに合わせて来店する。景気はそれほど変わらないとみている。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・生活費は高騰しているが、健康の重要性は認識されており、関連商品の安定した需要が見込める。改善することはないが悪化する傾向にもないとみている。
		一般小売店〔雑貨〕（経営者）	・秋物衣料も値上げが続く。客は値上げに慣れてきているとはいえ、財布のひもは固くなるばかりである。
		百貨店（企画担当）	・新型コロナウイルス感染症の感染拡大が続けば、売上の核となるシニア層も再び外出を自粛するようになるため、来客数や売上に影響が出る。
		百貨店（従業員）	・来客数は増加傾向にあるが、当面は物価高の改善はなく、生活防衛意識に変化はないとみている。
		スーパー（経営者）	・消費の傾向は変わらず、既存店の売上も悪くない状態で推移するとみている。10月からの最低賃金の引上げもあるため、消費環境が上向くことを期待したい。仕入費用、物流費、人件費等運営費の支出増加は unavoidable ので、それを賄える消費の拡大、継続した需要の増加を期待している。
		スーパー（店長）	・値上げによる単価の上昇と、買上点数の減少は引き続き変わらないとみている。
		スーパー（店長）	・お盆期間は高単価商品が動いたが、その後は来客数も減少し、売れるものも安い物が中心になっている。
		スーパー（店長）	・現在の販売促進策を継続するため、来客数も大きくは変わらないとみている。
		スーパー（企画担当）	・可処分所得が増えたと実感できれば景気も良くなるとみている。高齢化が進む地域では食品の消費が減少するため、食品小売業の売上も減少している。景気対策だけでなく少子化対策も早急な対応が必要である。
		スーパー（営業担当）	・米不足による米の異常な売上は新米が出回れば通常に戻るため、全体の売上は厳しくなるとみている。
		スーパー（商品担当）	・食費の節約傾向は続くとみている。
		コンビニ（経営者）	・人の動きが鈍くなっていることに加え、建設業関係の仕事が徐々に減ってきたことで客も減っている。景気が回復する兆しはみられない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（経営者）	・最低賃金の引上げが予定されているが、大きな変化は見込めない。
		コンビニ（経営者）	・景気は余り変わらないとみている。
		衣料品専門店（経営者）	・異常気象の影響もあり、個人消費の抑制は継続するとみている。
		衣料品専門店（店長）	・為替の急激な変動がない限り、現状の消費動向が極端に変わることはないとみている。
		衣料品専門店（総務担当）	・生活必需品が優先され、趣味やし好品に近い商品の販売不振は続いている。客の様子からも購買意欲が高まっているようにはみえない。
		家電量販店（従業員）	・食品などの値上がり落ち着いているため、売上も前年並みになるとみている。
		家電量販店（従業員）	・10月、11月は新製品の発売が多く、表示価格が全体的に高く感じられる時期である。また、9月の上期決算セールの後でもあるため、気温が低下し冬物商材が売れてこない限り、景気が大きく変化することはない。
		乗用車販売店（従業員）	・個人客の商談がなかなか発生しないため、今後も販売台数は伸びないとみている。
		乗用車販売店（従業員）	・メーカーから出荷量を増やす話がきているが、時期がはっきりしない。
		乗用車販売店（店長）	・新型車の発表を控えているが、通常と比べて顧客からは良い反応がみられない。為替の影響が少なくなるまでは我慢が必要とみている。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・為替相場が変動してコストが下がっても、燃料油価格激変緩和補助金があるため現状の高い販売価格は変わらない。販売量の回復は見込めない。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・各油種共に販売量が増加する要因がない。しばらく変化はないとみている。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・12月の商戦にターゲットを定めるため、10月、11月は前年並みを維持するショップが多い。
		一般レストラン（経営者）	・予約状況を見ても、例年秋口に入ってくるパーティー需要などが少ない。この状況がしばらく続くのではないかと懸念している。
		一般レストラン（経営者）	・暑さが落ち着けば、少しずつ予約が増えるかとみている。
		観光型ホテル（スタッフ）	・余り変わらないとみている。
		観光型ホテル（スタッフ）	・景気が上向く要素がない。
		観光型旅館（経営者）	・繁忙期になるため期待したいが、特別な好転要素もないため例年並みとみている。
		観光型旅館（スタッフ）	・値上げラッシュは落ち着いているが、給与のアップが大企業でしか行われていないため、景気が良くなるとは考えられない。
		旅行代理店（従業員）	・猛暑とパリオリンピック開催により旅行需要は停滞していたため、反動による秋季需要での巻き返しに期待している。特に首都圏方面への旅行は猛暑の懸念で大きく数値を落としたことから、10月以降、屋外大型レジャー施設などの需要回復に期待している。
		旅行代理店（従業員）	・要員不足で受付できない状況が続いている。円安や物価高による買い控えも続いている。
		通信会社（営業担当）	・大きく好転する材料に乏しく、現状維持とみている。
		通信会社（営業担当）	・良くなる材料が乏しい反面、悪くなる材料も出尽くしている。
		通信会社（営業担当）	・物価高の影響が続くとみている。
		通信会社（社会貢献担当）	・新製品が発売される予定だが、製品のスペック次第では良くなる可能性がある。
		観光名所（職員）	・前月の水害からの復旧作業は着々と進んでいる。しかし、予約数も増えず、振り客の数も前年を割っている。客は近づいていいのか判断に迷っている。東日本大震災のときと同様に、復旧しても客が戻らない状況になるのではないかとみている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		競艇場（職員）	・イベントを実施しても結果につながらない。現在は常連客でもっており、新規客が増える見込みもないため、現状維持が精一杯である。
		美容室（経営者）	・物価高や異常気象などで先行きに不透明感があり、消費動向に警戒感がみられる。収入の増加が消費拡大につながっていない。
		美容室（経営者）	・客との会話から、積極的に活動したい気持ちと、物価高で支出を抑える必要があるという気持ちの両方がうかがえる。
		その他サービス〔寮管理〕（管理人）	・定額減税の効果もみられず、社会保険料等は増えている。消費者は物価高にも節約生活にも慣れてきており、変わらないとみている。
		住宅販売会社（経営者）	・住宅販売についてはローコスト住宅を中心に展開する予定である。
		その他住宅〔リフォーム〕（従業員）	・住宅設備機器は補助金を活用する省エネ型給湯器の問合せが増えるともみている。リフォームは暑さが落ち着くのに伴い、工事の問合せが増えるともみている。
		商店街（代表者）	・気温の高い日が続き年配の客はほとんど外に出てこないが、2～3か月後は気温も落ち着き、多少は改善するとみている。しかし、消費は一段と落ち込む雰囲気がある。
		商店街（代表者）	・紅葉シーズンを迎えるまでは一旦落ち着くとみている。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・10月からの値上げの案内が多くきている。消費者の購買意欲を更に低下させるのではないかと心配している。
		一般小売店〔寝具〕（経営者）	・まだまだ暑さは続くため商品の入替えができない。仕立ての予約もない。
		百貨店（経営者）	・インバウンドや富裕層のシェアが元々高くないなかで消費は一巡し、高額商品の売行きは少しずつ失速するとみている。それをカバーする勢いのある分野の商品がない。
		スーパー（店長）	・来客数が減少しており、景気が回復する要因も見当たらない。
		スーパー（企画担当）	・現在は米不足の影響による米の販売量増加が売上を押し上げており前年を少し上回る状況だが、来月はその反動で米の売上が下がるとみている。物価上昇による買い控えは続くともみている。
		コンビニ（経営者）	・客足が伸び悩んでいる。1人当たりの購買点数も97%と前年を割っている。客単価は前年比100%で推移しているが、今後に期待は持てない。
		コンビニ（経営者）	・今年は台風や雨が多く、来客数が伸びていない。今後も台風が多く発生すると予想され、来客数の動きは鈍くなるとみている。
		コンビニ（経営者）	・10月に最低賃金の大幅アップが予定されており、ますます経営が厳しくなる。
		コンビニ（エリア担当）	・物価上昇に伴う買い控えに加え、天候が安定しないことも予想され、来客数の増加は期待できない。
		コンビニ（エリア担当）	・値上げにより消費者の購買意欲が落ちている。また、天候不順が続けば行楽や旅行に行く人も少なくなることが予想される。
		衣料品専門店（経営者）	・猛暑や台風による米や野菜の作柄への影響を心配している。また、客が外出を控えることによる売上の減少も心配である。
		住関連専門店（インテリアコーディネーター）	・年末に向けてまた値上げが予想され、客の様子からも出費を抑える傾向は続くともみている。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・現状維持とみている。物価の上昇に加え、米の大幅な値上げの影響も出てくると考えられる。
		その他専門店〔白衣・ユニフォーム〕（経営者）	・この先、労働力人口が減少していくなか、狭い地域内でのパイの奪い合いは一層厳しくなるとみている。革新的なアイデアを打ち出していかなければ淘汰されるのではないかと危惧している。
		その他専門店〔靴〕（従業員）	・涼を求めてきた客で、ショッピングセンター内店舗の売上が上がっている状況は一過性のものである。気温が落ち着けばやや悪くなるとみている。
		高級レストラン（支配人）	・予約状況からみて、11月末までは良いとはいえない状況である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般レストラン（経営者）	・地震の不安や台風などの悪天候で、客が外出を控えることが予想されるため、やや悪くなるとみている。
		一般レストラン（スタッフ）	・ディナーの来客数は通常50人くらいだが、その半分ほどしか入らない日が2～3日に1回ある。
		タクシー運転手	・2～3か月後は大きなイベントや行事が少なく、気温も涼しくなるため、利用客が少なくなるとみている。
		テーマパーク（職員）	・客の購買行動が節約志向になっている。
		遊園地（経営者）	・物価上昇に対し、賃金上昇の勢いが弱い。家計への影響が続くとみている。
		その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	・金利の引上げは少し早すぎたのではないかとみている。景気が停滞することを危惧している。
	×	スーパー（経営者）	・10月に最低賃金が引き上げられても、物価の上昇をカバーするには至らず、節約志向は一層厳しくなるとみている。
	×	コンビニ（経営者）	・消耗品などが値上がりし、ただでさえ厳しい経営状況が続いているなか、最低賃金が引き上げられると経営は一層厳しくなる。冬場は例年赤字なので、借金をしてまでやり続ける意味があるのか毎日悩んでいる。多くのオーナーが辞めることになるのではないかとみている。
	×	衣料品専門店（店長）	・猛暑にもかかわらず来客数が減少傾向にあるため、9月10月の来客数も期待できない。
×	一般レストラン（経営者）	・今後も人件費や物価の上昇は避けられず、飲食店はそれを加味した価格設定にしないと経営が難しくなる。一部の業種だけが潤っても景気は活性化しない。物価の上昇に消費者の収入が追いついて家計に余裕が生まれ、消費活動が活発化するのとは当分先とみている。それまでは生活に必要な物だけ購入する状況は続くため、景気が悪い状態は継続するとみている。	
企業 動向 関連 (東北)		-	-
		食料品製造業（製造担当）	・不足しているスタッフの確保が課題である。
		一般機械器具製造業（経営者）	・車載向け電装部品の受注見込み量がやや増えてきている。
		電気機械器具製造業（企画担当）	・取引先の状況を見ると、DRAMに関しては本格的な開発競争と設備投資の動きが出てきており、良い方向に進むとみている。
		建設業（従業員）	・商談物件が出てきている。今後も堅調な受注が見込まれる。
		建設業（従業員）	・目標案件の受注見通しが立っている。
		司法書士	・20代前半で40年以上の長期住宅ローンを組んで住宅を取得する人が増えている。金利上昇前の駆け込み需要が見込まれる。
		その他非製造業〔食料品卸売業〕（経営者）	・秋の観光シーズンに入る。
		食料品製造業（経営者）	・原材料価格の上昇を含め、値上がりが続くため、利益の面でも更に厳しくなる。
		食料品製造業（営業担当）	・新商品を発売しても、販売不振による販売量の減少を補うことができていない。厳しい状態は当面続くとみている。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・デジタル化の流れ、物価高騰による緊縮、節約の影響は続く。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・構造的な変革がない限り、地方経済の将来の景気は見通せない。
		金属製品製造業（経営者）	・株価は持ち直してきたが、依然として米国の景気後退の懸念がある。
		一般機械器具製造業（経営者）	・8月は長期休暇があったため引き合い件数が少なく、2～3か月先の状況は余り変わらないとみている。仕事量が増えるのは年明けから春先以降とみる客先が多い。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・当面は現状維持とみている。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・一部事業の伸びは期待できるが、動きが良くないデバイス関連事業は期待できない。
		建設業（従業員）	・資材価格の高騰も続いているため、変わらない。
	建設業（従業員）	・現在の好景気が2～3か月で変わることはないかとみている。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		輸送業（経営者）	・機械装置製造業の取引先の輸出相手国は中国が多いが、中国経済の落ち込みでキャンセルが発生し当初計画より50%減少している。また、物価高騰により荷動きが悪い状況が続いている。最近の円高傾向が物価高騰に良い影響を与えることを期待したい。
		通信業（営業担当）	・客の反応が冷え込んでいる。顧客との関係性を強めていく。
		通信業（営業担当）	・取引先や競合他社の様子をみても変化の兆しはなく、この先も低迷した状態が続く。
		広告業協会（役員）	・物価高騰の沈静化が突破口の1つになるとみているが、広告業界の厳しい状況はしばらく続く見込みである。
		広告代理店（経営者）	・経営上、広告投資の判断は遅めになることが多い。現状に余り変化がないため、3か月後も変わらないとみている。
		経営コンサルタント 公認会計士	・政権政党新総裁の景気対策に注目している。 ・製造業関係の人手不足、部品不足等が解消し売上が上がれば、全体の景気も良くなるが、現時点では難しい。したがって、2～3か月先の景気は現状と変わらないとみている。
		その他企業〔企画業〕 （経営者）	・稼ぎ時である週末の天候が悪く、客足が遠のいている。秋に向けてばん回を期待したいが天候次第であり、それが当地域の弱点でもある。
		その他企業〔協同組合〕 （職員）	・明るい材料も暗い材料も見当たらないため、変わらないとみている。
		農林水産業（従業者）	・天候不順や猛暑が、これから稲刈りを迎える米の収穫量や品質に悪影響を与えることを懸念している。
		農林水産業（従業者）	・桃のシーズンが終わり、りんごのシーズンになるが、今年は台風が多く、収穫量に影響が出る可能性がある。
		金融業（広報担当）	・秋に収穫される1次産品の不作が懸念される。また、物価高が企業の収益面に引き続き影響を与えることは避けられない。
		コピーサービス業（従業員）	・仕入価格や配送料の値上がりがあり価格転嫁を検討しているが、値上げに応じない取引先も出てくること予想される。
		×	窯業・土石製品製造業 （職員）
雇用 関連 (東北)		-	-
		*	*
		人材派遣会社（経営者）	・飲食業や建設業で原材料価格の高騰による利益圧迫の懸念は若干あるものの、人材の需要は多くあるため、景気のやや良い状況は継続するとみている。
		人材派遣会社（社員）	・求人数は増加傾向にあるが、企業側の書類通過率は下がり続けている。ある程度のレベルの採用要件で人材を採用する状況は続くとみている。
		人材派遣会社（社員）	・求人の動きが停滞している。特に製造業で動きがない。インバウンド需要など一部で動きはあるが、一部の業種に限られる。
		新聞社〔求人広告〕 （経営者）	・政治情勢も国際情勢も不安定な状況が続いているため、先の状況を見通せない。せめて現状は維持したい。
		新聞社〔求人広告〕 （経営者）	・物価高や為替の動向次第である。先が見えない。
		新聞社〔求人広告〕 （担当者）	・好材料も乏しく、現状維持がしばらく続くとみている。
		職業安定所（職員）	・人手不足により活発な求人活動を継続している企業がある一方で、燃料費や原材料費、人件費の増加により収益が上がらない企業が増加している。この状況は続くとみている。
		職業安定所（職員）	・市街地の人流活性化により、サービス業関係は好調維持が見込まれるが、建設業、製造業に景気回復がみられなければ変わらない。
		職業安定所（職員）	・新規求人、新規求職の動きに劇的な変化はみられない。
		学校〔専門学校〕	・景気を左右する要素が見当たらないため、現状維持とみている。
		人材派遣会社（社員）	・求人数、求職者数共に減少傾向にあり、やや悪くなるとみている。
	職業安定所（職員）	・最低賃金の引上げにより、人件費の問題が発生するとみている。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・ 今後は会社都合による解雇者数の増加が見込まれる。
		民間職業紹介機関（職員）	・ 周辺企業の増産による人材募集は年内で終わるため、3か月先はやや悪くなると予想している。
	×	アウトソーシング企業（経営者）	・ 10月には最低賃金も上がり経費は増える一方だが、その分を価格に転嫁できない。

3. 北関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連		都市型ホテル（支配人）	・ 宿泊、料飲部門共に、年内は高稼働で受注できている。
		旅行代理店（経営者）	・ 今まで停止していた行事や忘年会等も復活の兆しがある。
(北関東)		一般小売店〔土産〕（経営者）	・ 酷暑にもかかわらず、8月の販売量は前年より若干良い状況である。2～3か月先は天候も安定する季節なので、酷暑で外出を控えた顧客層の外出が増えると予想される。また、8月の来店客の購買状況をみていると、友人や職場等、知り合いへの土産を購入する人が多いため、先の景気はやや良くなる。
		スーパー（総務担当）	・ 現状の推移でいけば、まだまだ良くなる。
		コンビニ（エリア担当）	・ 前月より客は多い。お盆時期や台風接近にもかかわらず月末も調子が良く、来客数が増加している。
		コンビニ（エリア担当）	・ 台風等の天候次第だが、観光やビジネスの利用客は見込める。引き続き堅調な食料品を基礎に、ギフト商材の販売が期待できるのではないかと。
		コンビニ（店長）	・ 最低賃金上がるため、買上点数や単価も上がってくるとみており、やや良くなる。
		一般レストラン〔居酒屋〕（経営者）	・ 問合せでは団体客も増加傾向で、順調にいけば上向きになるとみている。
		一般レストラン（経営者）	・ 涼しくなって米の供給も安定してくれば、安心感も出て多少は動くのではないかと。
		その他飲食〔ファーストフード〕（経営者）	・ 当社が取り扱う商材にも関係するが、夏場に値上げを実施し、新価格が定着しつつある。寒い季節は売上が伸びるため、例年同様ならばやや良くなる。
		旅行代理店（所長）	・ 秋の紅葉を目的とする来訪者数増加に期待したい。今後の台風の襲来が、紅葉の良しあしに影響するところではある。
		旅行代理店（従業員）	・ 単価は上がっているため、全体的な需要の取り込みが増えれば良くなる。
		タクシー（経営者）	・ 暑さが遠のけば人の動きも良くなる。
		通信会社（総務担当）	・ 例年の来客傾向どおりなら、この先は毎月の平均よりも増加する見通しである。
		商店街（代表者）	・ 今年の夏は猛暑日が続く大変苦勞していたので、気温が下がって過ごしやすくなる秋のレジャーへの関心が高まっている。しかし、物価の上昇が続けば、先行きは懸念される。
		一般小売店〔精肉〕（経営者）	・ 新米が出回ってくれば米の騒動も落ち着いてくるのではないかと。副菜の生鮮食品は値下がりが見込みはない。光熱費等の政府による補助金があるのは有り難い。回復の兆しはまだみえない。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	・ しばらくは現状維持ではないかと。
		百貨店（営業担当）	・ 外出機会の拡大に伴う関連商材の動きは期待できるものの、円安傾向、物価高であることに変わりはなく、生活防衛意識は依然高い状態が続くとみている。
		百貨店（営業担当）	・ 値上げや天候により生産量や納品量は変化すると思うが、今のところ、客のモチベーションが大きく変わる要因について、日々の現場からの情報はない。引き続き堅調な推移をするとみている。
	百貨店（店長）	・ この先も同様の傾向で推移する。	
	コンビニ（店長）	・ 特に変化があるとは考えられない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		衣料品専門店（販売担当）	・これから婦人服は秋物がスタートするが、長期予報で相当に暑い日が続くという話もある。変わる可能性もあるが、自然に涼しくなってくれば、客も秋物を求めて出てくる可能性はある。ただし、残念ながら良くなる確たる要素が見当たらないため、ずっと変わらず、悪さだけが続いていくのではないかと。
		家電量販店（店員）	・商品値上げが継続しているため、単価が押し上がると予想する。
		家電量販店（営業担当）	・夏物商材の動きが悪く、消化し切れない状況である。前年比では季節商材は85%、白物家電90%、黒物家電が88%と全体でも92%で推移している。
		乗用車販売店（経営者）	・当地域の自動車メーカーの生産は正常に機能しており、円高傾向の兆しとはいうものの、輸出は安定している。まだ想定範囲内だとみられる。
		自動車備品販売店（経営者）	・当店の顧客は比較的高齢者が多い。将来の不安があるため、高齢者は安心してお金を使えないという話を聞いており、実際のお金の使い方でも十分に感じられる。その辺りの信頼性や安心感があれば、景気は大きく良い方向にいくだろうが、今のところ、良くも悪くもなる材料が余りない。
		住関連専門店（店長）	・来客数は横ばいで、値上げトレンドは依然としてあるため、景気が上向く要因はない。
		住関連専門店（仕入担当）	・来客数減少を単価上昇で補ってきたが、単価の上昇も一段落し、マイナス要因だけが残っている。
		その他専門店（総務担当）	・客からの問合せが少ない状況は変わらない。
		一般レストラン〔居酒屋〕（経営者）	・特段大きな材料が見当たらないため、現状維持と予測する。
		都市型ホテル（スタッフ）	・8月は企業や団体の動きが余り期待できない上に、新型コロナウイルス感染症の再流行や猛暑が重なり、レストランや料飲部門の伸びが非常に鈍い。あわせて、宴会売上も前年は新型コロナウイルス感染症の5類移行の影響で、ある程度の売上を確保できていたが、今年は個人的な集まりの宴席も少ない印象を受けている。宿泊だけはビジネスとプライベート利用がうまく確保できて、堅調な売上を出している。
		旅行代理店（営業担当）	・物価上昇もあり、補助金等の話題もないため、前年と変わらない動きと予想している。
		通信会社（経営者）	・円安が止まったことで先行き不安がやや薄れた感はある。今のところ、仕入コストが下がってきているとはいえない。当地では繁華街に新しい店舗ができて、ほとんど1年ほどで閉店してしまう。厳しい状況は何も変わらない。
		通信会社（社員）	・2～3か月先では、変わらない。
		通信会社（営業担当）	・ウクライナや中東情勢の状況悪化により、物価、光熱費、石油価格等への影響が改善しない限り物価高は続くため、改善には至らない。
		テーマパーク（職員）	・秋の行楽シーズンも夏同様の期待をするが、台風や残暑等の外部要因の影響が懸念されるため、現状維持とみている。
		ゴルフ場（従業員）	・予約状況は前年と比べてプラスの進捗ではある。これからトップシーズンになるため期待したい。
		その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	・現状では一旦落ち着いているものの、改善の兆しはみられない。
		設計事務所（所長）	・今後の政権政党総裁選挙の結果にもよる、経済政策がどのようになっていくのか分からないが、景気上昇を願っている。
		住宅販売会社（経営者）	・住宅ローン等の金利が上昇し、マスコミ等でいろいろと騒がれると駆け込み需要があるかもしれないが、なかなか動きを誘発する要因が少なく、現状維持の状態が少し続くかとみている。
		その他住宅〔住宅管理・リフォーム〕（営業）	・必要に迫られた内容の修繕やリフォーム案件が多い。また、コスト重視の様子に変わりはなく、今後も同様の状況が続くとみている。
		百貨店（店長）	・今の状況が落ち着けば元に戻る印象を受けるものの、余り楽観はしない方がよいのではないかと感じている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		スーパー（商品部担当）	・近隣商圏内にドラッグストアの新規オープンが控えていることや食材や食品の値上げが止まらず、ますます厳しい状況になる。	
		乗用車販売店（従業員）	・受注が減少し、受注残も減少傾向のため、登録台数も減少傾向になっている。	
		一般レストラン（経営者）	・夏の異常気象の影響が出るのではないかと。	
		その他飲食〔給食・レストラン〕（総務）	・給食に必須の米が品薄で、量を確保するためには、単価の大幅値上げが前提となる。人件費も最低賃金が50円上がる影響は大きく、当面収支が圧迫される状況が続くものとみられる。	
		観光型ホテル（経営者）	・インバウンドは横ばいで推移するかもしれないが、国内旅行需要は上向かない。	
		都市型ホテル（経営者）	・新型コロナウイルス感染症第11波の影響がある。	
		タクシー運転手	・地方の景気は悪く、昼夜問わず街を歩いている人がいない。	
		通信会社（局長）	・現状の値上げには慣れを感じ始めているものの、今後の更なる値上げには、購買意欲が下がり節約意識が高くなると考える。	
		ゴルフ練習場（経営者）	・今後も商材価格の上昇により、厳しくなる。	
		美容室（経営者）	・物価高に加え、公共料金の値上げが経営を圧迫している。	
		×	一般小売店〔家電〕（経営者）	・地方では賃上げは夢物語のようになっており、これでは景気が上向くわけがない。販売に関してもこれ以上良くなることは見込めない。
		×	コンビニ（経営者）	・コンビニ業界は夏場の売上が高いため、この先は悪くなる。
企業 動向 関連 (北関東)		-	-	
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・今年の夏は暑かったが、これからは涼しくなるため商材が動くようになる。	
		一般機械器具製造業（経営者）	・在庫調整のため1年ほど低迷していたロボット関連の仕事が、徐々に戻ってくる見込みである。	
		金融業（営業担当）	・金利のある世界への移行に伴い、景気は上振れる。	
		経営コンサルタント	・農産物の収穫期を迎え、行楽シーズンにも当たるため、関連の季節需要に期待を寄せている。地域企業では秋以降の季節需要や小さな型式変更等に伴う需要が顕在化する兆しもあり、受注や生産等の業績回復が多少見込める。	
		窯業・土石製品製造業（総務担当）	・危機的猛暑のなか、熱中症に注意しながら稼働している。	
		一般機械器具製造業（経営者）	・景気回復につながるような話題も見当たらず、円安が続く限り景気は上向きにならないとみている。	
		電気機械器具製造業（経営者）	・今が底で、上がっていくような感じはみられない。このまま低空飛行が続くのではないかと。	
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・ここ2～3か月は、取引先に受注価格等を上げてもらって、若干良くなったものの、2～3か月先はまるで様子が変わらず不透明である。	
		その他製造業〔消防用品〕（営業担当）	・物価高の状況等もいまだ続いているため、変わらない。	
		輸送業（営業担当）	・残暑が続いており、本来の秋冬商材が動き出す時期だが、寝具、エアコン、こたつ、ヒーター等の輸送が少し出遅れている。しかしその分、飲料水やお茶等の輸送量が順調で、前年並みの物量は確保できそうである。ただし、ドライバーの労働時間規制により、関西や遠方への車両確保が厳しく、割高にもなっており、利益は薄くなりそうである。	
		不動産業（管理担当）	・今後も請負金額の引上げを予定しているため、増収見込みではあるが、最低賃金の引上げも予定されており、人件費は増加予定のため、利益はさほど上がらない。	
	司法書士	・当事務所としては十分な仕事量で、1年以上推移している。ただし、今後これ以上に良くなるということは多分ないのではないかと。		
	社会保険労務士	・現状と変わらないと思うが、政権政党の新総裁が明るい未来像を描いてくれれば、変わるかもしれない。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	x	その他サービス業〔情報サービス〕（経営者）	・商談件数、受注件数共に特段の変化はみられず、順調に推移している。
		化学工業（管理担当）	・受注件数及び受注量が減少している。
		金属製品製造業（経営者）	・受注見通しの鈍化で、やや悪くなる。
		輸送用機械器具製造業（総務担当）	・主要取引先の生産が安定せず、先の見通しが立たない状況が続いている。物価が上昇しているものの、賃金がなかなか上がらないため、自動車等の高価な物を買ひ控える傾向があり、生産しても売れない。悪循環が続いている。
		建設業（総務担当）	・仕事量もなく、厳しい状況が続くそうである。
		電気機械器具製造業（経営者）	・中国の不動産景気が悪化していることや家電の売行きが悪く、景気は悪化している。
雇用関連		-	-
(北関東)	x	人材派遣会社（社員）	・仕事柄、ホテル、物販、物産等、納入業者といった観光関係の方と接することが多い。来月後半にはまた紅葉の時期となり、かなり観光客が来る。ホテルの稼働率も横ばいか前年よりは高くなっているとのことである。
		人材派遣会社（社員）	・専門スキルが不要なポジションは、顧客先の自社採用ですぐに充足できる。専門性を必要とするポジションは、人材会社を活用しても採用要件を満たす人材の応募が不足している。しかし、採用基準を下げたまま採用するほどの切迫感はない。
		人材派遣会社（管理担当）	・派遣の増員と減員の予定があるものの、トータルでは変わらない。
		職業安定所（職員）	・主要産業の新規求人数の前年同月比について、医療や福祉、卸、小売、サービス業については増減を繰り返しているが、建設業は減少傾向が続いている。
		学校〔専門学校〕（副校長）	・特に景気が大きく変わる要因が見当たらない。
		人材派遣会社（経営者）	・今年はかなり猛暑ということや台風等も多く、農作物、米、果実といった作物を作っているところで天候不良等による不作が見受けられる。依然として、生産面では生産調整もあったり、輸出関連は良いものの、内需に向けての自動車関連、電気、電子、住宅資材の一部には、改良等の製品も出てきている。
	x	-	-

4. 南関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (南関東)		衣料品専門店（経営者）	・信じて進むしかない。
		一般レストラン（経営者）	・景気自体は良くなっていく（東京都）。
		ゴルフ場（経営者）	・年末年始に突入することと、コロナ禍も少しは収まっていると予測している。
		ゴルフ場（経営者）	・秋になり天候が落ち着いていれば集客増が期待できるが、7～8月の猛暑の影響で芝が枯れてきているため、これ以上芝が駄目になるのであれば、秋までに回復するのは難しく、一部施設をクローズさせなくてはならない。そうなると集客面でも影響が出る可能性がある。
		一般小売店〔家電〕（経理担当）	・来客数は減っているが、エアコンや住宅設備関連の問合せが増えてきている。
		一般小売店〔文房具〕（経営者）	・秋に向けて開催される地域のイベントも新型コロナウイルス感染症発生前の規模に戻り、多くの来街者が見込まれる。来街者数の増加により当店の売上も上向きになる（東京都）。
		一般小売店〔眼鏡〕（経営者）	・今が良くないため、3か月後は売上が伸びていることを期待している。
		一般小売店〔生花〕（店員）	・今月が最低だったので、何とかしのいで頑張ってきた。今月より少しは良くなるのではないかと（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（売場主任）	・10月に入ればおせちやクリスマスケーキ受注がスタートするため、年末商戦に向けて来客数増加も見込める（東京都）。
		百貨店（総務担当）	・改装工事が終了し、来客数の増加が見込める。
		百貨店（財務担当）	・今月のインパウンドの減少は円高による一過性の影響と捉えており、今後の回復が景気を押し上げる（東京都）。
		コンビニ（エリア担当）	・現状が続けばそれなりに良くなる。
		コンビニ（商品開発担当）	・天災等がなければ徐々に上向いてくると期待している（東京都）。
		衣料品専門店（店長）	・着物事業の浴衣購入客がリピーターとなり、今後の売上アップにつながる。また、ドレス事業では、EC展開で計画比111%と好調な新作商品を店舗に投入することにより、店舗売上の向上を見込んでいる（東京都）。
		衣料品専門店（統括）	・気温、気候にもよるが、平年並みの気温に低下していけば、来客数が伸び、売上も回復する。
		家電量販店（店長）	・GDPの数値が良い影響になる。米国大統領選挙など世界情勢も考えなければならないが、国内においては徐々に景気回復傾向にある。
		家電量販店（店長）	・訪日旅行者数は今後も伸びると考えており、ネガティブな市場予測もない（東京都）。
		乗用車販売店（経営者）	・新型車が発表されて受注が増加し、販売量も増加する。
		乗用車販売店（経営者）	・為替や株価が落ち着くことを期待している（東京都）。
		乗用車販売店（営業担当）	・来月から決算が始まるため、期待を含めて上がるとみている。
		乗用車販売店（総務担当）	・需要月は買換えサイクルでもあり、客の動きが活発になると予想している。
		その他専門店〔貴金属〕（統括）	・高価格帯の商材の販売が増加していることから、身の回りの景気は良くなる（東京都）。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・政治の動向で経済活性化が図られると見込んでいる。
		高級レストラン（仕入担当）	・新型コロナウイルス感染症あるいは政治、国際情勢においてネガティブな要因がなければ、経済循環は以前にも増して良い方向へ動いているため、景気は上昇方向に動く（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	・例年、2～3か月先の10月、11月は、8月よりは売上が増加する。ケータリングも9月から11月は復活して伸びてくるため、2～3か月先の景気はやや良くなる。
		その他飲食〔カフェ〕（経営者）	・当社だけでみると、観光地の店舗は10%上昇している。都内の店舗については猛暑のため20%悪くなっている。これからは暑さも落ち着き、良くなっていく。7～8月の東京の暑さはひどく、東京から避難できるような対策がとれたら、クーラーによる電気使用量の削減、熱中症対策、地球の健康にもつながるような気がする（東京都）。
		旅行代理店（従業員）	・秋の繁忙期を前に、打合せなど旅行前の準備及び実施が増える。
		通信会社（経営企画担当）	・10月以降、案件の動きが多くなる予想である（東京都）。
		通信会社（営業担当）	・米国大統領選挙、政権政党総裁選挙の先行きによってどのようになるかを注視している（東京都）。
		通信会社（営業担当）	・獲得数が伸び、解約数が抑えられている（東京都）。
		ゴルフ場（経営者）	・暖かい秋になる予報のため、来場者数は微増する予想だが、台風の発生状況が気掛かりである。
		ゴルフ場（経理担当）	・3か月後はトップシーズンでもあり、天候によるマイナス要因は限定的とみられるが、素材、エネルギー価格の高止まりや、業務要員不足の長期化などの構造的問題は、解決の見通しが立たず、固定費の回収に苦慮する環境は変わらない。価格転嫁も容易ではなく、利益を創出できるような状況ではない。最低賃金の大幅な引上げも予想され、今後も人件費増加に加え物価上昇圧力は続くと考えており、景気改善の足かせとなることは不可避である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他レジャー施設 [ボウリング場] (支配人)	・一気に増加はしないが、企業の予約、コンペが徐々に上向いていく(東京都)。
		その他レジャー施設 [ボウリング場] (従業員)	・企業懇親会後のボウリング利用が多く見受けられる。2次会、3次会利用の客が増えてきている。飲食を含めた稼働も多く、客単価が上がっている(東京都)。
		その他レジャー施設 [複合文化施設] (財務担当)	・政権政党の総裁選挙による刷新感からやや良くなる(東京都)。
		その他サービス[学習塾] (経営者)	・夏の新規の問合せ件数がここ数年よりは少し増えたため、今後に期待したい。
		設計事務所(経営者)	・新しい案件があるということは、次の仕事を仕込んでいるということである。
		設計事務所(経営者)	・来月、新規案件受注の可能性があるので、多少の期待を込めて良くなる方向に推移すると考えている。
		住宅販売会社(経営者)	・当社はホテルも扱っているが、国内ホテルの宿泊料金は月に2%以上上昇しつつあり、ホテル業界は良くなる。しかし、中小企業はまだ厳しい環境のなかにあり、賃上げができない。政府には中小企業への景気対策を是非お願いしたい。
		商店街(代表者)	・とにかく猛暑で消費者の外出や買物意欲が減退してしまっている。天候なので文句もいえないが、商売が思うようにいっていない。何とか頑張りたいが、早く涼しくなることを期待している。
		商店街(代表者)	・リベンジコロナ消費はまだまだ堅調である。この流れはしばらく続く様相で、急降下は考えにくい。ただし、株価の乱高下や金融政策に対する市場の過剰な反応があったときは、意外と時間差で消費に響いてくる。米国大統領選挙や政権政党の総裁選挙など、市場に大きなインパクトがあると富裕層は影響を受けるため、リスクがないわけではない(東京都)。
		一般小売店[家電] (経理担当)	・補助金絡みの工事の提案が通ってきているため、それらの工事が入る予定である。
		一般小売店[家具] (経営者)	・今のところ家具業界がこの先良くなる要素は見当たらない。政権政党総裁選挙等がある世の中が多少変化してくれば幾らか良くなっていくのではないかと期待はあるが、変わらない(東京都)。
		一般小売店[印章] (経営者)	・昔から変わらないが、点在型商店街にある独立店舗のため、わざわざ当店で足を向けてくれる客は非常に少なく、立地的な面と天候の影響がある。印鑑需要も落ちているため、低迷している。
		一般小売店[祭用品] (経営者)	・秋に向けて祭事が続くことを期待している。
		一般小売店[米穀] (経営者)	・消費者物価指数が上がり気味の上に金利も上昇するため、客が若干慎重になっている(東京都)。
		一般小売店[傘](店長)	・残暑が厳しく、まだ夏物の需要があるとみている。現状が継続しそうである。
		一般小売店[文具] (販売企画担当)	・売上を上げるために様々な企業努力をしている。ただし、外的要因として、物価上昇により安価な物を買ってくる客が徐々に少なくなり、逆に高くても良い物を買う客のみが来ている。外商の案件においても同様に、ある程度予算があるところではしっかりもらえるが、予算のないところでは駄目ということで、客の中で余りにもメリハリが付いているのかという様子である。
		一般小売店[茶](営業担当)	・当社の扱っている商材は特別にこの時期に売れるというものではない。新規注文が増えればよいが、競合が多いためなかなか増えない(東京都)。
		一般小売店[書店] (総務担当)	・物価高が続いているため、今後も消費者の買い控え傾向は継続する。消費者が満足できるレベルの無料サービスが増え、世の中の動向としても情報を無料で公開する動きが活発化しているため、消費が増える要素を見つけることが困難である(東京都)。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（総務担当）	・自然災害の一時的な影響を除くと、物価上昇に伴い、売上は堅調に伸びていくと推察する。円安も落ち着き始め、一時急落した株価も若干戻っていることから、当面の間は物価上昇に伴う売上増加は継続する。今後更に円高になるとインバウンドの動向が懸念されるが、当面は現状が続くとみている（東京都）。
		百貨店（総務担当）	・訪日外国人による好影響はまだあるものの、円高に振れている状況のなかでは、先行きについての予測が難しくなっている。物価上昇の懸念等が払拭されない場合は、消費の面からの景気上昇は不透明である（東京都）。
		百貨店（総務担当）	・政権政党総裁選挙の結果や株式市場の状況等、不確定要素がある（東京都）。
		百貨店（広報担当）	・インバウンド消費は円高に振れたことによる内外価格差の縮小に伴い、短期的には一定の調整が入る可能性がある。それでも中期的には売上の大半を占める国内客の高付加価値消費が下振れする材料はなく、インバウンドも当社の戦略浸透でリピーターが増えたり、訪日外国人の絶対数増加による増加に期待できる（東京都）。
		百貨店（営業担当）	・インバウンドの好調はこのまま継続すると考えるが、国内消費は改善の兆しがみえない（東京都）。
		百貨店（営業担当）	・人件費を始めとする経費の増加はまだ続いており、商品の値上げも続く。また、今夏の異常な高温の影響で、秋以降の農作物への影響も心配である（東京都）。
		百貨店（営業担当）	・現在のインバウンドは継続基調、加えて軽飲食やデイリー雑貨が好調であるため、景気の影響を受けにくく、数か月は現在のやや良い状況が続く（東京都）。
		百貨店（営業担当）	・引き続きファッション低迷、インバウンド伸長というトレンドは変わらない。猛暑や台風の影響による秋冬ファッションへの反応は鈍く、暖冬予測により冬物コートなどの展開も例年より後ろ倒しにする取引先も多い（東京都）。
		百貨店（販売促進担当）	・今後も物価上昇の影響が続くとみられ、景気は変わらない。前年は秋の気温が高い状況が続き、秋冬アイテムに影響した。今年も平年より気温が高い予想であり、影響がありそうである。
		百貨店（販売促進担当）	・4月以降継続的にみられた物価高による来客数減少が、夏休み需要以降は回復基調となっているが、ここから秋口にかけては大きなハレの日需要もなく、再び横ばいでの推移が予想される（東京都）。
		百貨店（管理担当）	・気温の高い傾向はまだ続く見込みのため、前年と同様に秋物の苦戦が予想される（東京都）。
		百貨店（店長）	・アパレル各社は秋も暑さが続くことを想定した商品計画にはなっているものの、収入が増えている実感が少ないため、必需品以外のプラスアルファの支出への期待は薄い。
		スーパー（経営者）	・やや良い状態がずっと続いているため変わらないとみているが、10月に強力な競合店ができるので、そこで落ちる可能性もある。そういう事情を除けば、この先も現状のまま変わらずにいくのではないかと。
		スーパー（経営者）	・商品単価の上昇は今後も継続し、エンゲル係数が下がる見込みはない。
		スーパー（経営者）	・競合が厳しいので、今後も予断を許さない（東京都）。
		スーパー（店長）	・円安等の影響により、価格見直しの流れが再度きている。また、米の販売についても、新米以降の供給量により品薄の傾向が続くかもしれない。
		スーパー（店長）	・消費者には節約志向が依然として根付いており、値上げの影響も大きく、必要以上に買物をしない。物価と収入とのバランスが取れるようになるまでは、同様の状態が続く（東京都）。
		スーパー（総務担当）	・災害特需は次第に落ち着く。
		スーパー（営業担当）	・単価が上がる一方で販売量が伸び悩み、相殺されてプラスマイナスゼロという状況がまだまだ続くのではないかと（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般レストラン（経営者）	・外国人観光客の増加がますます加速している。しかし、インバウンドの反動は、バブル、コロナ禍の時期と同様に大きく出るといふ声をよく耳にする（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	・3か月後も今と変わらない。物価が上昇しているが、所得は伸び悩んでいる。何か改善するとすれば、パート、アルバイトなどの年収103万円の壁を撤廃するなど、たくさん働けるようにしないといけないのではないかと。
		一般レストラン（経営者）	・景気は悪いままで、国内が上向き見込みはほぼない。当地域はインバウンドもほぼ関係なく、150年ほどの歴史では寺社仏閣も少なくそれほど人が来るとは考えられず、何をしたら経済が良くなるのかもよく分からない。
		一般レストラン（経営者）	・米大統領選挙の行方による部分が多い。次に、日本の金利政策については上げ幅とスピード次第で結果は変わる。その意味で、これから3か月は流動的だとみている。波はあるが、今後3か月の平均は直近3か月と大きく変わらないのではないかと。ただし、ウクライナとロシア、イスラエルとハマスの戦争が終われば話は変わってくる。
		その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	・9月は予約も以前と同等に入ってきているため、景気は変わらない（東京都）。
		都市型ホテル（経営者）	・夏休みの反動が9月は顕著になるとみているが、大型コンベンション施設では9月、10月と平日も大型イベントが入っているため、総体的には8月とさほど変わらない状況で推移するのではないかと。
		都市型ホテル（スタッフ）	・食材、人件費、水道光熱費など諸経費の高騰による値上げも限界にきており、販売価格がここ数年での最高値となっている。客が料金値上げに付いて来ておらず、競合他社へ流れるケースも散見される。現状をどう維持していくかが今後の課題である。
		旅行代理店（経営者）	・夏休みで子供が元気良く外を走り回ったりしているが、南海トラフ地震発生のおそれがあるとか、いつ地震がくるか分からないということ、なかなか遠くまで出掛けることはできないようである。落ち着いて生活できない状況のため、現状維持である。
		旅行代理店（従業員）	・インバウンドは好調だが、円安、物価高、天候不順などにより、国内客の消費が落ち込んでいる（東京都）。
		旅行代理店（営業担当）	・現状維持の見込みである（東京都）。
		タクシー運転手	・例年どおり暑さが和らいでタクシーの利用客も落ち着く（東京都）。
		通信会社（経営者）	・現状からみて2～3か月先に販売量及び工事等が増加傾向になるとは考えられない（東京都）。
		通信会社（社員）	・防災情報へのアクセスが増え、災害に対する意識が高まっている。為替も不安定で国内に大きなイベントもなく、米大統領選挙を控え、景気が大きく好転する材料はない（東京都）。
		通信会社（営業担当）	・今後も物価高の影響が続くなかでは、大きな回復は見通せない。
		通信会社（局長）	・特に大きな景気刺激策がみえないため、今秋は余り変化はないとみている（東京都）。
		通信会社（営業担当）	・良くなると考えられる材料がない。
		通信会社（営業担当）	・世の中が物価高になっているため、当社も値上げができないと、景気は変わらない（東京都）。
		通信会社（経理担当）	・何かひっ迫感があると、その特定の物に対してはちゅうちょなく購買しているので、お金を使うきっかけ次第である。
		通信会社（経営企画担当）	・最低賃金を引き上げても、年収130万円の壁を抜本的に見直さない限り、労働時間で調整するため、家計の収入は増加しない。景気の下支えにはなるかもしれないが、景気のベクトルが上向きとは考えられない（東京都）。
		通信会社（管理担当）	・新商材である高速通信サービスの新エリアへの投入が待たれる。エリアの展開を待つ間、競合他社との競争で販売量、顧客数維持の難易度が上がっている（東京都）。
		通信会社（管理担当）	・引き続き個人消費に伸び悩む要素があり、個人向けはこのままの状態がしばらく続くものとみている（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		観光名所（職員）	・今年度は前年度とほぼ同じ推移である（東京都）。
		競輪場（職員）	・Webの戦略が好調なので、良い数字をたたき出しており、事業的には4倍ほどの伸びを示しているが、次々に新しいものを提供しないと飽きられてしまうので、次の一手に悩むところである。景気についても、伸びていることに関して喜んでいられるほどの余裕がない。経済的に良くなっている印象はない。
		その他レジャー施設 [総合]（経営企画担当）	・3か月先も堅調に推移する見込みである（東京都）。
		その他サービス [フィットネスクラブ]（エリア統括）	・災害等が頻発しているなか、まだまだ個人消費が上がる気配がしない（東京都）。
		設計事務所（経営者）	・今、政治が不安定というか、次期総理大臣が決まっていな いだとか選挙であるとか、そういった動きは我々には関係ない ようにみえるが、地域的な営業から見ると非常にマイナス である。頑張っているところで、もっと社員数を増やすべく 努力していく。
		設計事務所（職員）	・景気回復の新たな施策に期待したいが、変わらない（東京都）。
		住宅販売会社（従業員）	・新商品を投入したものの、期待ほどは売れていない。住宅 ローン金利は急には上がらない雰囲気、需要の前倒しには ならないとみている。注文建築の受注が落ち込んでいる分、 建売分譲の販売拡大を進めているが、こちらもうまくいって いない。
		住宅販売会社（従業員）	・来場者数、資料請求数に大きな変化はない。
		住宅販売会社（従業員）	・金利は上昇傾向だが、富裕層にとって新築アパート需要は 変わらずある。
		住宅販売会社（総務担当）	・金利上昇に伴い、ついに住宅ローンの変動金利も上昇が見 込まれることから、消費が冷え込む可能性がある。
		一般小売店[酒類] （経営者）	・良くなる兆しを実感することができない。
		百貨店（営業担当）	・国内客の需要は依然として厳しく、今後も回復を見込むに は難しい状況である。インバウンドが減少するなかでは厳し くなると想定している（東京都）。
		百貨店（販売促進担当）	・直近の傾向からやや悪くなる（東京都）。
		百貨店（企画宣伝担当）	・富裕層の需要冷え込みに加え、大型店の売上をけん引して きたインバウンドもこれまでのような伸長は見込めない。
		スーパー（経営者）	・売上、点数、来客数は悪いままだが、下げ止まり感があ る。10月からの最低賃金の引上げにより、経営が圧迫され る。小規模の取引先の廃業が考えられる。
		スーパー（ネット宅配 担当）	・商圈内にディスカウントの競合店が出店するため、一時的 に売上が落ちると予測している。
		スーパー（食品担当）	・円安の抜本的な解決策が示されなければ、消費は活発にな らない（東京都）。
		コンビニ（経営者）	・来客数の減少がみられるため、このままでいくと売上の増 加はやや難しいかもしれない。
		コンビニ（経営者）	・現在、辛うじて売上に変化はないが、今後の大幅な人件費 増加に耐えられるか不安である。
		コンビニ（経営者）	・やはり値上げが響いているのではないかと。買い控えという よりも買えない状態にあるような気がする。数量も、今まで は家族分買っていたのが、2つでいいというような買い方が 見受けられる。
		コンビニ（経営者）	・チェーンストアが弱いかもしれないが、来客数が前年の 夏よりも伸びていないことを考えると、株価も含めて景気は 良くない。物価が上がっているにもかかわらず、客単価は上 がっていないため、かなり苦しい状況である。
		コンビニ（経営者）	・天候不順による農作物、米の価格高騰で悪くなる。客も安 価な商材に流れている。
		衣料品専門店（従業員）	・まだまだ値上げが続くため、客の購買行動もかなりシビア な面がある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（営業担当）	・価格の高い新車が売れず、中古車の販売台数が伸びる（東京都）。
		乗用車販売店（営業）	・生産車種が減ってきている。
		住関連専門店（統括）	・コロナ禍もまだまだ続く恐れがある。注意をしているが、なかなか収束しない。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（団体役員）	・今後は一部の中小企業においては、新型コロナウイルス感染症特別融資の返済が本格化することによる負担増加に加え、金利上昇により利益が減少する可能性がある（東京都）。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・投資活動における勝ち組、負け組がより鮮明となり、格差社会が顕著となる時代がすぐそこまで来ている（東京都）。
		高級レストラン（経理担当）	・日本及び米国の政局に変化が予見され先行きが不透明であるため、動きが停止する（東京都）。
		都市型ホテル（スタッフ）	・夏季と比べると、需要は下がる見込みである。インバウンドに期待したい。
		タクシー運転手	・今年に入ってからずっとだが、物価の上昇が止まらない。いろいろ都合があるのだろうが、我々消費者にとってはそれが最も負担になっており、景気にもかなり影響があるような厳しい生活である。
		タクシー運転手	・来月辺りから涼しくなる時期だが、ここにきてタクシーの乗り控えが少し起りそうである。物価高、米不足など、良い話はない。とはいえ、病院の送迎は高齢者の利用が多く、控えるわけにもいかない。会社、駅の利用は以前同様にやや良いが、深夜の利用は期待できない。
		タクシー運転手	・猛暑の8月が終わり、9月もこの暑さがまだ響くようなら多少の忙しさはあるが、9月になるとどうしても夏休みにお金を使った反動で利用客数が落ちる（東京都）。
		タクシー（団体役員）	・秋になり気候も安定してくれば乗客の減少が予想される。また、ウクライナ、イスラエル等の国際紛争による燃料価格高騰による経費増加が危惧される。
		通信会社（社員）	・今年度の採算ベースまではまだまだである。前年度より状況、数字の伸びが悪くなっている（東京都）。
		ゴルフ場（従業員）	・大型店の閉店があちこちから聞こえてくる。企業としては健全経営に向けた取組かもしれないが、失業者が増え、景気が良くなるものではない。
		パチンコ店（経営者）	・8月も終わり、例年夏枯れ状態が出る傾向にある。また、天候不順による季節的影響が人の動きや物価高に反映されそうである。
		その他サービス〔学習塾〕（経営者）	・今月も、生活費が大変なので安い塾に移るとはっきり述べて退塾していく生徒がいる。景気は悪くなっていく。
		その他サービス〔立体駐車場〕（経営者）	・今後はイベントがないため、今のところ売上は見込めない。
		その他サービス〔保険代理店〕（経営者）	・最近の売上からすると、徐々に購買意欲が減退している。
		設計事務所（所長）	・景気が良いのは大企業のみで、我々のような中小企業は決して良くない。これから先の景気も読めない。
		その他住宅〔住宅資材〕（営業）	・建材需要期を迎えていく時期で、ある程度大型案件などはみられるが、大小積み上げても例年並みには届かず、景気の先行きは悪い（東京都）。
		×	百貨店（販売促進担当）
	×	衣料品専門店（店長）	・価格が上昇している。物流コストも急激に増えている。
	×	一般レストラン（経営者）	・毎年9月になると来客数が落ちてきてしまう。9月の宴会の予約表を見ても激減している。出足が悪いイメージである（東京都）。
	×	その他飲食〔給食・レストラン〕（役員）	・最低賃金の改定があることに加え、材料価格の再高騰等を主因として、下期にかけて業績の悪化が予想される（東京都）。
	×	通信会社（管理担当）	・物価の上昇により販売量は横ばいとなっている。
企業動向		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・例年どおりならば10月頃から受注量が増える（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
関連 (南関東)		その他サービス業〔ソフト開発〕(従業員)	・販売価格の値上げも進んでおり、景気は回復傾向である。
		食料品製造業(経営者)	・基本的に景気が良い印象を受ける。インバウンドも増えてきており、この先も上がっていくのではないかと(東京都)。
		食料品製造業(経営者)	・秋にかけてイベント等が増えるため、イベントでの売上が期待できる。
		化学工業(総務担当)	・受注量が上向きつつある。
		一般機械器具製造業(経営者)	・秋口から取引量が増えるという取引先からの話を信じれば、やや良くなる。全く増えないとは想定していない。
		電気機械器具製造業(経営者)	・今まで余り振り向いてもらえなかった当社考案の装置が、人手不足解消の目的で徐々に引き合いが増えている(東京都)。
		輸送用機械器具製造業(総務担当)	・インフレが進行しているが、各企業が人件費アップを積極的に容認する動きがあり、景気は良い方向に循環している。
		その他製造業〔化粧品〕(営業担当)	・天候不順が影響して、サロンへの客足が遠のいている(東京都)。
		建設業(従業員)	・良くなることを期待したいが、まだまだ物価高が続いているため、不安のない安定した経済にしてほしい。
		輸送業(総務担当)	・荷主の輸出はないが、国内出荷量が繁忙期により増えており、2~3か月は現状が続く見込みである。
		金融業(従業員)	・円安にある程度歯止めがかかったこと、賃金が上がりつつあることから、景気はやや良くなる。
		広告代理店(経営者)	・涼しくなれば少し回復する(東京都)。
		税理士	・与野党ともトップの選挙があり、いろいろな政策が打ち出され、景気対策も重点施策になるとみている。また、インバウンドは引き続き景気を支える。
		その他サービス業〔ソフト開発〕(経営者)	・物価の安定が見込めそうなので、やや良くなるのではないかと(東京都)。
		その他非製造業〔商社〕(従業員)	・受注実績の推移から、やや良くなる(東京都)。
		出版・印刷・同関連産業(営業担当)	・これ以上悪くなることはないところに今いる。低いままでいくか、少し上向きになればという願いもあるが、現状のままで変わらないのではないかと。前年はインボイス制度の登録番号の特需があったが、この先、特別な需要が発生するような見込みは特にないため、変わらない(東京都)。
		化学工業(従業員)	・原材料、運送費の値上げは相変わらず続いている。先行きについては良くも悪くもならない。
		プラスチック製品製造業(経営者)	・政治と経済には関連があると思うが、これから日本の総理大臣や米国の大統領がどのような形に収まるかによって景気の流れも変わってくる。また、大きな違いはないとみているが、値上げがそろそろ来ることになっている。
		プラスチック製品製造業(経営者)	・この先、化粧品容器に関しては、中国不況の影響が苦戦は免れられそうもなく、モメンタムのある医療品容器のクライアントに期待するしかない。
		金属製品製造業(経営者)	・世界的なインフレに伴う買い控えなどにより、購買が増える可能性は低い。
		金属製品製造業(経営者)	・今のところ大型案件の予定はなく噂もないため、日銭稼ぎの細かい仕事でも受注するしかない。
		電気機械器具製造業(企画担当)	・電子部品価格の安定は継続する予想で、景気に大きな変化はない。
		精密機械器具製造業(経営者)	・半導体の受注が少し出てきているが、各社共にまだ在庫が多くあるため、しばらくは停滞が続く。
		建設業(経営者)	・明確な景気対策が実施されていない。
		建設業(経営者)	・人材確保が難しく、新たな物件の受注ができない。
		輸送業(経営者)	・輸送量が低迷を続けており、景気回復の兆しがみえないなか、現状が続くものとみている(東京都)。
		輸送業(経営者)	・円高で景気がどうなるか注視したい(東京都)。
		通信業(広報担当)	・当面は現状が続く見込みである(東京都)。
		金融業(従業員)	・小売業や卸売業の一部事業者からは、防災への意識が高まり、防災グッズがよく売れるようになった、イベント関連の受注が増えて夏から秋にかけて忙しくなりそうだという声を聞く。原材料価格の高騰や人手不足など課題もあるが、売上の面からの前向きな声が多い(東京都)。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金融業（従業員）	・円安が落ち着いているものの、原価上昇分の価格転嫁については引き続き厳しい状況である。
		金融業（営業担当）	・企業によってまちまちだが、先の受注見通しは依然として不透明な状況が継続しており、業績の大幅な改善は期待できない。現状では円安による景気好転は余りみられないが、中期的には受注の改善につながるとみる声は多い。当面は現状程度の推移が見込まれる。
		不動産業（経営者）	・5か月強空いていたテナントの入居がようやく決まった。さらに、円高、金利の上昇などもあり、良い方向にはいかないのではないかと。
		広告代理店（従業員）	・やや改善に向かう案件、要素がなくはない。しかし、見通しとして良くなるとはいえない（東京都）。
		税理士	・大企業は円安の影響でかなり利益が出ており、ボーナスなども大分上がっているようだが、中小企業は飲食店、小売業も含めて材料高、人手不足等で良くない。この先もこれらの要因で良くならないのではないかと（東京都）。
		社会保険労務士	・良くなる要因が見当たらない（東京都）。
		経営コンサルタント	・原材料高などが続くとみられ、価格にも影響があるため、現状と変わらない。
		その他サービス業〔廃棄物処理〕（経営者）	・全体的な取扱量は回復基調になると期待しているが、同業他社との競争、また、資材等の値上げが続くこともあり、当社を取り巻く環境は変わらない。
		その他サービス業〔警備〕（経営者）	・人員の増加が見込めないため、それほど変化はない。
		出版・印刷・同関連産業（所長）	・案件の引き合い自体が少なく、年末まで厳しい状況が続くと予測している。
		建設業（営業担当）	・建築単価の高騰が続いており、その関係で計画自体の数量が減少しているため、将来的に景気の上昇が見込めない。
		金融業（総務担当）	・中小企業では賃金引上げが難しく、物価上昇に追いついていないのが現状である。燃料価格も高止まりしており、人件費も高騰している。スーパーはあらゆる物が値上がりしており、客の購買品目が減っている。また、融資金利の引上げが実行されると、消費が落ち込む要因になる（東京都）。
		不動産業（総務担当）	・設備の経年劣化による補修工事が、資材の納期遅れによって先延ばしになるケースが多く、その影響で一部テナントからクレームが発生し、対応に苦慮している（東京都）。
		広告代理店（営業担当）	・秋以降の売上予測が芳しくない。これは当社だけの特徴と考えられるが、大型の広告宣伝プロモーションの件数が減っている（東京都）。
		経営コンサルタント	・仕事は増加傾向にあるものの、人材不足による問題が解決できないため、当分は下り坂である（東京都）。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（経営者）	・最低賃金の上昇が利益を圧迫する（東京都）。
	x	*	*
雇用 関連 (南関東)		人材派遣会社（営業担当）	・10月入社はまだ充足していない。11月以降に先延ばしをしてもよいという反応がきている（東京都）。
		人材派遣会社（社員）	・年末に向けて例年どおり求人数の増加が見込まれる。
		人材派遣会社（社員）	・市区町村からの業務委託が増えている（東京都）。
		求人情報誌製作会社（広報担当）	・業績が良くなると賃金も上がる可能性が高いため、景気は良くなるのではないかと（東京都）。
		人材派遣会社（経営者）	・金利の動向にもよるが、為替相場が不安定なので、景気が良くなるまでにはまだ時間が掛かる。
		人材派遣会社（社員）	・求人数について大きな動きはない。10月から最低賃金上がり、派遣社員の時給にも影響があると考えられるが、コストアップに対する人員削減はなさそうである。
		人材派遣会社（社員）	・求人数、採用者数の動きに大きな改善が見込みにくい（東京都）。
		人材派遣会社（支店長）	・派遣受注数は引き続き堅調に推移する見込みだが、派遣就業希望の人材を予定どおりに確保できず、成約数に影響している（東京都）。
		人材派遣会社（営業担当）	・忙しくしている企業が多いため、良くなってほしいが、具体的な根拠はみえていない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		求人情報製作会社（経営者）	・異常気象による農作物への影響や、まだ先の見えない為替の動き、10月1日からの最低賃金引上げにおける中小零細事業者への影響など、景気が良くなる材料は少ない（東京都）。
		求人情報誌制作会社（営業）	・人材不足といわれるが、給与が高ければ少し嫌な仕事でも就く可能性はある。賃上げができないことが、採用を生めず、仕事を受けられない事態を生み出している。ひょっとしたら、まだまだ働く元気はあるのに隙間時間だけ働く人もいる。個人の自由かもしれないが、生産性を上げなければ日本は貧しいままになってしまうのではないかと。2～3か月先に明るい未来はとも見えない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・厳しい状況だが、とにかく何とかやっていくしかないのので、日々頑張っていく。
		職業安定所（職員）	・新規求人の動きが低調であり、回復の兆しが見えない。
		職業安定所（職員）	・製造業の受注は順調だが、若者の応募が少なく、外国人の応募が増えるように求人票の記載を工夫する事業所が増えている。
		職業安定所（職員）	・企業の人手不足感が続いており、求人需要は高止まりしているが、人材不足分野の業種を始めとして人材のマッチングが進んでいない。また、中小企業からは賃上げ疲れの声も聞こえてくる。今後予定される最低賃金の大幅な引上げにより、人件費の負担感が強まるおそれがある（東京都）。
		職業安定所（職員）	・物価上昇に対して賃金上昇率が伴っておらず、実質賃金は減少を続けている。人手不足の業界において、高齢者や外国人を雇用する例がみられるが、相対的に賃金は低い。
		民間職業紹介機関（経営者）	・若年層の求職者で要件に満たないケースが多くみられる（東京都）。
		人材派遣会社（社員）	・景気の良い分野と悪い分野の両方があるが、総じて悪い分野の方が身近である。今後も同様の状態が続いていく（東京都）。
		人材派遣会社（社員）	・最低賃金が上がることが決定したが、企業側がどれだけ付いていけるかで、求人数が変わる（東京都）。
		人材派遣会社（営業担当）	・今月の派遣求人数が減少している影響で、来月の勤務人数が想定より減少する可能性がある。また、9月は半期の区切りでもあり、10月以降の総勤務人数に影響が出ることが想定される（東京都）。
		職業安定所（職員）	・円安、物価高で買い控えが起きており、定額減税の景気の押し上げ効果もさほどみられない。小売業は売上が増加しても利益が出ず、厳しい状況が続いている。
		学校〔大学〕（就職担当）	・良くなる材料が見当たらない（東京都）。
	x	-	-

5. 甲信越（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連 (甲信越)		観光名所（職員）	・秋の紅葉シーズンに向け、企画募集団体旅行の予約が好調である。
		その他サービス〔葬祭業〕（経営者）	・人が亡くなった後、どうしてもやらなければいけないこと、誰かがやらなければいけないことについて、皆が考えるようになってきている。どこにお金を掛けるのか、誰に頼むのか、人の不幸に付け込まないところはどこなのか、皆が知りたがっている。
		百貨店（経理担当）	・能登半島地震やターミナル駅の再開発競合商業施設開業の影響から回復傾向にある。
		スーパー（経営者）	・暑さも終わり、運動会、球技大会、敬老会等のイベントも多くなるため、良くなる。
		高級レストラン（経営者）	・秋に向けて物価上昇が予想されるため、景気は緩やかに上昇していくのではないかと。
		スナック（経営者）	・8月は余り良くなかったが、パリオリンピックの影響でフリー客が減っていたような気がしている。パリオリンピックも終わったので、9月は良くなってもいいが、これからパリパラリンピックが開催されるため、よく分からない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		都市型ホテル(スタッフ)	・当県の世界文化遺産登録による旅行者やインパウンドの増加は期待できる。夏場は元々にぎわいを見せる場所でもあるため、秋以降の世界遺産目的での来訪客の増加が多少は出てくるとみており、プラスへの期待感は大い。
		遊園地(職員)	・パブリシティの獲得や新規イベントの開催等、積極的な集客施策の実施や情報発信を行うことで、より多くの客の来園を期待している。
		ゴルフ場(副支配人)	・予約状況からみて、真夏にゴルフを控えていたプレーヤーが多少戻ってきているようである。
		商店街(代表者)	・秋の行楽シーズンに入るが、宿泊料金の値上げが顕著で、物販購入に回るお金が増えないのではないかと。
		一般小売店[家電](経営者)	・全てといってよいほど物の値上がりが見られる。1度価格が上がった物が下がることはまずない。このようななかで、消費意欲を高め売上増加につなげていくことは難しい。
		百貨店(営業担当)	・現在、為替相場が若干円高に振れており、ガソリン等も若干安くなっている。ただし、いまだ値上げの商材もあるため、消費、特に日用品については慎重になるとみている。
		百貨店(店長)	・売上の厳しい状態が続いている。何か新しい要因があればよいが、物価高が大きく影響しており、変わる兆候がみられない。現状、大きく改善する要素は全くない。
		スーパー(経営者)	・円安の是正は物価安定にはプラスではあるものの、タイムラグがあるため、変わらない。
		スーパー(店長)	・客の買い回り状況からみて、依然として価格や内容を意識しているため、値下がりがないと景気の回復は難しい。
		スーパー(副店長)	・8月は一般客と旅行者が増え、多少ではあるものの景気の上向き傾向がみられたが、米不足や台風の被害等、明るい話題は少なく、景気が良くなるとは考えられない。
		コンビニ(経営者)	・夏休みが終了し、観光客は減少する。
		コンビニ(エリア担当)	・高温が続いているお陰で売上は横ばいである。ただし、燃料費、人件費等の経費が上がっている。
		コンビニ(店長)	・節約意識はかなり落ち着いてきている。天候等の状況で、客が出てくるタイミングが特別変わることはないかとみており、余り変化はないのではないかと。
		家電量販店(店長)	・これから端境期に入ってくるため、大きな伸長は望めない。
		乗用車販売店(経営者)	・引き続き、新車受注は前年比プラスで堅調に推移するとみているが、新型車イベントがないため、大きな伸びは期待できない。
		自動車備品販売店(従業員)	・大手自動車メーカーの認証不正問題もあり、新車が回復していないと、厳しい状況が続く。
		一般レストラン(経営者)	・今後については台風接近の影響を考慮しても、急激な落ち込みはなく、横ばいではないかと。
		スナック(経営者)	・いずれにしても月日のたつのは早い。変わらないとみているが、とにかくこれ以上悪くならないでほしいという意味での回答である。
		スナック(経営者)	・企業が始業前のアルコールチェックを行うようになってから、客の帰る時間が非常に早くなっている。2回転目の遅い時間帯の来客が極端に少なくなっており、アルコールチェックが当たり前だと考え、やらなければいけない状況になるほど企業に浸透していくと、我々の商売にとってはかなり大変になるので、今後も期待できない。
		都市型ホテル(スタッフ)	・8月ほどの売上とまではいかないが、ここに来て、県内で登録された世界遺産を訪れる個人客が、前泊で市内に宿泊する等、動きが出てきている。9月もイベントが開催されるときは、高単価な客室料金でも利用する客が増える。
		タクシー運転手	・運転手が不足している。昼間はまあまあだが、夜働いてくれる運転手が足りない。毎日2時、3時までいてくれる運転手は2~3人しかいないが、これがあと2~3人いると、売上も上がる。
		通信会社(社員)	・テレビCMやSNS等を通じて当社の露出を増やし反響につなげていく段階なので、爆発的な売上増加につながる見込みは余りない。
		通信会社(社員)	・消費が増えるような雰囲気はなく、停滞感は変わらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		ゴルフ場（経営者）	・政権政党の総裁選挙や米国の大統領選挙の結果次第だとみている。
		その他レジャー施設 〔ボウリング場〕（経営者）	・連日の猛暑の影響もあり、屋外よりも屋内レジャーが比較的良い。これから過ごしやすい時期になると、屋外レジャーが盛んになっていくので、少し苦戦するかもしれない。
		商店街（代表者）	・人出がないのは、天候要因だけではない。
		商店街（代表者）	・当商店街では、昔は休みとなれば、押すな押すなというくらいに人が出たが、今は歩行者天国にしても半分程度である。客は、既存の店に入って何か買うということは余りなく、売店で売られている食べ物や飲み物等をかなり買っている。当地から大型スーパーが撤退してから、本当に不便だが、商店街に客が来なくなってしまっている。このままだと段々と悪くなっていくので、いろいろ考えなければいけない。
		コンビニ（経営者）	・段々と寒くなるにつれて来客数はどうしても落ちるため、売上の的には厳しい。10月は恐らく若干上向くが、9月はまだなかなか天候が安定しないとみている。
		コンビニ（経営者）	・今年のお盆休みは前年と比べて今一つであったが、おにぎりなどの消費期限が伸びたため、廃棄等の被害は少なく済んでいる。当店の売上は前年より少し下がった程度だが、当地区の平均の売上は、ひどく落ち込んだと聞いている。この先も同様に少しずつ売上は下がっているとみている。
		コンビニ（経営者）	・繁忙期が終わり、売上は下がるとみている。3か月後、補助金がなくなったら、世の中がどうなるか分からない。人件費も上がり、経費にも響くので経営する側としたら不安である。
		その他専門店〔酒〕 （店長）	・当店も米を扱っているため、米の価格上昇には非常に苦慮している。価格は更に高くなる可能性を帯びており、米は日本酒でも加工米として使うので、売れる物、売れない物がはっきりと出てくるのではないかと懸念している。この価格上昇が転嫁されて販売が順調に伸びるかどうかは非常に不透明で、現時点では色分けが始まっているようにみえる。
		一般レストラン（経営者）	・物価、特に米や農産物については、台風等の自然災害による影響が怖い。
		観光型旅館（経営者）	・新型コロナウイルス感染症発生前の秋は行楽シーズンで、会社関係等で貸切バスなどによる団体旅行が全体の2～3割あり、売上を下支えしていた。しかし、コロナ禍以降は団体旅行が激減したため、秋の需要は減少傾向にある。個人旅行になると1室2名が基本となり、団体のような1室4名利用と詰めて入らないため、定員稼働率が低下し、結果としてどれだけ個人の客を取っても売上の減少してしまう。
		都市型ホテル（スタッフ）	・当県では8月がピークシーズンなので、ここからは来客数が減っていく。
		旅行代理店（副支店長）	・受注や相談は多いものの、旅行参加者の減少や小規模化がみられる。コロナ禍明けの旅行需要は一旦収まったとみている。物価上昇に伴う旅行代金の上昇もあり、少し足踏み状態にあると捉える。景気は少し下降する。
		住宅販売会社（経営者）	・これまで、株価の上昇等による余剰資金で別荘を購入する動きがみられたものの、株価暴落の懸念もあり、先行きは不透明である。
	x	コンビニ（経営者）	・人手不足や少子化問題に、政治への不満もあり、良くなる要素がない。
企業 動向 関連 (甲信越)		-	-
		金属製品製造業（総務担当）	・半導体需要が回復し、やや良くなる。
		電気機械器具製造業（経営者）	・年末に向けた需要で売上増加が見込まれる。また、為替相場の円安是正による仕入価格の低下も期待される。
		電気機械器具製造業（経営者）	・見積案件数が増えており、活気がみられる。一方、条件付きの案件が増えていることが今後の懸念である。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・特注品の受注見込みはあるものの、年末から年始にかけての店頭販売品の受注は予想が付かない。夏休み期間のワークショップの予約が予想外に低迷しており、展開方法の練り直しが必要である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		電気機械器具製造業（従業員）	・前年に続き、今年も全ての部品の値上がりが続いている。当社の販売価格への転嫁が追い付かないため、やや苦しい。
		建設業（経営者）	・物価は落ち着いており、技術者不足はあるものの、現状の景気はまだ続くともっている。
		金融業（調査担当）	・製造業は、IT関連の在庫調整は解消に向かうものの、引き続き緩やかな動きにとどまる見込みである。非製造業は消費に対する節約志向が続くことから弱さが残り、足踏み状況が続く見通しである。
		金融業（経営企画担当）	・日本銀行による金融政策や米国FRBによる利下げ等で、経済及び金融市場での不透明感が拭えない。
		新聞販売店〔広告〕（総務担当）	・新型コロナウイルス感染症発生前の50%ほどに回復している。現在の社員数は半分になっている。物価高や法人の経費増から、折込チラシ出稿、新聞販売共に前年比微減が予想される。
		食料品製造業（営業統括）	・酒販店やスーパーからの引き合いが落ちて出荷状況が停滞していた。そのため、仕込み用タンクに空きの余裕がなく、秋の原料購入に際して影響が出るおそれがある。
		食料品製造業（総務担当）	・原材料価格を中心にコストアップが見込まれる。
	x	食料品製造業（製造担当）	・最低賃金上昇分で年間70万円以上、原材料費80万円以上となると、商材単価を今の倍にしていけないと、吸収できない。ただし、本当に価格を2倍にすれば、スーパーでは間違いなく売れなくなる。このはざ間で新しい売り方を考えないといけない。
	x	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・毎月の資金繰りが大変である。
	x	その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	・金価格が下がってきており、円高傾向にある。小売店では今買っても、金価格が今後下がると商品価値が落ちるため、もう少し様子を見たいという声もある。商品が売れていないため、在庫を増やすことに関してはシビアである。
雇用関連		-	-
（甲信越）		人材派遣会社（営業担当）	・米不足の問題等がある。
		職業安定所（職員）	・人手不足による業務の縮小やエネルギー価格、諸物価上昇の影響が引き続き懸念される。賃上げ効果や所得税定額減税による消費拡大の状況も不透明である。
		職業安定所（職員）	・雇用数の大きな増減につながるような情報はないため、変わらない。
		民間職業紹介機関（経営者）	・若干の円高傾向にあるものの、継続的な円高が求められている。物価の安定が必要ではないか。
		職業安定所（職員）	・有効求人数の前年同月比は、4か月連続で減少している。
	x	-	-

6. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連 （東海）		美顔美容室（経営者）	・好調なキャンペーンを年度末まで継続予定で、その間には他商品のキャンペーンもあるため期待できる。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・天候や自然災害の影響を除けば、回復途上にある。
		百貨店（経理担当）	・景気の回復が遅れていた飲食業についても、ここ2～3か月は復調しており、今後も期待ができる。
		コンビニ（本部管理担当）	・今後、与党総裁選など景気変動が発生しそうな事柄は多いが、天候の影響が変動要素を上回る。今後も気温が高い状態が続くので、暑ければ単価や来客数が上向くため先々にもマイナスのイメージはない。単純な見解だが小売業界にとってそれだけ天候は重要である。
		衣料品専門店（売場担当）	・この先は就職活動、成人式や卒業式があるため徐々に伸びると期待する。隣接する大手衣料品店と比較されると価格競争では厳しいため、品質の良さを勧めていきたい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（従業員）	・大きな流れとして今月良かった分、先々は余り楽観できないが、問合せ等の件数をみる限り、多少は良くなると期待できる。
		乗用車販売店（従業員）	・少しずつ客の使う金額が増えていると感じる場面が多くなっている。電気料金や燃料価格の補助政策もあいまって、生活の基本に関わるコストの負担感も多少緩和している。しかし、ここ最近の異常気象により生活コストで大きな負担が生じれば、また生活防衛に走ることになる。
		乗用車販売店（営業担当）	・複数の新型車投入予定があり、新規客の来店も増えると期待している。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（経理担当）	・夏休み期間も比較的来客数は安定している。
		旅行代理店（経営者）	・パリオリンピックも終わり、客足が戻ってくる。
		旅行代理店（営業担当）	・秋の行楽シーズンは旅行申込みも順調に増えている。物価高騰でほとんどの商品が値上げになっても申込みが減らない状況を見ると、景気はまだ上向くと予測する。
		旅行代理店（営業担当）	・10月から11月は団体旅行のトップシーズンを迎えることに加え、特に今年は、今まで行事を控えていて予算に余裕のある客が多く、高単価の旅行者が多い。
		タクシー運転手	・まだ猛暑と台風の時期が続くが、暑さも収まってくる秋になれば結婚式等いろいろな行事が増え、その後の飲み会などでも出足は良くなる。大幅に良くはならなくても、小刻みに良くなっていく。
		通信会社（サービス担当）	・従来のサービスが終了に伴い新サービスが開始されるため、注文が増えることを期待する。
		テーマパーク（職員）	・秋には3連休が多くある。
		パチンコ店（経営者）	・最近の遊技機種はデジタル対応のスマート機種となっており、遊技しやすくなっている。一方で、南海トラフ地震臨時情報などがあって、消費者が不必要な外出を控えることが懸念される。
		美容室（経営者）	・7月から8月は余りに暑くて来客が少なかった。来店がなかった間、パーマ等の施術をしていないため、10月から11月頃に気候が良くなれば、客足が戻ってきて売上が伸びる。
		設計事務所（経営者）	・案件のない現状よりは改善している見込みである。
		住宅販売会社（従業員）	・半期の締めである9月に動きが回復しないと今後も厳しいため、願いも込めて良くなってほしい。
		その他住宅〔展示場〕（従業員）	・夏枯れからの反転に期待する。
		その他住宅〔不動産賃貸及び売買〕（営業）	・第2繁忙期に入るため、期待する。
		商店街（代表者）	・物価はとどまる気配がなく上昇し続けている。財布のひもが緩むことはなさそうで、しばらく今のままの状況が続く。
		商店街（代表者）	・猛暑のお陰でエアコンのみ好調に推移しているが、その他の商品は売れていない。特にテレビやハードディスクレコーダーは良くない。
		商店街（代表者）	・下町の商店街は高額品が少ないため、来客数の安定で客単価の横ばいを維持している。
		一般小売店〔結納品〕（経営者）	・暑い日がまだ続く予報で、景気が上向くとは考えられない。
		一般小売店〔贈答品〕（経営者）	・最低賃金の引上げでパートやアルバイトの給与が上がり、消費が伸びることを期待するが、物価高も継続することから、生活防衛意識が高まることも考えられる。3か月先の景気は現状と変わらない見込みである。
		一般小売店〔果物〕（店員）	・3か月ほどでは変わらない。
		一般小売店〔生活用品〕（販売担当）	・これから暑さは和らいでくるだろうが、依然として明るい材料は見当たらない。
		百貨店（企画担当）	・金利引上げに端を発した株価の大幅変動に、地震、酷暑、豪雨など自然災害の多発による生活不安が重なっているが、足元での消費者の購買行動は前年と比較して伸びている。ただし、首相交代など変化はあるものの、今以上に消費が好転する要素は見当たらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（営業担当）	・インバウンドの売上が下支えする状況が続き、食品や高額品を中心に来客数や売上の減少は、すぐには起こらない。
		百貨店（販売促進担当）	・多少円高に振れたものの、インバウンドの抑止には至らず、現状の好調が持続すると予測している。
		百貨店（販売担当）	・夏物需要が続いて辛うじて予算を達成できたが、秋物商材への切替えが難しい。
		百貨店（販売担当）	・国内消費、インバウンド共に大きく好転するというよりは、現状維持とみるのが妥当である。
		スーパー（経営者）	・客足が戻っても野菜や果物の供給回復には時間を要し、厳しい状況が続く。
		スーパー（店員）	・政府では米の生育は順調としているが、今まで取扱のない地区の米が納品されてきている。当分この騒動は続くとも予測する。
		スーパー（販売担当）	・水の供給は安定してきた。米は新米が入るようになる。駅弁販売イベントも始まり、売上予算達成は続くと思込む。
		スーパー（販売担当）	・夏休みが終わり来客数が減る。一方で、この夏は非常に暑かったので、段々と涼しくなるにつれて暑さで減った分の来客数は回復する。
		スーパー（販売担当）	・高温の状況はこの先収まると考えられるため来客数は回復する見込みだが、米の品不足がどの程度解消するか不明である。必要最低限しか買わない消費者の購入姿勢は大きく変わらないので、爆発的な売上の伸びは期待できない。
		コンビニ（店長）	・景況感は落ち着いてきている。急な為替の変動がなければ、しばらくはこのままであると思込む。
		コンビニ（企画担当）	・今後も天候の影響をどの程度受けるかは心配であるが、ほかに大きなマイナスとなる要因はない。
		コンビニ（エリア担当）	・足元の売上が落ち着いた状況のままで、来客数は前年のように伸びていく兆しがみえない。来客数は前年並みで推移するものの、売上は100%を割り込みそうな様子である。
		コンビニ（店長）	・現状の良くも悪くもない状態が来客数にも反映されている。値上げ等で商品単価が上がっているため、見掛けは売上が伸びているように見えるが、実際には大きくは伸びていない。インバウンドがこのまま順調に増えれば売上も期待できるが、地域的に急激な増加は考えられないため、景気は変わらない見込みである。
		コンビニ（店長）	・年末が近くなるにつれて、例年並みの売上伸長が見込める。
		コンビニ（店長）	・率直に言って全く予想がつかない。来客数は完全に伸び悩んでいる。
		コンビニ（店長）	・変わらない低空飛行で推移する。ただし、割引クーポンなどを用いたこの数か月間のキャンペーンは期待以上に好影響をもたらしており、現状から更にダウンするイメージはない。踊り場のまま、時が過ぎていく。
		衣料品専門店（経営者）	・限られた客に対して電話等で外商を行う。これまで品質にこだわった商品を販売してきたことで、信用により多少高額でも買ってもらえることは有り難い。
		衣料品専門店（店長）	・このところの地震や台風による関連商品の購買は落ち着いてきた。地元土木建設関連の客をみると、仕事量は安定している様子であるが、業種によって仕事を求めて県外に出てしまっており、地域に金を落としていない。
		衣料品専門店（売場担当）	・景気が回復、又は悪化する要因が見当たらない。6月に実質賃金が約2年ぶりにプラスに転じたとの報道はあったが、これまでの節約志向から消費志向に転じるほどの賃金が増加したという実感は得られていないように感じる。
		乗用車販売店（営業担当）	・円相場や株価が不安定なため、心理的には先行きが不安であるが、実際には賃上げや所得税減税によって手取額は確実に増えているため、悪くはならない。
		乗用車販売店（経営者）	・物価の上昇や災害への意識からか、客は必要最低限の作業しか頼まない様子である。
		乗用車販売店（経営者）	・金利の動向など不確定要因が多く、景気も大きく上下に動きそうな様子はない。
		乗用車販売店（経営者）	・今のところ大きな変動要因は見当たらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（従業員）	・大きな災害や特別なことがない限り、大きく変化することはない。
		乗用車販売店（従業員）	・世の中全体で物価高の話題が多く、自動車に関しても自動車本体の価格や付属品の購入費用に加え、燃料代、点検代、部品代などのランニングコストも上昇しているなかで、客の財布のひもも固くなっている。部品交換にしても、必要性やコスト等をじっくり考える客が増えている。
		高級レストラン（経営企画）	・年末を迎えるため多少は押し上げ効果が期待できるが、前年のコロナ禍明けでの実績を超えられるかは分からない。
		一般レストラン（経営者）	・客の消費意欲は読めないが、売上を維持していきたい。
		一般レストラン（経営者）	・特に景気が良くなる要因が見当たらない。
		一般レストラン（経営者）	・客や取引先など自身の回りでは、特に景気が良くなるような話は聞かない。
		一般レストラン（スタッフ）	・これだけ物価が上がっていると、なかなか余裕のある消費にはつながらない。
		一般レストラン（従業員）	・まだまだ値上げが続き、消費は伸びない。
		その他飲食〔仕出し〕（経営者）	・良くなるか悪くなるか、どちらに転んでもおかしくない状況である。
		都市型ホテル（従業員）	・予約数から判断した。
		都市型ホテル（経営者）	・秋にかけてインパウンドやイベントなどで人の動きが期待できる。
		都市型ホテル（営業担当）	・高い水準での現状維持が見込まれる。
		旅行代理店（経営者）	・2～3か月後は台風による新幹線の計画運休もなくなり、米国の大統領選挙や政権政党の総裁選挙なども一段落し、景気が良くなる。
		旅行代理店（経営者）	・物価高の影響ばかりが報道され、秋以降も景気回復は難しい。余り物価の影響を受けない富裕層からは、早くも来年のクルーズ旅行、正月の宿泊予約や家族旅行の受注がある。海外はどの方面も日本人渡航者が新型コロナウイルス感染症発生前の半分にも満たない国が多く、以前のような日本人向けマーケットの勢いが回復しない。日本人旅行者の現地での立ち位置が悪くなっており、予約時の条件が他国の旅行社に負けるため、新型コロナウイルス感染症発生前のような価格では海外ツアーには行けないことを消費者は分かってほしい。中間所得層の旅行客に増加を期待したいが、すぐには難しいと見込んでいる。
		タクシー運転手	・良くも悪くもならないと見込む。
		通信会社（企画担当）	・物価高、株や為替の不安定な動き、高気温や雷雨等の不安定な気象状況など先行きも不安要素が多い。
		通信会社（営業担当）	・サービス提供に必要な海外製の機器やライセンス料の値上がり止まり、落ち着く状況が見えない。
		テーマパーク職員（総務担当）	・集客に関しては、いまだ明確な回復の兆しがみられない。9月から開催する秋季イベントを充実させ、何とか現状維持を図っていきたい。
		ゴルフ場（支配人）	・2か月先の予約数は前年同日で余り変わらない。台風など天候の影響以外に景気が左右される要素も見当たらないため、景気はこのまま変わらないと判断する。
		美容室（経営者）	・世間ではかなり景気が良い話も聞くが、一般庶民の生活までは浸透していない。
		美容室（経営者）	・光熱費の上昇が大変厳しい。物価高が変わらない限りこのままの状況が続く。
		住宅販売会社（従業員）	・横ばいが続くと見込む。
		その他住宅〔室内装飾業〕（従業員）	・他社の下請をしていた元請業者が、自社で物件を受注して当社に回してくるケースが増えている。
		商店街（代表者）	・収入は増えない一方で様々な物が値上がりして消費マインドが上がらない。その上、余りにも不安定な天候が追い打ちを掛けている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔高級精肉〕（常勤監査役）	・ 今後は為替の反動が激しくなる。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	・ 秋の行楽シーズンは連休が続くため、街中での飲食店の利用は減る見込みである。
		百貨店（総務担当）	・ 台風10号の影響が大きい。富裕層を中心とする外商では、株価はやや持ち直しているが資産効果に衰えを見せつつあるのではないかと懸念している。これまで売上を大きくけん引していたインバウンド需要も伸び率が少しずつ鈍化しており、9月が正念場のようにもみえる。
		百貨店（経理担当）	・ 為替や金利、株価の先行きに不透明感が拭えないなかで、富裕層の消費は、引き続き堅調に推移するとみられる。一方、中間所得層においては、物価高や金利上昇に備えて娯楽レジャーやし好品の買い控えが広がり、全体の景気を引き下げる。
		百貨店（営業担当）	・ 株価の乱高下に加え地震や台風などの自然災害等も重なり、消費マインドはやや冷え込む。
		スーパー（店長）	・ 今後も物価高騰が続き、買い控えや廉価商品への購買集中が考えられる。
		スーパー（店長）	・ 米不足による米の値上げもあり、消費の引締めが今まで以上に厳しくなる。
		スーパー（店長）	・ 足元は防災の特需が影響しているが、3か月後には落ち着く。
		スーパー（店員）	・ 担当カテゴリーの商材において値上げが発生する。
		スーパー（店員）	・ 9月になったら米の品不足は改善するとみるが、新米の価格は高いと予想している。また、台風10号が野菜の収穫量に大きく影響するとみられる。
		スーパー（支店長）	・ 異常気象と物価の上昇により、消費者の購買力がかなり減っていく。生活必需品はやむを得ないが、特に公共料金の値上げと一般食料品の値上げによる家計への打撃がじわじわと響いてくるとみられ、景気の減退は免れない。政権政党の新総裁による景気回復策に期待したいところである。
		スーパー（総務）	・ 買上点数、金額共に下がっている。客は必要最低限の買物でやりくりし、出費を抑えている様子である。
		コンビニ（エリア担当）	・ 金利上昇などの消費への悪影響を懸念する。
		コンビニ（店長）	・ 売上の減少に加え電気代が上昇し、景気が良くなる要素が見当たらない。
		コンビニ（商品企画担当）	・ 天候不順による原材料価格の高騰が懸念され、消費マインドの低下が想定される。
		家電量販店（店員）	・ 客は購買意欲が乏しい様子である。
		家電量販店（フランチャイズ経営者）	・ 猛暑でエアコンが売れたが、その反動が出そうな気がする。
		家電量販店（営業担当）	・ お盆まで夏物商材が動き来客数も伸びたが、お盆以降は来客数が減ってきている。衆議院選挙の可能性もありそう、米国大統領選挙もあり政治的には先が見えない時期である。
		乗用車販売店（経営者）	・ 法改正で再び生産が止まるらしく、販売できる車両が限られてくる。厳しい状況は今後も続く。
		乗用車販売店（従業員）	・ 人気車種の多くは販売停止になっており、再開が未定の車種も多くなっている。恐らく半数近くの車種が販売停止になっている。
		乗用車販売店（販売担当）	・ 円安傾向はこのまま変わらず、車両本体価格はますます上がり、ローンの金利も上がるため、買い控えが加速する。
		その他飲食〔ワイン輸入〕（経営企画担当）	・ 直近では円安傾向は落ち着いたが、前年末から今春までの為替レートで仕入れた商品の価格改定を9月に予定している。仮需要は5%程度と見込んでいたが20%に迫る勢いであり、それだけ値上げ後の価格への警戒感が強い証拠である。値上げが浸透する秋から冬に向けては、売上数量が大きく減少しそうである。
		観光型ホテル（経営者）	・ 本来、秋の行楽シーズンはリゾートホテルが忙しくなる時期だが、労働時間の2024年問題や最低賃金の引上げ、エネルギー関連の補助金削減など企業にとってネガティブな情報が多すぎるため社員旅行のような団体旅行が期待できず、予約も余り動いていない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		都市型ホテル（総支配人）	・秋以降は宿泊予約の受注状況が芳しくない。
		旅行代理店（経営者）	・相変わらずの値上げに続いて米の不足、値上げによって食費の節約志向も強まる。外食、内食共にますます低単価志向となる。
		タクシー運転手	・天候が安定して涼しくなるため、タクシーの利用客は減る。
		テーマパーク（職員）	・株価の下落があったため、やや悪くなる。
		観光名所（案内係）	・世界中での戦争、紛争がなくなることが第一である。
		理美容室（経営者）	・客からは、物価が上がっているのに賃金が上がらず生活が苦しくなっているという声を聞く。
		その他サービス〔介護サービス〕（職員）	・9月以降も仕入商品の値上げが各社から案内されている。10月からは最低賃金改定もあり、人件費の見直しも出てくる。一方、福祉用具貸与のサービス料金は介護保険の上限価格があり、価格が改定できない。
		設計事務所（職員）	・与党の総裁選に関心が集まる一方で、政策として景気対策に目が向いていない。
		住宅販売会社（経営者）	・景気が良くなる材料がない。先行きが見えず不安である。
		住宅販売会社（従業員）	・先々の金利上昇を見込んで一時的に需要が増えるかもしれないが、販売量増加は持続せず単なる先食いに終わる。
		その他住宅〔住宅管理〕（経営者）	・厳しい状態は続いているが、リフォームの問合せは増えている。この先収入が増えれば消費も活発になり、景気の回復に期待する。
	x	-	-
企業 動向 関連 (東海)			
		電気機械器具製造業（経営者）	・客先業界では年末にかけて設備投資を行うので、それに伴い今よりはやや良くなる。
		輸送業（エリア担当）	・販売動向からやや良くなる見込みである。
		金融業（従業員）	・我が国の与党総裁選や米国大統領選挙を控え、今後の動向には注目が必要である。年末に向けて景気は良くなる見込みである。
		その他非製造業〔ソフト開発〕（経営者）	・客先は大手企業であるが、自社で物事を考え中小企業の小周りをいかしてシステムを開発したい。大手企業と同じような発想にならないことが重要である。
		食料品製造業（社員）	・今後も原料費や物流費等の値上がりの影響から食品全般で値上げは続く見込みである。清酒も価格の見直しが進むと考えるが、販売量との兼ね合いで売上の大きな増加は期待できない。
		食料品製造業（経営企画担当）	・厳しい残暑が見込まれ、秋冬商材の需要予測が困難である。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（顧問）	・例年は期待を持てる時期になるが、物価高騰は続く見込みであり、自動車関連も今後の動向が気になる。景気が良くなる兆候がみえない。
		化学工業（営業担当）	・需要は継続見込みである。
		化学工業（総務秘書）	・景気に悪影響となる特段の問題がない。株価の乱高下がみられたが、意外に冷静に受け止められているように見える。8月8日の地震では南海トラフ地震への警戒が高まり、緊張感があった。
		金属製品製造業（従業員）	・受注量の盛り上がりまでは見込めないが、前年と同程度の水準が続くという点で、状況は余り変わらない。
		一般機械器具製造業（営業担当）	・北米では半導体設備に多額の補助金が用意され設備投資が促進されているが、影響は限定的で継続性は見込めない。
		一般機械器具製造業（経営管理担当）	・受注量、販売量の見込みによる。
		電気機械器具製造業（企画担当）	・不確定要素がたくさんあり、見通しが付かない。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・今のところ大きな変化は見当たらない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・現在までに届いている受注量の見込みでは、ほぼ変動がない。
		輸送用機械器具製造業（管理担当）	・特に何も変わらない状況下で景気の好転は考えられない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		建設業（役員）	・住宅販売の状況が見通せない。暑さも和らいで秋の商戦として客の動きは良くなるとみるが、物件の価格上昇や住宅ローン金利の変動によってはマイナス面も多くなり、不安が残る。
		建設業（営業担当）	・公共事業や民間工事の依頼はあるものの、景気が良いときには早い時期から実際の工事に取り掛かれるが、そういう話はまだない。今のところ、飽くまでも予算の範囲内で先の予定という話にとどまるため、景気が良くなる実感はなく現状のままと考える。
		輸送業（経営者）	・原材料や仕入価格の高騰で荷主の販売価格は上がっているが、物流原価の高騰には十分に対応してもらえていない。
		輸送業（従業員）	・仮に荷物量が増えたとしても、資材などの各種経費が大幅に上がっており、苦しい状況に変わりはない。
		輸送業（従業員）	・値上げによる物価上昇は、多くが企業収益に回り賃上げにはほとんど回っていない感があり、個人消費が伸びない。
		輸送業（エリア担当）	・これまで投資をしていなかった人が投資を始めると、実際経済とは異なる金の動きが活発化する。通常の消費活動とは別に利益を得る人が増えれば、本来の経済活動が余り活発に動かなくなるかもしれない。
		輸送業（エリア担当）	・薬品輸送の需要は若干増えてきているが、効率化も同時に進めているため、売上は伸びない。
		通信業（法人営業担当）	・景気が上向き材料として、最低賃金の引上げで家計所得が増え個人消費が上向きになるかもしれない。春闘で賃上げもあったので少し望みがあると期待しているが、自身の仕事の状況としては、景気は変わらない見込みである。
		金融業（従業員）	・自動車産業において先行きの景気に影響しそうな動きは特にみられない。
		金融業（企画担当）	・受注側の努力も必要だが、発注側が物価や賃金の上昇も含んだ上で発注価格を考えないと、中小企業において適正な利幅を確保することは難しい。
		不動産業（経営者）	・今後も晴れの日が多くなる予報のため、外出や遠出をする人は増加する。今後も売上は増加し前年を上回る状況が続く。
		広告代理店（制作担当）	・広告出稿量は余り変わらないが、全般的な値上げ等により紙媒体の出稿も足踏み状態となる。
		行政書士	・現状維持の見込みである。
		公認会計士	・長い休暇も終わり、個人消費は停滞する。金利上昇や選挙などの動きも活発になることから、投資など静観する企業も増えることから、法人の動きも鈍化する。
		会計事務所（職員）	・スーパーの商品は多くが値上がりしているが、特売品を利用したり無駄に破棄しない量を購入したりと財布のひもを引き締めている。趣味にはパッと使うが日常生活では節約し、場面に応じて財布の口を開け閉めするため、全体として余り変わらない。
		窯業・土石製品製造業（社員）	・夏季休業後の来月以降に向けての受注が今一つ伸びない。全体的に妙に静かで、地場産業のメーカーはまだ休みが続いているかのようで、状況は芳しくない。
		一般機械器具製造業（経営者）	・取引先の販売も不調である。大手企業の話では、2年間は横ばいだらうという話もある。
		輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	・年末に向けて少し受注量が減る見込みである。
		建設業（経営者）	・政治の面で大きな予定が続き落ち着かない。政治的に安定しないと景気は良くならない。
		会計事務所（職員）	・ここ最近、仕入商品や消耗品の度重なる値上げで利益がますます薄くなっている。コロナ禍で受けた融資の返済資金の準備も必要となり、資金的にも厳しい状況となる。廃業や破産の話もよく聞くため、この先景気が良くなることはない。
	×	食料品製造業（営業担当）	・原材料価格の高騰、販売価格の値上げで消費が下がっている。
	×	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・物価がどんどん上がっているのに給与収入はほとんど変わっていない。物価は20～30年前と比べてほとんど倍になっている。そこを見直していかなければ、景気は良くならない。
	×	鉄鋼業（経営者）	・良くなる要因が全くない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	金属製品製造業（経営者）	・引き合い件数が前年同月比、月次推移共に減少している。今後も引き続き販売数量の減少が続く見込みである。
	×	通信業（総務担当）	・与党総裁選挙に目が向いて国内情勢への関心が薄れることで、景気対策が後送りになっている。この先も足元の状況が続く。
雇用 関連 (東海)		-	-
		人材派遣会社（社員）	・余り良くなかった今月に比べて多少は良くなる。
		民間職業紹介機関（営業担当）	・年度末までの転職を見越して転職希望者の活動意欲は高まる。大手企業の新規採用枠は減少する見込みであるが、IT、組込み系や機電系エンジニアの採用は引き続き活発に動くことが想定される。
		人材派遣会社（営業担当）	・周辺メーカーの採用基準が拡大し、求人数も増加している傾向からも、設計開発の領域で人材ニーズは底堅いと考えられる。
		人材派遣会社（営業担当）	・最低賃金の引上げなども10月に控えているが、景況感への反映は限定的とみる。
		アウトソーシング企業（エリア担当）	・円安等による物価上昇を踏まえ賃上げを考えるが、上昇分を売価になかなか反映できない現状がある。今年の猛暑は工場現場にも多少影響があり、免疫力の低下により新型コロナウイルス感染症が広がっている。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・今後は、総裁選の予定や衆議院選挙の可能性もあるが、景気が大きく変化する要因は今のところみられない。強いて言えば米国大統領選挙の結果によって米国経済の動きも影響する。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・予想される衆議院選挙の結果によっては、期待感で一時的に上向くかもしれないが、継続するかは分からない。
		職業安定所（所長）	・大手自動車メーカーの不正問題による影響からも回復傾向にあり、8月に入って退職による求職者の減少が進んでいる。
		職業安定所（職員）	・求人数の増加は、以前から続いている中小企業を中心とした人手不足によると考える。円安等による物価上昇分や賃上げによる賃金上昇分を売価に反映できず経営が厳しいといった声も聞かれ、まだしばらくは景気回復の兆しはみえない状況である。
		職業安定所（職員）	・物価高騰の影響が今後個人消費にどのような影響を及ぼしていくか、賃金上昇の効果がどれほどプラスに働くかなど、先行きが不透明である。
		職業安定所（職員）	・事業拡大のための新規事業所設立や移転する企業の情報を複数得ている一方、材料費や人件費高騰で利益が出ないという事業所からの声もあり、先行きは不透明である。
		民間職業紹介機関（窓口担当）	・求人数は変わらず好調でも、人手不足や人材定着も以前より厳しい状況のため、実績につながらない。今月は夏季休暇など人材が動かない期間もあるため、来月はその分の稼働日など含めて安定が見込まれることから、変わらないと予想する。
		学校〔大学〕（就職担当）	・ここ数か月で新卒求人に関する状況の変化は想定されない。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・本年度の進学希望者を除く卒業予定者は、今月に全員内定を得た。前年とほぼ同時期であり、採用状況に特段の変化はみられない。
		人材派遣会社（営業担当）	・人手不足感が更に強まり、人材不足対策を講じる企業や部署が増加すると見込まれる。
		職業安定所（職員）	・人手不足もあるが、雇用保険適用事業所数が前年同月比で8か月連続減少するなど物価高などへの対応が難しい事業所等の事業所閉鎖が相次いでいる。
	×	人材派遣業（営業担当）	・猛暑の影響により農作物価格は高騰することから、最低賃金が見直された後も消費者は買い控えの継続が想定される。企業は賃金率向上と物価高の影響により、収支が悪化する可能性がある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	x	人材派遣会社（社員）	・例年お盆明けより求職者の登録が増加するが、今年は非常に動きが鈍く、好転の兆しがみえない。

7. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北陸)		都市型ホテル（役員）	・コロナ禍明け以降、観光需要が完全に戻っており、秋の行楽シーズンに向けて、個人客、ツアー団体客の予約を期待している。
		商店街（代表者）	・中国人を中心としたインパウンド需要は変わらず好調なので、秋の行楽シーズンに期待したい。
		一般小売店〔事務用品〕（店長）	・季節商材が発売される時期になるため、景気が良くなることを期待している。
		百貨店（売場主任）	・インパウンドや富裕層による旺盛な消費の動きはしばらく続くと見込んでいる。
		スーパー（仕入担当）	・季節の切り替わりで好みに変化が出る時期になるため、買物動向に変化が望める。また、今後も大きな値上げが控えているものの、商品の単価が上がるため、多少の売上アップが見込める。
		衣料品専門店（経営者）	・気温が下がり、客がファッションに価値を見いだすことを期待したい。
		都市型ホテル（スタッフ）	・回復が遅れていた国内の団体旅行の予約が増えてくるとみている。
		通信会社（営業担当）	・総裁選などの影響もあり、年末ごろには身の回りにも何らかの動きがあるとみている。
		商店街（代表者）	・物価高の影響により、飲食部門以外は引き続き販売数と売上が伸び悩むとみている。
		一般小売店〔精肉〕（店長）	・物価上昇で肉の仕入価格も高くなっており、商品の値上げをせざるを得ない。それに伴って商品単価も上がるため、買い控えや購入頻度が低くなるとみられ、売上が伸びずことは難しい。
		百貨店（販売担当）	・物価高騰の影響で、生活必需品や日用品以外の購入には非常に慎重になるとみている。さらに、前年好調だった旅行需要も一段落し、旅行費用も高騰しているため、需要は減ると考える。インパウンドには期待しているが、まだまだ少ない。イベントによる街全体の集客は増えている一方、宿泊施設の不足と宿泊費の高騰で、県外から当社の催事に出展する関係者が宿泊できなかつたり、コストが見合わなかつたりして、催事の開催ができない事態も発生している。当面、こうした低空飛行の状態が続くとみている。
		スーパー（店長）	・物価上昇に賃金上昇が追い付いていない状況は変わらない。
		コンビニ（店舗管理）	・景気の回復材料が見当たらない。
		衣料品専門店（経営者）	・物価高が収まらず、天候不順などの要因で、今後も売上が回復するとは考えられない。
		衣料品専門店（経営者）	・やや良くなっている現状が続くとみている。
		家電量販店（店長）	・故障などの理由で必要になるまで、商品の買換えはなさそうである。
		家電量販店（店長）	・ボーナス商戦も故障による買換えが多く、現在使用している商品への不満からの買換え等は少ない。必要最低限の購入がほとんどである。
		乗用車販売店（経営者）	・住宅ローンの金利が上がり、負担が多くなっているという声が多く聞かれる。しばらくは景気状況が良くなることはないかとみている。
		乗用車販売店（役員）	・一気に売上増加とはならない現状が続くと考える。
		自動車備品販売店（役員）	・新車販売の低迷が続く、関連商材の販売への影響が続いている。依然として、自動車業界全体のイメージダウンもあり、販売量や来客数の減少の要因となっていると考える。
	住関連専門店（役員）	・現状も売上、来客数共に厳しい状態が続いているが、現在の市況に鑑みても明るい材料が全くなく、まだまだ苦しい状況は続くとみている。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他専門店〔酒〕 (経営者)	・新型コロナウイルス感染症発生以前から同じような回答をしているが、良くなる兆しは全くみえない。
		その他小売〔ショッピングセンター〕(統括)	・8月の来客数は比較的好調であったが、残暑が続くと秋物商材の消費が鈍るため、全体としての景気は大きく変わらないとみている。
		高級レストラン(スタッフ)	・県外団体客の受注は好調で、地元企業や個人の利用が少ない状況が続くとみている。
		一般レストラン(店長)	・新幹線延伸効果がほとんどなく、北陸応援割の施策も飲食店には余り効果が期待できない。
		一般レストラン(統括)	・北陸は海鮮のイメージが強く、秋から冬にかけて観光客、インパウンドが増えると思われている。そのため、現状の好調な状態が続くと考える。
		スナック(経営者)	・世間の様子や企業の人の会話から、明るい兆しがみられない。
		観光型旅館(経営者)	・9月以降も順調に予約が入っており、年内の売上見込みは計画を上回っている。
		観光型旅館(経理)	・能登半島地震の影響により休業中で、まだ営業再開の見通しが立っていない。
		タクシー運転手	・物価高騰、天候不順、政治不安等により景気回復の見込みがない。いろいろな試みをして、良くなるのは一時のことで、持続しない場合が多い。それでも動くしかない状況である。
		通信会社(職員)	・景気が変わる要素が見当たらない。
		通信会社(営業担当)	・9月に新機種の発売が予定されているため少し動きはあるとみているが、物価高のあおりを受け、大きな変化は望めない。
		通信会社(役員)	・新規獲得数が前年同期比で同レベルか下回るとみている。また、解約数が前年より増加しており、その傾向が続くと考える。
		通信会社(役員)	・現時点で景気変動につながる要因が見当たらない。
		テーマパーク(役員)	・当初の予約状況は3か月先に向けて前年と比べて悪かったものの、北陸応援割の再開などもあり、全体としては前年と変わらない状況になるとみている。
		パチンコ店(経理)	・景気対策の効果がみられない。景気動向に影響を及ぼす施策が見当たらない。
		その他レジャー施設〔スポーツクラブ〕 (総支配人)	・10月より最低賃金が上がり、現状ではそれに対応する収益が見込めていない。既に人件費や一般経費の増加で中小企業側の負担が大きくなっているなか、この状況は当然従業員にも伝わっている。不安を感じている中小企業の従業員では、個人の消費行動の拡大は出てこない。支出額が多くなるのは、飽くまでも値上げの影響であると考えている。
		住宅販売会社(従業員)	・能登半島地震の復興が進んでいくにつれ、今後は受注が増えていくことを期待しているが、施工体制などに課題も抱えている。
		住宅販売会社(従業員)	・建築資材の価格が不安定であることと、職人確保が難しいことから、景気回復の兆しがみえてこない。
		住宅販売会社(営業)	・すぐに大幅な上昇はないにせよ、住宅ローン金利の動向により住宅販売会社を取り巻く景気は大きく影響を受けると考える。政策金利の利上げ予測やそれに対する株価の乱高下といったこともあり、景気に対する先行きは全く読めず、不安が募っている。
		商店街(代表者)	・景気が良くなっている実感もないまま、期待感だけが先行した新規出店が増えており、既存店への影響も大きい。競争とはいえ、地方ではオーバーストア状態であり、共倒れにならないか心配である。
		一般小売店〔書籍〕 (従業員)	・2~3か月前はもう底だとみていたが、来客数や販売数が更に悪くなるとみている。
		百貨店(販売促進担当)	・ラグジュアリーブランドの期間限定企画や食品の物産展など、9月、10月に集客力のある強い企画を予定している。催事等は実績を残せているが、天候の長期予報をみると、残暑や台風の発生などで客足や秋物衣料に影響が出るとみられ、楽観視できない状況にある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（店長）	・常連客の多くは中小企業で働く正規社員である。最低賃金 の見直しがあるため、今後アルバイトの賃金は一時的に増加 するだろうが、業務の外注化で経費が増加している地方の零 細企業では、正規社員の賃金アップまで手が回らない状況で ある。しばらくは消費が増加するとは考えられない。
		家電量販店（本部）	・直近では、気温が高いにもかかわらず、エアコンや冷蔵庫 の動きが良くない。今後、より景気は厳しくなるとみている。
		乗用車販売店（従業員）	・物価上昇が続いており、景気が良くなるとは考えられな い。
		乗用車販売店（総務担 当）	・受注が伸び悩んでいるなかで、各分野で物価上昇がみら れ、生活が楽ではないと感じる客の割合が増加してくる。
		タクシー運転手	・今後は暑さが少し和らぎ、タクシー需要は減少するとみら れる。また、観光客の利用者数については多少変化があるか もしれない。
		競輪場（職員）	・利上げや為替変動により、短期的に景気が悪化することは 避けられない。
		美容室（経営者）	・猛暑とともに、地震、豪雨、大型台風等の災害が増えてき ており、消費意欲が上向きにならないとみている。
	x	-	-
企業 動向 関連 (北陸)		-	-
		食料品製造業（経営企 画）	・能登半島地震での被災によって失った数字が戻ってくる ペースは極めて遅いが、それでも一歩一歩確実に右肩上がり で推移する見込みである。
		電気機械器具製造業 （営業担当）	・1年から半年前に提示している新製品見積案件に関し、こ こに来て徐々に客からの再検討や、試作着手等の話が出てき ている。今期後半くらいから徐々に新製品及び既存品の受注 も増えてくるとみている。
		建設業（経営者）	・施工中の工事が最盛期に向かい、人余りが発生しない。
		通信業（営業）	・当面、現状の景気は継続するとみている。
		金融業（融資担当）	・各業種共に、受注量や販売量の増加に加え、原材料費の価 格転嫁が行われ、利益率も改善する傾向が続くとみている。
		プラスチック製品製造 業（広報）	・住宅着工戸数の減少、原材料費と人件費の高騰など、景気 が上向きに転ずる材料が少ないため、現状維持とみている。
		金属製品製造業（経営 者）	・2、3か月先の分の受注の入り具合により、大きく変わら ないと考える。
		一般機械器具製造業 （経理担当）	・為替相場の動きが不安定ななか、ここに来ての円高基調は 輸出にも影響が出てきそうだが、自動車メーカー等の生産に は影響がみられないため、受注状況は大きく変わらないと考 える。
		一般機械器具製造業 （総務担当）	・円高傾向にはなってきたが、先行きはまだまだ不透明であ る。
		輸送業（管理会計担 当）	・現状の物量から考えると、大きな変化はないとみられる。
		輸送業（経理）	・円安傾向は当面続き、厳しい経営環境は変わらないとみて いる。
		金融業（融資担当）	・全体的にコロナ禍からの売上回復はみられるが、新型コロ ナウイルス感染症発生前の水準までには至っていない企業が 多い。さらには物価高や人件費の負担が増加しているため、 企業は収益改善の途上である。従業員の確保も課題で、短期 間のうちに変化が起こるような状況にはない。
		不動産業（経営者）	・個人からの問合せが少ないこと、法人の動きもまだ鈍い ということから、状況は変わらないとみている。
		司法書士	・会社の設立や新役員就任と同じくらい、事業承継ができ ず、黒字でも解散する会社が多い。
		税理士（所長）	・最近の台風やゲリラ豪雨による予定変更、相次ぐキャン セルで、先行きが不透明である。
		繊維工業（総括）	・世界的なインフレによる消費減退懸念から、先行きの不 透明感が強くなっている。
		建設業（役員）	・円高基調にあり、株価についても先行き不透明で、将来を 見通しづらい。
	x	-	-
雇用		-	-

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
関連 (北陸)		職業安定所(職員)	・新規求人数は前年比では増加傾向が続いており、人手不足感が強まっている。
		人材派遣会社(社員)	・不定期な短期の求人や単発の求人は多いものの、長期にわたる積極的な求人は変わらず少ない。
		職業安定所(職員)	・求職者数、求人倍率等に目立った変動や新たな動きの兆候はみられないが、外国為替が円高傾向に推移してくると、原材料費、燃料費、光熱費等が安定し、求人数も増加するものとみている。
		民間職業紹介機関(経営者)	・福祉関連など一部業界での求人が継続的にあるものの、他の業界では物価高や円安の影響もあってか、目立った求人の動きがみられない。中小企業における人手不足も継続している。
		学校[大学](就職担当)	・変わらず物価上昇、円安の傾向が続き、能登半島地震の影響も残っているため、状況が好転する要素や気配がみられない。
		人材派遣会社(役員)	・派遣依頼数の減少幅はそれほど大きくないが、派遣依頼の内容が派遣しにくい、厳しい内容のものが多くなっているため、求職者集めがますます難しくなると考える。
		新聞社[求人広告](担当者)	・求人広告の見込み数が減少傾向にある。
	x	-	-

8. 近畿(地域別調査機関:りそな総合研究所株式会社)

(-:回答が存在しない、*:主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (近畿)		百貨店(サービス担当)	・残暑が来月も続く予想であり、秋物衣料などの売上は厳しい状況となるが、イベントなどの催事の強化や、店舗のリニューアルオープン効果により、売上の拡大が期待できる。
		一般小売店[珈琲](経営者)	・海外からの観光客が増加している。
		一般小売店[鮮魚](営業担当)	・9月に入るとインバウンドの予約が増えるため、今後に期待したい。
		一般小売店[化粧品](経営者)	・インバウンド需要が今後も伸びる店舗は好調な一方、国内客のみの店舗は、秋の気温が今年は下がりにくい状況から、苦戦が予想される。ただし、ギフト需要が中心のフレグランス関連などは、クリスマス商戦までは大きな増加が続く見込みであり、駅ナカや都心に近い店舗での好調が期待される。
		百貨店(企画担当)	・8月は為替の変化や地震の影響など、インバウンドにとってマイナスの要素が多かった。国内客も株価の急変による影響を受けているが、今後は少し影響が落ち着くことを期待している。
		百貨店(販促担当)	・11月頃にはようやく気候も変わり、好転することを期待している。年間の最高気温は上昇している一方、最低気温には余り変化がないとの調査結果もあるため、冬物需要の取り込みを狙う。ただし、最低気温となる期間が短くなっているとの情報もあるため、早めに仕掛けて、売り時を見極める必要がある。
		百貨店(マネージャー)	・今月のインバウンドの減少要因について、地震の影響が主な要因であると考え、おのずと回復が進む。また、台風の影響も一時的のものであるため、この要因での悪化も長く続かないと予想される。
		百貨店(特選品担当)	・地震などの影響は一時的とみられる一方、為替などの変動には今後も注意が必要となる。
		スーパー(店長)	・猛暑や台風など、自然災害に対する備えの意識が高まり、備蓄関連の消費が増えると予想される。
	スーパー(企画担当)	・米問題に関しては、今年の新米も入荷量が要求水準に届かないほか、台風の影響もあって先行きが不安である。一方、米の代替品として玄米やパスタ、餅などの販売量が増えており、全体の売上増に寄与している。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（経営者）	・インバウンドが増える傾向にあり、デザートやアイスクリームの販売増が予想される。それに対応し、デザートの特集ケースを従来のラウンド型から店舗中央に移すほか、アイスクリームのケースは壁面型から平型に換えて見やすくすることで、売上の更なる増加につなげる。
		衣料品専門店（店長）	・為替の問題や価格の上昇といったマイナス材料がありつつも、特に当県ではインバウンドが増えており、活気が高まっている。
		衣料品専門店（店員）	・繁忙期に入るため、やや良くなると予想される。
		乗用車販売店（支店長）	・政権与党の総裁選挙が行われるほか、米国でも大統領選挙があるため、年末に向けて活況になると予想される。
		乗用車販売店（販売担当）	・生産状況に回復の兆しがみられる。
		その他小売〔インターネット通販〕（オペレーター）	・季節が変わるため、受注が増えることを期待している。
		高級レストラン（企画）	・猛暑による旅行需要の減少分が、秋の新規受注として見込まれるほか、インバウンドを中心に更なる単価の上昇が予想される。
		その他飲食〔ファーストフード〕（店員）	・海外からの旅行者が増えており、来客数の増加につながっている。
		観光型ホテル（経営者）	・8月は期待していたが、地震や台風や大雨、交通障害などで、目標を達成することができなかった。少なくとも秋は現状よりも良くなることを期待している。
		都市型ホテル（スタッフ）	・紅葉シーズンの予約は予定件数を超過しており、直近の販売分のみとなっている。宴会のイベントも好調に前売り販売ができており、一方、食堂は人手不足が否めず、依然として定休日を設けなければ厳しい状況であるが、集客自体は順調である。
		都市型ホテル（客室担当）	・ターミナル駅近隣のホテルでは、稼働率を重視するタイプと単価を重視するタイプに分かれる。秋の観光シーズンの先行受注では、当館の単価を重視した商品が好調に推移している。
		都市型ホテル（管理担当）	・インバウンドの客単価が上昇傾向にあるため、売上が低迷した夏よりも、好調に推移すると予想される。
		その他住宅〔情報誌〕（編集者）	・賃貸住宅の家賃も上昇し始めており、新築、中古共に分譲マンションの価格を更に押し上げる要因となっている。一方、戸建て住宅には堅調な動きがみられる。
		商店街（代表者）	・コロナ過収束以降のライフスタイルの変化により、物販店の売上が減少し、すぐに回復する気配はみられない。
		一般小売店〔時計〕（経営者）	・3か月先に世の中がどうなっているかは、全く期待が持てない。秋から様々な物の値上げが決まっており、支出の優先順位が決まってくる。時計業界でも腕時計、置き時計共に値上げが通達されたが、どこまで上がるのかが不安である。
		一般小売店〔事務用品〕（経営者）	・政治の大きな変化や、経済の将来に希望が出てこなければ、消費マインドは上がらない。
		一般小売店〔呉服〕（店員）	・新型コロナウイルス感染症の流行が少し落ち着き、以前のように客が来店することを期待している。
		一般小売店〔菓子〕（営業担当）	・気候次第で、焼き菓子などの乾き物の売上は上向くが、9月も残暑が続けば、売上の増加は期待できない。
		百貨店（企画担当）	・現在のトレンドが続くと予想される。その一方、円高や株安の基調が強くなると、状況は変わる可能性がある。
		百貨店（企画担当）	・株価の下落や値上げの継続などで、消費者の節約志向はますます高まっている。
		百貨店（管理担当）	・インバウンド需要は引き続き堅調に推移するが、近隣の競合店との競争により、婦人服や食品は伸び悩むことが予想される。
		百貨店（売場マネージャー）	・現状からの大きな変化につながる要素はなく、今後の消費行動も横ばいと予想される。その一方、訪日外国人の動きは、中国の国慶節では盛り上がり期待される。
		百貨店（マネージャー）	・悪くなるとは考えにくいだが、決定的に良くなる要因も見当たらない。
		百貨店（販売推進担当）	・為替や株価の動きが不安定で、先行きは不透明が強い。政権与党の総裁選挙をきっかけに、霧が晴れてほしい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（外商担当）	・株価の急変といったリスクが意識されるものの、富裕層の購買動向に目立った変化はなく、好調を維持すると予想される。
		百貨店（商品担当）	・国内外の政情不安の影響を受けるほか、為替相場がどのように動くかも不透明である。
		百貨店（マネージャー）	・最低賃金が過去最大の上昇率となることで、売上の面にはプラスとなるが、収支面では利益の圧迫につながる。また、前年のように11月前半まで暑さが続けば、秋冬商材の動きが鈍くなり、売上への悪影響が懸念される。
		百貨店（マネージャー）	・全体的な消費の流れは変わらず、インバウンドや富裕層の好調が続く見込みである。国内中間層も、選択消費や節約志向の動きは顕著であるが、全体的には微増の動きが続く。
		百貨店（売場マネージャー）	・来客数は増えているが、レジ客数が伸びておらず、買上点数も減少傾向にある。今後も原材料の値上げによる商品価格の高騰により、食品以外の衣料品などの消費は、厳しい状況が続くそうである。
		百貨店（外商担当）	・米国の金融政策の見直しにより、更に円高傾向が進む。それに伴い、外国人旅行者の間で、日本での買物の割安感が薄れることが予想される。
		スーパー（店長）	・物価の上昇もあり、客の慎重な買物行動が続くため、今後しばらくは現状維持が続くと予想される。一方、賃金の上昇や円高の進行による効果が出てくれば、景気の回復につながると考えられる。
		スーパー（店員）	・値下がりする見込みは少なく、ますます大変な状況となる。秋に向けて果物の購入は増えるはずであるが、高額であるため、簡単に買えないのが残念である。
		スーパー（企画担当）	・競合店の出店もなく、外部環境に大きな変化はない。
		スーパー（経理担当）	・買いだめの反動による需要減や、台風などによる農産物の収穫への悪影響が懸念されるが、天候要因を除けば、消費はしばらく堅調に推移する。
		スーパー（販売促進担当）	・新米などの買いだめ傾向が落ち着けば、徐々に通常の需要に戻っていく。
		スーパー（企画）	・買い回りしやすい精肉を中心に、価格に対する感度が高まっているなど、節約の意識は強い。当面は所得環境や物価水準も変わらないため、状況に大きな変化はない。
		スーパー（社員）	・今夏は地震や台風などの災害に備えた買物をする客が多く、店頭の上売を支えている。ただし、備蓄消費は長続きせず、今後はやや落ち着いた販売が続く見込みである。
		コンビニ（経営者）	・食品を中心に、また値上げラッシュとなることが予想される。客単価は上がるかもしれないが、余りの物価の高さにそろそろ買い控えムードが出てきそうで、来客数はやや減少するおそれがある。
		コンビニ（経営者）	・米不足や水不足の影響が出るため、先行きが懸念される。
		コンビニ（店長）	・客の様子をみる限り、急に何かが変わることはない。
		コンビニ（店員）	・このまましばらくは好調が続く。
		コンビニ（店員）	・物価の上昇が続くなか、状況は変わらない。
		コンビニ（店員）	・どの商品も値段が高いと、客にいわれることがある。9月、10月共に値上げ予定の商品が多数あるため、買い控えがますます増えると予想される。
		コンビニ（店員）	・まだまだ暑い時期が続くため、状況は大きく変わらない。
		家電量販店（経営者）	・補助金による一定の効果が続くと予想される。
		家電量販店（営業担当）	・当業界では円安の影響で資材価格が上がっているため、その分だけ景気は良くなる。
		家電量販店（企画担当）	・地震や台風10号による家屋の倒壊や浸水で、家財や家電、家屋の補修需要が増えるなど、被災地域ではやむを得ない形での需要が出てくる。ただし、農作物や米、家畜への影響も大きく、それらの値上げは避けられない。
		乗用車販売店（経営者）	・状況が大きく変わる要素はない。
		乗用車販売店（経営者）	・自動車の整備依頼は多いが、新車の販売は良くない。
		乗用車販売店（経営者）	・予想どおり、お盆明けも動きが悪い。好材料にも欠けるため、今後しばらくは厳しい状況が続く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（販売担当）	・商品数も安定しているため、現在の好調が続くと予想される。
		乗用車販売店（役員）	・現状は人気モデルの発売で好調となっているが、一過性の動きとみられ、好調が長続きするとは考えにくい。人気モデル以外の商品も余り動きは良くなく、むしろ苦戦している。さらに、円相場や株価も不安定であるなど、先行きは不透明な状況にある。
		その他専門店 [宝石]（経営者）	・円安の影響による物価の上昇や、電気代やガス代の上昇が落ち着けば、少し回復する。
		その他専門店 [食品]（経営者）	・中小零細企業では、給与などの増加がまだ物価の上昇に追いついていないため、景気が上向きにはもう少し時間が掛かる。
		その他専門店 [ドラッグストア]（店員）	・賃金の増加と物価の上昇は比例していないが、10月には最低賃金が少し上がるため、購入意欲の上昇を期待している。
		その他専門店 [ガソリンスタンド]（経理担当）	・為替や株価の不安定な動きが続くと予想されるが、基本的には今後3か月の景況感も大きな変化はない。
		その他専門店 [宝飾品]（販売担当）	・円安の動きが少し変化したが、販売価格を見直すほどではなく、客の購買意欲にも影響が出るほどではない。
		その他専門店 [医薬品]（管理担当）	・猛暑が続いたことで夏物商材やスキンケア用品は順調であったが、全体的には横ばいか減少傾向が続いている。これから季節商材は入替えとなるが、食品の値上げも続いているなかで、売上の大きな改善は考えられない。
		その他小売 [ショッピングセンター]（総括）	・インパウンド以外の好材料が見当たらないなか、インパウンドへの規制が強まる傾向もあるため、増加の動きは鈍化に向かう。
		高級レストラン（スタッフ）	・今後もしばらくは天候に左右されることが多くなる。
		一般レストラン（経営者）	・消費者の財布のひもは固く、外食の機会が減少する。
		一般レストラン（経営者）	・仕入価格の上昇や人手不足による経営の圧迫に加え、今後は不確定要素も多い。短期的な問題であれば耐えるだけであるが、先の見通しが立たないような問題も多いため、外食産業で加速している閉店や倒産が更に増える。
		一般レストラン（店主）	・地震や津波への不安に加え、台風などの天候要因や災害の発生状況などに左右される。
		その他飲食 [自動販売機（飲料）]（管理担当）	・値上げの動きに加え、悪い流れが続いているため、3か月ほどで大きな変化はない。
		観光型ホテル（経営者）	・9月から10月は、予想以上に団体客の予約状況が悪い。問合せなどの動きはあるものの、予約は前年よりも少なくなっている。ただし、個人客の動きは好調が続いているため、今後も間際予約で個人客の獲得を進めていきたい。
		都市型ホテル（総務担当）	・宿泊、宴会は現状のまま推移する一方、レストランは近隣に競合施設が増えた影響が避けられない。ただし、一時的な影響とみられ、時間の経過に伴う回復を期待している。
		都市型ホテル（客室担当）	・物価上昇の影響で、消費者の節約志向はしばらく続くと予想される。
		都市型ホテル（販売促進担当）	・客室、レストラン共に、ここ数か月はほぼ前年と変わらない。客室は稼働率が上がらないものの、単価が少し上がっている一方、レストランは週1回のビアホールイベントが人気を集めており、近隣の企業からは前年よりも飲み会が増えたという声もある。
		旅行代理店（店長）	・秋の旅行相談は増えているが、客が即決するケースは少なく、相談のみで終わることが増えている。かつての状況に比べると、国内旅行、海外旅行共に、年末年始の問合せや申込みが少ない。
		旅行代理店（役員）	・円安が落ち着くことで、海外旅行の需要が増える可能性はあるが、物価上昇の影響もあり、大幅に景気が改善されることはない。引き続き、現状の動きが続くと予想される。
		旅行代理店（支店長）	・株価や円相場が乱高下し、気候不順など先の見えない不安も多いため、客の旅行需要は今後も大きくは変わらない。
		タクシー運転手	・利用客は決まった顔ぶれが多いため、観光客も増えるとはいえず、現状維持となる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（社員）	・スマートフォンの冬モデルの発売といった商戦期となるが、キャリアの施策に左右されて、販売状況の波は大きくなるため、全体としては余り変わらない。
		通信会社（役員）	・今後もキャリアの営業や手数料の方針に変化はない。携帯電話販売店での販売量が変わらなければ、業界の景気にも大きな変化はない。
		テーマパーク（職員）	・政府は景気対策ではなく、社会保険料を含む負担の増加を続けている。今後は新内閣の発足が見込まれるが、景気の回復につながるかは不透明である。
		観光名所（企画担当）	・ここ数か月は、インバウンドが前年比で一定の増加率を維持する形となっている。一方、国内客はやや減少気味となっており、しばらくこの状況に変化はないと考えられる。
		遊園地（経営者）	・秋の行楽シーズンに差し掛かるため、先行きに期待したい一方、消費を大きく刺激する要因は見当たらない。
		ゴルフ場（支配人）	・予約状況には良い月と悪い月で大きな差があるが、全体としては変わらない。
		競艇場（職員）	・コロナ禍の収束後も、全国的にインターネット投票が好調に推移している。日程等による多少の変化はあるものの、安定した売上を維持しており、しばらくは現状のまま推移しそうである。
		その他レジャー施設 〔イベントホール〕 （職員）	・催事は安定的に開催されているが、開催コストが前年よりも増えているなど、物価の上昇や人件費の増加による影響が大きい。
		その他レジャー施設 〔飲食・物販系滞在型施設〕（企画担当）	・今のところ、物価の上昇によるレジャーマインドの低下はみられず、インバウンドも引き続き堅調に推移すると予想される。
		その他レジャー施設 〔球場〕（経理担当）	・9月は人気グループのコンサートが開催されるため、集客が期待できる。一方、プロ野球シーズンが終了する10月は企業イベントが中心となるため、集客は減少する。
		その他レジャー〔スポーツ施設〕（業務担当）	・台風シーズンの到来で、天候不良によるスポーツ施設やイベントへの影響が出やすいため、何ともいえない。
		住宅販売会社（経営者）	・地価の高止まり傾向や、投資家に依存した不動産取引が落ち着かない限り、消費者の需要は伸びず、景気も停滞する。
		その他住宅投資の動向を把握できる者〔不動産仲介〕（経営者）	・大幅な金利の変動などがみられないため、状況に大きな変化はない。
		その他住宅〔展示場〕（従業員）	・建築単価の高止まりによる消費マインドの低下傾向は、今後も続く予想される。
		一般小売店〔花〕（経営者）	・諸経費の増加により、利益が増えない。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	・気候や社会、経済について不安定な要素が多く、これから社会がどう変化するのか見通しが立たない。そうしたなかで景気が急に良くなるとは思えず、仮に良くなる兆しがあっても特定の業種にとどまる。衣料品業界が上向くとは考えられない。
		百貨店（売場主任）	・地元客の売上は多少伸びているが、国内外からの観光客による売上の低迷については、補うのが難しそうな状況にある。
		百貨店（売場主任）	・現在モインフレが続いている。明確な所得の増加や減税といった景気刺激策がなければ、景気の好循環は生まれない。
		百貨店（商品担当）	・前年のプロ野球優勝セールのような需要喚起策がない。優勝セールでは利益率はマイナスであったが、ふだんは百貨店にこない客を獲得できた。最近は大型の専門店を誘致しても買い回りの動きに乏しいため、館内イベントを強化し、滞在時間の延長を図りたい。
		百貨店（宣伝担当）	・インバウンドについては、当店は中国からの観光客が圧倒的に多いため、中国の景気減速による売上の減少がしばらく続くと予想される。国内客も定額減税といった好材料はあるものの、財布のひもが緩むまでには至らない。
		スーパー（企画）	・災害や米の価格高騰もあいまって、今後は更に節約意識が高まり、消費は低迷すると予想される。
		スーパー（開発担当）	・景気対策が何も行われない場合、賃金が上がらず、景気は冷え込み続ける。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（店員）	・長期休暇もないため、平常の動きに戻る。
		家電量販店（店員）	・まだまだ先行きの見通しは悪く、景気は良くならない。地震や台風といった自然災害も多いなか、購買意欲が上がることはなく、今後は更に悪くなると予想される。
		家電量販店（人事担当）	・今夏の販売が好調であった分、秋から冬にかけて需要が期待できる商品が少ない。暖冬の予想もあり、余り販売が伸びる気配はない。
		一般レストラン（企画）	・円高傾向が進んでいるが、材料価格は下がる気配がなく、特に肉類の価格は上昇が続いているため、業績に大きな影響が出ている。一方、賃金の増加が物価の上昇に追い付いておらず、個人消費の減少が続いているため、外食への支出が減る要素はあっても、増える要素は見当たらない。
		観光型旅館（経営者）	・天候不順や台風、地震、物価の上昇など、それぞれの問題が浮上し、不安定な動きになっている。それに伴い、それでも行きたいと思わせる動機付けが求められているなど、シビアな状況となっている。
		観光型旅館（経営者）	・物価の上昇などで、旅行を控える動きが出てくる。
		都市型ホテル（フロント）	・9月から10月にかけての物価の上昇で、少なからず影響が出る。
		タクシー運転手	・夏休みが終わって財布のひもが固くなると予想される。物価上昇が長期化するなか、消費者が上昇の動きに付いていけるかどうかで、景気が左右される。
		通信会社（経営者）	・今後も原材料価格の上昇が続くと予想される。
		通信会社（社員）	・年末にかけての販売拡大は望めない。現在は、既加入者の解約阻止に労力を掛けなければ、更に厳しくなる。
		通信会社（営業担当）	・現在のキャンペーンが終了することもあり、更に販売量が落ちる可能性がある。
		その他サービス[学習塾]（スタッフ）	・生活に直結する商品等での値上げが多いため、不要不急の支出から削減の動きが始まる。
		その他サービス[マッサージ]（スタッフ）	・アロマオイルのマッサージのため、暑い時期よりも寒い時期の方が来客数は減少する。
		住宅販売会社（従業員）	・工事費の高騰により、デベロッパーは新築マンションの販売価格を上げざるを得なくなっている。都心では客も付くが、郊外では集客が落ちてくる。
		住宅販売会社（総務担当）	・新築住宅を必要とする動きが減り、受注が厳しい状況となっている。
		その他住宅[住宅設備]（営業担当）	・大雨や落雷、台風などの自然災害が発生しやすい時期になり、通常業務がこなせなくなるため、売上が少し鈍化する可能性がある。
	×	一般小売店[花]（店員）	・来客数が減っている一方、客単価も落ちている。値上げのニュースが多く、節約志向が強まっているため、今後は更に売上が減る。
	×	衣料品専門店（経営者）	・値上げラッシュが止まらない。商店街周辺で新たに開店しているのは、低価格の立ち飲み店ばかりである。デフレを脱却し、インフレに転換したといわれているが、むしろデフレがひどくなっている。
	×	衣料品専門店（経営者）	・8月は洋服が売れなかった。客の話では、地震や天候などの不安材料が多いという声が多い。
	×	家電量販店（店員）	・従来であれば買換え時期に達している商品も、最近では修理での対応が主流となり、メーカーによる部品供給が終了するまで使うようになっている。近年の商品価格の高騰も、買換えが減った要因の1つと考えられる。
	×	住関連専門店（店長）	・国際情勢や経済情勢の変化に加え、災害などで長期的にイレギュラーな対応を強いられることが日常になってきた。緊急かつ特別な業務が増えている状況は、当店だけでなく、取引先や配送業者、客の間でも状況は同じであり、経済基盤自体が弱まっている。
	×	競輪場（職員）	・物価の上昇など、良くなる要素が見当たらず、例年の傾向よりもやや悪くなる傾向にある。
	×	住宅販売会社（経営者）	・来年度から住宅税制などでエコ基準を満たす必要があるため、必然的に大幅なコストアップとなる。
企業動向		化学工業（企画担当）	・夏季の食品の低需要期が終わり、最需要期を迎えるため、状況は良くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
関連 (近畿)		電気機械器具製造業（経営者）	・為替に関しては様々な対策が進んでいるようなので、下半期での景気回復を期待している。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・暑さが落ち着き、人事異動に伴う動きも出てくるため、業況は良くなる。
		繊維工業（団体職員）	・需要期に入るため、やや良くなる。
		繊維工業（総務担当）	・輸入商品の仕入価格が、円高傾向の影響で少し下がってきたため、良い方向に向かうと期待している。
		木材木製品製造業（経営者）	・日米の金利差が、今までとは異なる局面を迎えたため、急激に円高傾向が進もうとしている。輸入販売業にとっては良い兆しであり、今後は販売に力点を置きつつ、増収増益を目指す。
		出版・印刷・同関連産業（企画営業担当）	・問合せ状況から、年末に向けてイベントも増えていくため、状況は少し良くなると予想される。
		金属製品製造業（経営者）	・受注の内示状況が回復傾向にあるため、先行きに期待している。
		金属製品製造業（営業担当）	・需要が減る話よりも、増える話の方が増えている。
		輸送業（経営者）	・長年交渉してきた運賃の値上げが、全部ではないものの認められたため、これから実際に値上げが始まる。
		広告代理店（営業担当）	・Web媒体、紙媒体共に、広告売上が前年を上回る状態が、前年から続いている。
		食料品製造業（従業員）	・今後も大きな動きはないと予想される。原材料や資材価格の上昇も続くなかで、一部のメーカーは安売りの動きを始めている。
		化学工業（経営者）	・先の景況感を示す、月間受注額、週間受注額が大きく減少しており、当分は景気回復が望めない。
		化学工業（管理担当）	・電装品関連の取引先で、在庫量が増えているとの情報がある。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・新規案件の増加が、従来型製品の落ち込みをカバーしている。新陳代謝は十分に働いており、労働時間や売上に大きな変化はない。
		窯業・土石製品製造業（管理担当）	・円高や物価の上昇による悪影響と、定額減税による好影響で、一進一退の動きとなる。
		一般機械器具製造業（経営者）	・新規案件の動きも活発さに欠ける。
		一般機械器具製造業（設計担当）	・景気が良くなる要素は見当たらないが、悪くなる要素もない。
		電気機械器具製造業（宣伝担当）	・先行き不透明な状況に変化はない。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・引き合い件数が少なく、大型案件も出てこない。
		輸送用機械器具製造業（役員）	・受注から売上につながるまでの期間がまだ長い。例えば、前月までの受注残が売上に計上されるのは1年先である。
		建設業（経営者）	・今の状況は、しばらく変わらないと予想される。
		建設業（経営者）	・監理技術者不足が続いているほか、2024年問題による残業や休日出勤の対応に苦労している。工期の厳しい作業所では、新たに人材を投入しなければ工期を守れない状況となっている。今後は民間工事の発注者側も、完全週休2日を定着させてほしい。
		建設業（営業担当）	・建設関連の需要が引き続き多い一方、労務費や材料費などの原価の上昇率が不安定で、先が読めない。特に工期が長いプロジェクトでは、利益が圧迫されるケースも多い。
		輸送業（営業担当）	・秋は配達が増える時期であるが、今年は例年よりも少し減る見込みである。
		輸送業（商品管理担当）	・毎年9月から11月は売上が減少するため、景気は悪化に向かう。
		金融業（営業担当）	・特に受注が増えるといった話もない。
		金融業（営業担当）	・台風通過後の被害状況にもよるが、まだ農産物等の価格は安くない。
		経営コンサルタント	・大阪の中小企業は大阪・関西万博関連の需要に期待したが、その活用方法が分からないままである。今後は景気が好転する材料が見当たらない。
	司法書士	・不動産登記や商業登記といった、相続登記以外の案件が少なく、しばらくはこの状態が続くそうである。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他サービス〔自動車修理〕（経営者）	・何もかもが値上げとなっているが、それに伴う利益の増加がみられない。
		その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）	・商品の値上げがまだ続くなか、値上げを認めてもらうために取引先と交渉する時間が非常に長い。こうした状況に、今後も余り変化はない。
		繊維工業（総務担当）	・暑い日が続き、購入意欲にも影響が出ている。これまで夏物商材の消費が増えていたため、今後は秋冬商材の販売が極端に減ると予想される。
		建設業（経営者）	・物価の上昇に収入の増加が追い付かない。
		通信業（管理担当）	・実質賃金が増えた実感のないなか、物価の上昇が続いていることで、消費が低迷している。今後、収入が増える兆しもないため、しばらくは景気の回復が期待できない。
		不動産業（営業担当）	・政策金利が0.25%に引き上げられたため、各種の金利が上昇するのに伴い、負担が増えるため、景気は悪化する。
		広告代理店（営業担当）	・10月以降の広告出稿の受注が、前年を下回っている。
		その他サービス業〔店舗開発〕（従業員）	・円安が徐々に落ち着くことで、外国人観光客は減少すると予想される。
	×	その他製造業〔履物〕（団体職員）	・借入金の返済余力に乏しい企業が見受けられる。今後も価格転嫁による収益の改善は望めないなど、明るい兆しがみられない。
	×	輸送業（営業担当）	・収入が下がったからという理由で、若いドライバーが何人が退社してしまった。今後、新たな人材が入ってくるとは考えられない。
	×	金融業〔投資運用業〕（代表）	・このような環境で起業する気にはならない。経済活動は労働者にとってやる気が出るかどうかにか懸かっているが、今後数年間は、起業や労働の意欲が湧き上がる状況とは程遠い。
	×	その他非製造業〔電気業〕（営業担当）	・ピーマンが58円と聞いてスーパーに行くと、1袋ではなく1個であった。きゅうりも1本80円となる場合があるなど異常な高さである。こうした状況がおかしいという認識を持たなければ、物価の正常化は進まない。そのための施策を早急に講じるべきである。
雇用 関連 (近畿)		-	-
		人材派遣会社（管理担当）	・不安要素は多いが、しばらくはこのまま好調な推移が続くと予想される。
		人材派遣会社（支店長）	・上半期に余り動きがなかった分、下半期は活発化することが予想される。ただし、為替や株価の乱高下に加え、米大統領選挙や政権与党の総裁選挙による影響が懸念材料となっている。
		人材派遣会社（役員）	・大阪・関西万博関連の求人も本格的に動き出しており、求職者の動きも活発化することが予想される。
		職業安定所（職員）	・製造業で下半期の業績回復を見込む事業所が増えているなど、今後の求人数の増加が期待される。
		民間職業紹介機関（営業担当）	・2026年卒向けのインターンシップ等の広報は例年どおりとみられ、更に前倒して広報活動が進む見込みである。一方、2025年卒の採用は採用予定数になかなか届かず、内定辞退も後から出てくるため、通年対応の企業が増えている。それに伴い、2025年卒の求人情報の公開やエージェントサービスへの申込みは、今後も出てくることと予想される。
		民間職業紹介機関（営業担当）	・年末に向けて、例年は求人数が増加する傾向となるほか、大阪・関西万博に関する需要も増えてくると予想される。
		人材派遣会社（営業担当）	・60代の求職者をいかに採用につなげるか、需要と供給の調整が難しい。
		人材派遣会社（営業担当）	・企業側の賃金の底上げが進まなければ、景気的好転は期待できない。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・円安は少し落ち着いてきたが、インフレの状況に変化はない。世界情勢の現状を踏まえても、景気が良くなるとは考えられない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・新聞広告やデジタル広告の推移をみると、関西の地元企業のプロモーション費用に大きな変化は見込めない。
		職業安定所（職員）	・依然として、原材料費や光熱費等の増加などで収益が圧迫され、求人を控えているという声が出ているため、しばらくは現在の傾向が続く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・7月の新規求職者数は前年比で減少したが、在職者による求職のほか、自営業者の廃業による新規求職は増えている。
		職業安定所（職員）	・求職者数や求人の動きのほか、景気が大きく変動する兆候はないため、しばらく状況は変わらない。
		民間職業紹介機関（職員）	・建設下請業者の人手不足が顕著である。求人募集を行っている各事業者は人手不足のため、元請からの受注を断りながら仕事を回している。一方、元請各社は発注額の増額にシビアなため、下請業者の従業員の賃金は、依然として上昇しない状況が続いている。
		学校〔大学〕（就職担当）	・学生優位の売手市場を背景に、今後は内定辞退者が更に増えるため、採用活動を終了できない企業が多くなる。
		学校〔大学〕（就職担当）	・企業の採用担当者からは、来年度も積極的な採用活動を予定していると聞いている。
		その他雇用の動向を把握できる者	・不安定な為替を懸念する声が多い。一方、賃上げによる需要の増加はまだ先である。
		-	-
	x	-	-

9. 中国（地域別調査機関：公益財団法人中国地域創造研究センター）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (中国)		観光名所（観光振興担当）	・9月12日から11月にかけてキャンペーンをする。
		商店街（代表者）	・これから涼しくなり、また、秋にかけてイベントなども予定されているため、景気は今よりは良くなる。
		商店街（理事）	・冬物への衣替えや年末の需要などもあり、景気の回復が期待できる。
		百貨店（広報担当）	・賃上げ等の影響により、夏の臨時給与以降で可処分所得の増加を実感した。中間層の購買が徐々に活発になると見込む。
		百貨店（売場担当）	・今年の秋も全国各地での行楽など、トラベル関連はかなり期待できる。人が動くにつれて商品群や消費全体が好調に推移する。
		百貨店（総務・経理担当）	・年末に向かい、小売業として1番商況が活発になる時期と重なり、微増していく見通しである。
		スーパー（業務開発担当）	・現在の堅調さに加え、10月には最低賃金も改定されるため、消費が伸びてくるとみられる。
		衣料品専門店（経営者）	・客の気分が節約よりも消費に向いている。良い物を納め得る価格で求めようとしている。客に選ばれる店とそうでない店の差が開くと考えられる。
		乗用車販売店（業務担当）	・今後は少しずつ生産台数が増え、販売につながっていく。
		乗用車販売店（営業担当）	・新型車の効果で来客数が増え、それに伴って若干改善するとみられる。
		乗用車販売店（営業担当）	・決算月に入るため、これから市場の動きは活発化していくとみられる。今後を期待している。
		その他専門店〔時計〕（経営者）	・8月の猛暑で中高年層の来客数が減少したため、高額品の販売が伸びなかった。秋口からの売上に期待したい。
		その他専門店〔和菓子〕（経営者）	・更なるインバウンドの増加が見込まれる。
		高級レストラン（事業戦略担当）	・状況は良いが、直近では台風の影響を大きく受ける懸念がある。
		観光型ホテル（営業担当）	・秋の観光シーズンに向け、団体バスツアーの催行が好調であるため、やや良くなるとの見込みである。
	都市型ホテル（総支配人）	・南海トラフ地震の報道が一旦落ち着き、株価や為替も少し安定感を取り戻している感があり、宿泊予約は8月と比べて10%程度増加している。	
	都市型ホテル（総支配人）	・例年同様、秋の行楽や大会・学会などによりトップシーズンを迎え、先行予約も堅調に推移している。また、今夏の高校野球大会での地元校の活躍により、当地への来訪者数の増加も期待される。インバウンドについては10月下旬に再開する米子・香港定期便に期待を寄せる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		都市型ホテル（宿泊担当）	・秋の行楽シーズンを迎え、国内に加えてインバウンドも活発になるものと予測している。
		タクシー運転手	・観光シーズンを迎え、大手米国紙の記事で紹介された効果が出始めるのではないかと期待する。
		通信会社（工事担当）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いたため、景気はやや良くなる。
		テーマパーク（業務担当）	・9月は3連休が2回あり、予約状況は順調に伸びている。事前の気象予報の影響がなければ、前年より多くの来客数が期待できる。
		テーマパーク（営業担当）	・今夏は過去最高の高気温のため、厳しい状況が続いていたが、秋の新たなイベントでの集客に期待する。
		観光名所（館長）	・来館者数が少しずつ回復しており、今の状況が続くと予想している。
		商店街（代表者）	・客の買い控えの動きが継続して、消費が増加する様子がない。
		一般小売店〔食品〕	・容器、包装関連の資材の値上げが確定しており、商品への価格転嫁が必要となるため、景気が良い方向に向かうとは考えにくい。
		一般小売店〔茶〕（経営者）	・インバウンドの恩恵がない地域のため、まだまだ低調な経済に苦しみそうである。
		一般小売店〔印章〕（経営者）	・酷暑に加え、台風の影響などもあると考えられる。
		百貨店（広報担当）	・景気が好転するような要因が特段見当たらない。
		百貨店（営業担当）	・商材の生産が前年よりも増加しているが、なかなか地方に回ってこないため、景気は変わらない。
		百貨店（営業担当）	・客の動向に変化がない。
		スーパー（店長）	・値上げが継続しているが、収入が増加していることはなく、バランスが悪い。客が現状の生活に慣れてきてはいるものの、景気自体としては変わらない状況である。買物の頻度も上がらず、前年と同様の推移とみられる。お盆商戦の状況からも、年末に向け大きく進捗することはないと予測する。全ては食品の値上げという部分が大きく影響していると考えられる。
		スーパー（店長）	・物価上昇により客の買い控えは続いている。地震や台風による備蓄意識の高まりでの購入は一時的なもので、景気回復はみえない。
		スーパー（店長）	・南海トラフ地震臨時情報での一時的な特需により、売上は増加傾向で推移していたが、全体としては客の節約志向が強くなり、今のところ景気が良くなる要因がないと考えられる。
		スーパー（総務担当）	・改善の兆しが全くみえない。
		スーパー（販売担当）	・大幅な景気上昇が見込めず、10月に最低賃金が上昇しても消費に回りにくいと考えられる。
		スーパー（営業システム担当）	・値上げの影響で単価は上昇しているが、販売点数は減少傾向にある。賃上げの動きがあるが、商品の値上げが続くため消費の増加につながりにくい。
		スーパー（販売担当）	・防災関連の商品は特殊と件で売れているが、生活必需品ではない趣味・嗜好品は買い控えがみられる。
		コンビニ（エリア担当）	・ここ半年間、来客数が急増したと思えば、急減する時もあり、また、客単価も上昇する月があれば、低下する月もあり、その要因ははっきりしていない。
		コンビニ（エリア担当）	・現状より大きな変化は期待できない。電気料金や物価の高騰など先行きは不透明である。
		コンビニ（副地域ブロック長）	・来客数は安定しているが、単価の上昇がなくては売上が伸びない。最低賃金の上昇が店舗の固定費の増加につながるが、売上ではカバーしにくい状況である。
		衣料品専門店（経営者）	・買回品の値上げが続いているため、落ち着くまでは厳しい状況が続く。
		衣料品専門店（経営者）	・景気が良くなる要素がみえない。
		衣料品専門店（代表）	・1回のみでの定額減税では、個人消費の停滞を緩和するには至らない。
		家電量販店（店長）	・景気が良くなる要素が見当たらない。
		家電量販店（販売担当）	・決算・年末に期待する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		家電量販店（企画担当）	・当分暑い日が続くので、景気は変わらない。
		家電量販店（副店長）	・良い市場環境とは言えないが、これから更に悪化するという要因も今のところはない。
		乗用車販売店（統括）	・メーカーの生産台数がまだ追い付いていない。
		乗用車販売店（営業担当）	・大規模リコールの対応に追われている。整備士の負担が増え、車検や点検が後手後手になり、客との接触機会が減少し、販売活動が難しくなっている。
		乗用車販売店（店長）	・新車受注、整備入庫共に現状を打開できるほどマンパワーが補えないため、現状が続くそうである。
		自動車備品販売店（経営者）	・今のところ円安が落ち着きつつあり、1度大きく下がった株価もすぐ持ち直して、結局大きな動きはない。
		その他専門店〔土産物〕（経営者）	・以前のように、お買い得商品を提案することが難しく、段々と商品の単価が上がり、厳しさは増すばかりである。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（支配人）	・現時点では特に変わる要素がない。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（管理担当）	・最近では、米を中心に値上げ基調であり、卵など家計の優等生といわれる商材も値上がりしていることから、客も財布のひもが固いままと予想する。異常気象により農産物の価格も上がってきており、安心して金を使うことができない状況と推測する。
		一般レストラン（経営者）	・世界情勢が良い方向に向かっておらず、我が国の景気に悪影響を及ぼしている。
		一般レストラン（店長）	・予約の入り方は前年を上回る状況で、インバウンドも引き続き好調である。この状況はしばらく続くと考えられる。
		バー（経営者）	・毎年10～11月は来客数が減少する。
		旅行代理店（経営者）	・これから旅行業は旅行ではなく、同期会や同窓会など、旅行に関係のない分野に変化していく。
		タクシー運転手	・猛暑が続いているため利用者数が増加しているが、ある程度良い状況が続いたら、また元に戻る。
		タクシー会社（営業所長）	・10～11月の行楽シーズンには期待できるが、9月はイベントが少なく、台風などの自然災害も懸念材料となる。
		通信会社（企画担当）	・年内値上げを計画しているが、利用者への影響は少ないと見通している。
		放送通信サービス（総務経理担当）	・政府の電気料金補助など、期間限定の景気施策の影響は引き続き注視すべきと考える。
		ゴルフ場（営業担当）	・予約ベースとしては例年並みである。涼しくなると予約の動きは良くなるとみられる。
		美容室（経営者）	・2～3か月では、企業の売上や客の所得が増加しないため、景気は現状維持で推移する。
		美容室（経営者）	・あらゆる物の価格が上昇しているため、何かの価格が下がるか、客の給料が増加しないと景気は良くなる。
		設計事務所	・客の将来計画で、現在の実施可能な状況のうちに滑り込ませている感じを受ける。
		設計事務所（経営者）	・新型コロナウイルス感染症発生前より建築費が高騰しているため、再開したプロジェクトがなかなか前に進まない。
		住宅販売会社（従業員）	・すぐに大幅な利上げになるわけではないため、しばらくは現況が続くとみられる。
		住宅販売会社（住宅設計担当）	・顧客からの情報量不足により、販売量が減少している。まずは情報量を増やす必要があるが、増加傾向がみられない。
		住宅販売会社（事業推進担当）	・悪循環で雇用形態の改善が見込まれない。
		商店街（代表者）	・少子化なので厳しい状況に向かっている。
		一般小売店〔眼鏡〕（経営者）	・物価の上昇で客の買い控えの傾向がますます強まる。
		一般小売店〔洋裁附属品〕（経営者）	・職種によって違うが、必要のない物が段々と削られている。
		百貨店（営業担当）	・天候や気温に左右される時期となるが、前年と同様の気温であれば、重衣料といった単価の高い商品の動きは鈍いとみられ、客単価が低下する。物価上昇が続くほど衣料品への節約志向で購買意欲が低下し、先行きは不透明である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（売場担当）	・地震や台風など、心理的に微妙な写件で客単価が上がっていない。し好品などの数値が上がらず、生活防衛の消費にシフトしているかもしれない。
		百貨店（外商担当）	・株価が不安定なこともあり、富裕層が購買に慎重になってくる。
		スーパー（店長）	・今月は来客数が増加したが、9月から商品の値上げを実施するため、来客数の減少が見込まれる。
		スーパー（店長）	・単価上昇に明らかに客が対応できていない。
		スーパー（財務担当）	・今後も物の値上げが予想され、消費者の節約による買上点数の減少と、低価格志向により売上が減少する。
		乗用車販売店（店長）	・新型車がないことと、既に販売されているものも受注が止まる可能性があり、販売対象が目減りしていく。
		一般レストラン（経営者）	・これまでの食材の値上がりに加えて、米や台風10号の停滞による野菜、果物、水産品の値上がりにより、仕入価格が上昇し、利益率が圧迫される。夏休みが終わると外食の回数を減らす家庭が出てくるため、売上も少し悪くなる。
		観光型ホテル（副支配人）	・今のところ宿泊は週末や連休に偏っており、平日の予約が入っていない。宴会も前年はサミットの関係で5月にできなかった団体が一部秋にずらして利用をした傾向があるため、今年は前年ほどの利用件数がないと予測している。
		旅行代理店（支店長）	・災害や食料供給等、日常生活における不安材料が多く、旅行については当面慎重になると想定され、大幅な回復は難しいと考える。
		通信会社（営業担当）	・円安による原材料費低廉化が市場に反映されるケースは限定的かつ時間が掛かるとみられ、金利上昇の影響が変動金利にも及ぶことから住宅ローンの負担が増加し、家計の締め付けがより厳しいものになると予想される。
		通信会社（総務担当）	・拡大期が終わり、加入件数の増加は期待できない。
		通信会社（広報担当）	・どこでコストカットするかは客の興味があるため、購買行動には結び付いていない。
		競艇場（企画営業担当）	・2～3か月後は冬時間のレース開催となり、舟券の発売時間が短くなるため売上が若干減少する。
		美容室（経営者）	・長い目でみると景気に対する不安は加速していくと考えられる。生活費の大きな圧迫があるのに、大幅な値上げはされないとなると、少しずつ景気後退に進んでいく。
		設計事務所（経営者）	・建築費の高騰で、資金に余裕のある客は来場及び契約に至ったが、中休み状態である。リノベーション中古物件の投入が少ないため、しばらくは伸びないとみられる。
		×	乗用車販売店（リース担当）
	×	住関連専門店（営業担当）	・来客数の回復が見込めない状況では、景気は良くならない。
	×	一般レストラン（経営者）	・物価高は相変わらず続いているが、この秋から米がかなり値上がりする。現時点でも既に米が店頭になく状態、主食がなくなるのが1番困る。新米が出始めるので、どのくらいの影響があるかは定かではないが、悪い見込みである。
企業 動向 関連 (中国)		輸送用機械器具製造業（経営者）	・秋に向けて忙しくなる。
		化学工業（総務担当）	・直接的に為替の影響は少ないが、円高進行となれば国内産業の活発化が予想され、景気は多少は良くなっていくとみられる。
		非鉄金属製造業（業務担当）	・社内で設備投資を抑えている雰囲気はない。物価が徐々に上がっているが、容認しているとみられる。
		輸送業	・受注が増えている。
		金融業（支店長）	・当地区の公共工事入札案件の増加、大手プラントメーカーによる大規模定修による受注増加が期待でき、前月と比べると受注高が増加する見込みである。
		不動産業（総務担当）	・異動の時期であり、賃貸物件の需要は例年どおりと予測する。
		農林水産業（従業員）	・自分自身で良くなったことや、悪くなったことを感じることはない。
		繊維工業（財務担当）	・金利の引上げによる効果は分からない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		木材木製品製造業（経理担当）	・円安も金利の上昇も業界の景気にとっては余り良くない。現時点では、景気はこのまま低調な状態で変わらないが、秋の需要に期待する。
		化学工業（総務担当）	・為替など外部環境の状況が不透明である。
		窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	・鉄鋼業向け生産量に大きな変動がなく、輸出の新規受注情報もなく、現在の生産水準が続く見込みである。
		鉄鋼業（総務担当）	・具体的な判断材料が乏しいため、景気が悪化するか、好転するかは分からない。
		鉄鋼業（総務担当）	・景気に大きな変化はない。
		一般機械器具製造業（管理担当）	・円相場や株価の変動が不安定となっており、マイナス要因の発生リスクが高くなっている。
		一般機械器具製造業（総務担当）	・受注量や販売量の動きに変化はない。
		建設業	・物価上昇により景気が良くなるとは考えられない。
		建設業（経営者）	・世界情勢の見極めが難しいため、大胆な投資がまだまだされないと考えられる。
		建設業（総務担当）	・資材価格の上昇や2024年問題での人件費など、不透明な部分はあるものの、コストアップは仕方なく、工期が必要という認識も定着しつつある。
		輸送業（業務推進担当）	・景気に関する特に大きなプラス・マイナス要素もなく、取引先の動向にも目立った変化はない。
		輸送業（営業担当）	・新規引き合いが少ないため、受注に大幅な増減はない見通しである。
		通信業（企画担当）	・データセンター、クラウド、ICT関連への投資は計画的なものであるため、景気の変動は余りないと想定される。データセンターの引き合い量や見学の要望など、これまでと変わらないため、3か月程度のスパンでは変化がそれほどないと想定される。
		金融業（経済産業調査担当）	・景気の先行きの不透明感が強く、いまだ消費の拡大を見通せる状況にない。
		広告代理店（営業担当）	・大型案件はなかなか厳しい状況である。
		会計事務所（経営者）	・人手不足や物価高の解消、投資意欲の回復や物流残業時間規制への対応などにもう少し時間が掛かる。
		食料品製造業（経営者）	・ヒト・モノ・カネが不足傾向の状況で、価値創造ができていない。商品価値を高め、その商品を上手に販売する方法を追求しないと厳しい状況が続く。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・液晶関連や電子部品実装関連は大きな動きがないため、需要拡大等による回復はまだ見込めない。
		輸送用機械器具製造業（経理担当）	・受注先の内示情報から判断すると、景気はやや悪くなる。
	x	-	-
雇用 関連 (中国)		民間職業紹介機関（人材紹介・派遣担当）	・ボーナス後のタイミングのため、年内転職や新年度に向けて更に相談数が増える傾向にある。
		人材派遣会社（求職者対応）	・毎年、年末までに仕事を決定したい人が10月から増加する傾向にある。
		人材派遣会社（事業部長）	・自動車関連メーカーの増産計画に伴い、人材ニーズは拡大するとみられる。
		人材派遣会社（社員）	・求人、求職共に平行線で推移している。特に新しいトピックスはない。
		人材派遣会社（経営企画担当）	・物価高や賃金上昇に伴うコスト増加を企業が吸収し、業績の向上につながるまでは、求人の動きは鈍いと予想している。
		求人情報誌製作会社（総務担当）	・求人広告数や個人消費の伸びが期待できない。
		求人情報誌製作会社（広告担当）	・変わらず良い状況が続く。新卒採用について、今後は日本人採用だけでは絶対数が足りず、外国人採用が現実味を帯び、検討していく段階に入っていく。2026年卒に向けて県内のどの業界・エリアも採用人数は前年並みの企業が多く、官公庁、公社、団体、金融が採用数を増やす予定である。
		求人情報誌製作会社（大卒就職支援担当）	・人材を確保できない企業が出店計画の見直しをするなど、事業計画の進捗が困難になる。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・株価の乱高下など不安定要素が大きく、当面は現状維持だと考えられる。政治と海外情勢の安定が期待される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・10月の最低賃金の大幅引上げが、企業の採用活動にプラスには働かない。
		職業安定所（事業所担当）	・求人者からは景気が良くなるという声は聞かれない。管内の状況を見ると、景気が今より上向く材料は見当たらない。
		民間職業紹介機関（職員）	・業績好調下において需要の更なる拡大が見込める一方、人手不足がそれらを抑制し、本来見込まれるほどの拡大、あるいは成長曲線を描けないものとみられる。
		学校〔短期大学〕（進路指導担当）	・現時点において、本学における一般企業志望者の内定率はほぼ100%である。業界によっては、引き続き人材不足の状況が続くため、景気は良くも悪くもならないとみられる。
		その他雇用の動向を把握できる者	・物価上昇に最低賃金の引上げが追い付きつつあるものの、景気については変わらないと考える。
		*	*
	x	-	-

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連 (四国)		-	-
		衣料品専門店（経営者）	・例年8月、9月は初秋ものが売れるが、今年は残暑が厳しく、長引く見込みであり、業況は厳しいのではないかとみられる。
		タクシー運転手	・秋の行楽シーズン等が始まり、気温が通常に戻れば人の動きも良くなるとみられる。また、豪華客船等の寄港もあり、人の動きは昼間は良くなり、夜の飲食業も多少良くなると予想される。
		タクシー運転手	・今年には四国遍路が逆打ちの年であり、春は仕事が多かったが、秋もそれなりに仕事があるとみられる。四国遍路にタクシ-が出ていくため、街もそこそこ忙しくなるとみられる。
		通信会社（営業担当）	・来客数は増加傾向だが節約志向は強い。一方で新商品発売や年末商戦なども期待されるため景気は良くなる見込みである。
		競艇場（マネージャー）	・円高基調により、物価が安定し、遊興に回せる余裕資金も回復していくとみられる。
		商店街（常務理事）	・このところ、自然災害の発生に目が向くことが多くなり、消費の一部が防災関連商品に流れている。物価高騰に対する生活防衛もあり、しばらくは不要不急の消費が控えられるかもしれないとみられる。
		商店街（代表者）	・経営者は最低賃金の引上げ等の人件費増加に対して懸念を抱いており、金利アップも迫っていることから、また、消費者にとっても物価高であることから、マインドを押しあげるには至らないとみられる。
		商店街（代表者）	・仕入価格の高騰が想像以上に厳しく、現行の価格設定では利益が取りにくくなっている。電気代の高騰は政府による補助金により一時的に助かっているが不安要因になっている。
		百貨店（販売促進）	・購買意欲が向上する要因が見当たらない。
		百貨店（マネージャー）	・株価や円の動向の先行きが不透明である。
		スーパー（店長）	・値上げが続いており、買い控えが懸念される。
		スーパー（店長）	・今の備蓄需要は一時的なもので徐々に平常に戻っていくとみられる。
		スーパー（企画担当）	・近年、気温の影響により季節品の売行きが左右されたり、為替の変動による相場の高騰などがあり、まだまだ先行きが見通せない状況である。
		スーパー（企画担当）	・単価の上昇、非常用食料の買いだめなどの情報が発信されると売上に大きく影響が出る。この状況が落ち着くまでにはかなりの時間が必要となるため、売上増加は継続すると推定される。
		スーパー（統括担当）	・来客数の増加が一時的なものか否か、しばらく様子を見ておく必要がある。物価高が定着しているため、短期的には回復は難しいとみられる。
		スーパー（人事）	・引き続き、防災備品は売れ、マイナス要因もなく推移していくとみられる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（店長）	・商品価格の上昇が続いているため、所得が増えない限り、しばらくは生活防衛により消費はついてこないとみられる。
		コンビニ（総務）	・来客数の減少傾向は続いているため、今回の来客数の伸長は一時的なものとみられる。
		コンビニ（商品担当）	・インバウンド需要がない地域に関しては、盛夏期の売上も特に影響がなかったため、今後円安、株価などの状況が特に変わらなければ、景気も横ばいだと考えられる。
		衣料品専門店（経営者）	・一部の業種を除いて中小企業の景気はこのまま良くなりないとみられる。
		衣料品専門店（経営者）	・賃金と物価高のバランスがどちらに傾くかで今後どうなるか分からない。
		衣料品専門店（営業責任者）	・暑さや台風などのメディア報道の影響が大きく、来客が促進できない状況が続いている。物価上昇により、し好みである服飾へ使える割合が少なくなっていることを強く感じており、特に地震や台風の影響で生活防衛の意識が高まっていることから、消費が悪化していると感じている。
		家電量販店（店員）	・必要な物だけを買うという傾向が今後も続くと思われる。
		家電量販店（副店長）	・今後販売状況が良くなっていくとは見受けられない。客の状況も他店を回遊したり、修理件数も増加傾向になっている。
		乗用車販売業（営業担当）	・長納期化と販売車種が限られる状況が解消される見込みがない。
		乗用車販売店（従業員）	・車種が限られており、販売につながらない。
		乗用車販売店（役員）	・メーカーの生産調整もあり、販売量にも大きな変化がない。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・現在はお中元時期が終わり、落ち着いている。3か月後には祭り等があるが、今より景気が良くなることはなく、変わらないとみられる。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（館長）	・入館者数、来客数、客単価が前年より順調に伸びている。前年の全国旅行支援による売上増加の反動減が11月から計上される見込みだったが、ある程度吸収できるのではないかとみられる。
		一般レストラン（経営者）	・既に悪い状況にあり、変わらないとみられる。
		通信会社（支店長）	・来客数も伸びてはならず、年末年始までは現状が続くと想定される。
		観光遊園地（主幹）	・特に大きな状況変化が見込まれず、現状が続くとみられる。
		美容室（経営者）	・特に変化がないとみられる。
		一般小売店〔文具店〕（経営者）	・今年は各メーカーからの急な値上げの通知が、早くなっている。我々販売店は品薄をなくすため、今まで以上に在庫を多くとる必要があるため、資金繰りが厳しくなっており、メーカーと話し合いの場を設けたいが拒否されている。2～3か月先も同じ状況が続くとみられ、大変な時代になったと感じている。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・暑さで植物の出来が悪いのに加えて農家のコストの高騰のため、市場の入荷量が減っている。
		スーパー（財務担当）	・晴れの日であるお盆商戦も終わり、今からは平常となり節約志向に戻っていくとみられる。
		コンビニ（店長）	・節約モードが続くと考えている。
		観光型旅館（経営者）	・南海トラフ地震臨時情報による風評被害はかなり大きなものがあり、国内の旅行消費マインドを低下させるとともに、自国内ではほとんど地震遭遇経験のない韓国人観光客の需要減少の可能性が見込まれる。
		都市型ホテル（経営者）	・今後も気温が高い予想に加え、選挙などで動きが鈍る可能性が高いとみられる。
		美容室（経営者）	・毎年9月から11月は売上が減少する時期であり、この時期は12月から2月のイベントの準備をしっかりと行っていきたい。
		設計事務所（所長）	・民間の建築確認機関では住宅の申請件数が非常に減っていると聞いており、それにより消費財等の需要も少し落ちると予想される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	x	一般小売店〔酒〕（経営者）	・南海トラフ地震臨時情報の発表や、自然災害が多いなか、今後の生活には不安要素ばかりであり、景気が良くなるわけがない。
企業 動向 関連 (四国)		食料品製造業（商品統括）	・金利のある政策に復帰し、正常な経済へ進みだしている。多少の混乱はあると考えるが、着実に進んでいくと確信している。
		繊維工業（経営者）	・新型コロナウイルス感染症発生前のタオルの需要は贈答品への返礼ギフト、イベントでの記念品需要が中心であったが、ここ数年、それらの分野での需要が減少している。そのため、全般的にギフト卸業者、別注業者との取引メーカーはその影響を受けているが、生産地全てが悪いということではなく、今後もメーカーの売り先によって好不況があるとみられる。
		木材木製品製造業（営業部長）	・下期から受注回復の兆しがあり、秋の受注に期待して生産体制の強化を図っていく予定である。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経理）	・新型コロナウイルス感染症の感染状況は収束したが、マスクの需要は高まり案件が増えている。ウェットクリーナーの需要もあるが、競合他社が多く、需要が供給を上回っている。
		輸送業（経営者）	・総裁選が予定されており、これからへの期待は大きいですが、年配者が前面に出ると期待感が下がる気がしている。
		食料品製造業（経営者）	・引き続き、原材料、資材の値上がりがあり、製品価格に転嫁できず、利益が圧迫されるとみられる。製品価格への転嫁も考えているが、販売数量が下がると同時に製造の稼働率も下がり、全体の原価が上がることを懸念している。
		鉄鋼業（総務部長）	・年初より鉄鋼品以外の受注は低調に推移している。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・世界的な金融引締めに伴う影響や中国経済の先行きの不透明感に加え、地政学的リスクの高まり、物価上昇や人件費を始めとしたコスト増加等もあり、世界経済の下振れが懸念される。
		電気機械器具製造業（経営者）	・経営者、事業者のマインドが下がっているように感じており、当社としては営業努力をするつもりであるが、他社の例をみると余り良くならないとみられる。
		電気機械器具製造業（経理）	・急激な円高・株安も一時的なものとなり、相変わらずの物価高、円安基調、円金利上昇等の経済環境の傾向は変わっていないとみられる。
		建設業（経営者）	・資材価格の高止まり、政治の不安定、人手不足等の影響がみられる。
		建設業（経営者）	・官民工事共にいい情報が少ない。
		通信会社（総務担当）	・地域のイベントに企業連で参加し、前年よりも見物客も多くなってきたが、イベント期間終了後は、以前と同じように閑散とした街に戻っており、一時的なものであったとみられる。
		通信業（企画・売上管理）	・8月が予想していたよりも好調だったため、希望的観測も含め2～3か月先に同等程度の景気を見込みたい。
		広告代理店（経営者）	・旅行・ホテル等の観光関連の人手不足に伴う採用関連は増加が見込まれるが、多くの客先の広告費削減傾向は続く見込みであり、全体としては変わらないと予想される。
		税理士事務所	・大きく変動する要因が考えられない。
	農林水産業（職員）	・台風10号が日本列島を縦断する予報であり、少なからず広範囲で農産物の生産に影響を及ぼすことが想定される。その被害の程度にもよるが、農産物の供給減少は避けられそうにないとみられる。	
	金融業（副支店長）	・物価上昇に対して、給与の引上げ幅は相対的に少ないとみられる。	
	x	-	-
雇用 関連 (四国)		-	-
		求人情報誌製作会社（経営者）	・年末に向けてのアルバイト募集の増加が予想される。
		職業安定所（求人開発）	・管内の事業所からは、円高になれば原材料費が安くなる可能性があるため良い兆しだと捉える声がある一方、比較的大きな企業からは、急激な円高を不安視する声を聞いている。また、10月の最低賃金引上げについて懸念する声も多く、景況としては一進一退の状況が続くとみられる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		民間職業紹介機関（所長）	・職種によって差異があるが、求人数は一定のところ落ち着いており、数か月単位では大きな変化はないとみられる。
		学校〔大学〕（就職担当）	・人手不足感、企業の採用意欲は変わらないとみられる。
		人材派遣会社（総務部長）	・最低賃金の上昇は人材ビジネス業界にも暗い影を落とすとみられる。
		求人情報誌（営業）	・周辺企業では人手不足からくる疲弊や閉塞感がみられるところが多く、打開策を見いだせずにいる企業が多いとみられる。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・公共料金などがますます値上がりし、特に地方では、賃金の増加では全く追いつかないとみられる。
	x	-	-

11. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (九州)		住関連専門店（従業員）	・これから秋冬の高単価商材の需要が高まってくるため、景気が上向くと見込んでいる。
		観光型ホテル（営業）	・繁忙期のため、今月より景気は良くなる。
		タクシー（統括者）	・運行回数増加に関係するライドシェアについては、現状は不足する台数の半分しか運行できないが、今後不足分も開放される。このことが、再度メディアに大きく取り上げられると予想され、需要と供給のバランスが改善するだけでなく、乗務員募集にも効果があり、採用増加に寄与すると考えられる。
		ゴルフ場（営業）	・これからのゴルフシーズンに向けて予約状況は好調である。
		商店街（代表者）	・今より気温も落ち着き人の動きに活気が出れば、現状よりやや良くなると予想される。気候の変化で景気が大きく変わっていく。
		商店街（代表者）	・9月になると気候も良くなり、客の外出機会が増加することを期待している。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・今後2～3か月後はさすがに猛暑も落ち着き、花は保つようになり、花を選ぶ人も増えるため売上も増加してくる。当店の客の動向としては、花を購入する余裕がある客は高所得者が多く、低単価品を購入する客が減少している。客は減少しているが、高単価品を購入する客が残っているため、この状況が維持できるようにしていきたい。
		百貨店（営業担当）	・国内外の観光客増加に伴い、観光需要も増加している。地元の外出意欲も回復し、美術工芸品・特産品増加や土産品購入、物産催事、イベントへの来場も見込める。また、紳士雑貨・インテリアやし好性の高いブランド品・舶来雑貨も依然好調となっており、購入意欲は高い。クレジット利用の増加や商品単価の上昇に加えて友の会の新年度募集などで来客数や客単価の伸びが見込めると予想している。
		百貨店（リーダー）	・気候が良くなり、行楽への関心が高まると予想される。
		コンビニ（経営者）	・最低賃金の大幅増加により、消費行動が活発化することを期待している。
		コンビニ（エリア担当）	・総裁選の盛り上がりや、その後の経済政策に期待している。また、10月からの郵便料金値上げ等、値上げによる影響を注視したい。
		乗用車販売店（役員）	・販売量はメーカーからの供給量増加で好調を維持できるが、受注量は受注可能車種が認証不正問題の影響からどの程度回復できるかで変化する。
		乗用車販売店（役員）	・認証不正問題による生産停止が解除され、メーカーから供給が増加することに伴い、登録や納車など販売業務が増えると予想される。
	乗用車販売店（総務担当）	・今月同様、メーカーからの新車の配車が前年を上回り、自動車販売店の売上と利益確保に大きく寄与する。	
	その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・気候も徐々に涼しくなり、必然的に温かいコーヒー飲料品関係が出回る。コーヒーの需要は冬場にかけて増加するため、それに伴って売上も増加する。加えて、半導体工場の進出もあり新規客が増加しており、今後の景気は良くなる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		観光型ホテル（総務）	・9月以降の予約状況が好調である。
		観光型ホテル（管理）	・近隣にスタジアムの開業が予定しており、イベント等の開催による宿泊客の増加を期待している。
		都市型ホテル（スタッフ）	・旅行シーズンとなるため企業や募集型の旅行が活発となり、来客数が好調になることが予約状況からうかがえる。
		旅行代理店（統括者）	・個人の海外旅行は厳しい状況だが、旺盛なインバウンド需要は継続し、高単価商品と国内需要が堅調に推移する見込みである。企業の好業績に伴う堅調な需要により、景気はやや良くなると予想している。
		通信会社（企画担当）	・見込み客の様子をみると、情報発信や集客への投資が旺盛である。
		通信会社（営業担当）	・秋に向けて観光業が更に活発化するため、景気は良くなる。
		ゴルフ場（従業員）	・9月からはゴルフシーズンとなるため予約状況も順調に推移している。予約確認に努めながら、少なくとも例年並みの入場者数確保に努めていきたい。
		理容室（経営者）	・8月は猛暑のため客の動きが悪かったが、来月から新学期が始まるため徐々に客に動きが出てくると予想している。また、気候も少しずつ涼しくなるため、人の動きが良くなることを期待している。
		美容室（経営者）	・2～3か月先は秋のおしゃれシーズンに入り、客が活動しやすい気候になってくる。外出も増え業界には活発な動きが出てくる。10～11月には、秋の装いになりヘアスタイルや化粧品等にも動きが出るため、景気は良くなっていく。
		その他サービスの動向を把握できる者（所長）	・客先の四半期決算の結果や市場評価から、今後に期待している。
		商店街（代表者）	・暑さは続くと予想しており、また、例年9月の売上が減少傾向であるため、売上増加は見込めない。
		商店街（代表者）	・特に個人の消費行動が活発になるような要因が見当たらないため、現況が続くと予想される。
		商店街（代表者）	・異常気象だけではなく、物価高による買い控えは当分続くと考えられ、景気が好転する材料が見当たらない。
		商店街（代表者）	・大企業や公務員の給与には昇給があったようであるが、多くの中小企業や小規模小売業の給与は据置きになっている。この状況のなか、物価は上昇しており客の慎重な買物は継続されると予想している。食料品など生活必需品を優先しているが、他の商品は売上が伸びていない状況である。一般小売業は通常10%値上げすると売上が10%良くなるわけではなく、売上は落ち込むことが多くなる。10月から郵便料金の値上がりがあり、通販に頼っている業種には痛手となることが考えられる。
		商店街（代表者）	・商況は簡単に良くなることはなく、低迷が続くと予想される。
		一般小売店〔鮮魚〕（店員）	・朝晩涼しくなると景気も回復すると予想されるが、現状は今を乗り越えることで精一杯である。また、業界内に明るい話題もない。
		一般小売店〔精肉〕（店員）	・引き続き飲食店からの需要が好調であるため、景気は変わらない。
		一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・食料品や生活必需品の価格は高騰し厳しい状況となっており、今後の売上は伸び悩むと考えられるため危惧している。
		百貨店（企画担当）	・クリスマス需要のモチベーションが高まる前であるため、購入する前の検討時期と予想される。
		百貨店（企画担当）	・日用品を中心に物価高騰が続いている影響は大きく、慎重な消費行動は大きく変わらない。
		百貨店（企画担当）	・現状の水準を維持していれば、3か月後も今月と大きく変わらない。今後の総裁選の結果など大きな政治要因があり、現状では今後の見通しが難しい。
		百貨店（経理担当）	・引き続き売上全般の状況は変わらないと予想されるが、インバウンドの売上が若干ではあるものの回復傾向にある。
		百貨店（業務担当）	・物価高や米不足、猛暑による電気代高騰を心配する客が多い。生活水準を維持するために出費がかさみ、消費に慎重になる客が多く、身の回りの景気が好転することは考えにくい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（店長）	・最低賃金の改定、消費者物価指数が上昇傾向にはあるが、景気に大きな影響はない。
		スーパー（店員）	・客と直接つながっているスーパーマーケットで勤務しているため、消費者の状況がよく分かる。高級な洗剤やシャンプーも店頭には並んでいるが、自分自身への御褒美としての消費は余り見当たらず、安い物から順に売れていく。さらに、安くなればすぐに売れ、肉であれば鶏肉からという状況は当分変わらないと予想している。
		スーパー（総務担当）	・物価の上昇に逆らうように低価格で大量販売をすることで拡大している競合店の存在は、ローカルスーパーにとって非常に厳しい環境と言わざるを得ない。
		スーパー（企画担当）	・9月も残暑が予想されており、来客数は多く望めないと推測している。しかし、商品値上げに一服感はあり、極端な買い控えにはならないと予想している。
		スーパー（経理担当）	・相変わらず値上げや所得の停滞という構造は続いている。
		コンビニ（経営者）	・コンビニエンスストアビジネスは天候に大きく左右されるため、気温が平年並みに落ち着くと売上も平年並みになっていく。
		衣料品専門店（店長）	・景気は悪い状態が続く。
		衣料品専門店（取締役）	・季節的には過ごしやすくなるため、買物など行動が多くなると考えられる。しかし、様々な値上げで先行き不安であるため、今後景気が良くなることは想像も付かない。
		家電量販店（店長）	・物価高へのもっと踏み込んだ対策等がないと、景気が良くなることは考えられない。
		家電量販店（店員）	・現時点で景気が変わる好材料がないため、先行きには変化がないと予想している。しかし、円高に推移していけば、多少の変化は考えられる。
		乗用車販売店（従業員）	・半期決算後で値引き等が余りできないため、景気は変わらない。
		乗用車販売店（代表）	・景気が変わるような要因が見当たらない。
		住関連専門店（経営者）	・株価の大きな動きや円高傾向など動きがあるが、輸入原材料の値段は変わっていない。株価が安定し、円高で、輸入商品が値下がりすれば仕入れも容易になり、経営も立てやすくなる。また、置き家具の需要も見込まれる。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	・身の回りの景気は、各種物価高騰や賃金とのバランスにより大きく左右されるが、その部分が劇的に良化する兆しはないため、状況は変わらない。九州では目立った大雨に見舞われていない点が若干プラスに作用している。一方、大雨で特需が発生するような業態は逆に厳しい推移となることが予想され、また、映画にも目立ったヒット作がない点も、商業施設にとっては先行きは明るいとはいえない。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	・実質賃金の増加が弱い状態である。
		高級レストラン（経営者）	・現状をみていると先行きは変わらない。今後企業の接待が増加していけば、景気は良くなると考えられる。当地では9月、10月の食材としてふぐが出始まるため、景気が良くなることに期待している。
		一般レストラン（スタッフ）	・猛暑や光熱費、物価の上昇もあり、景気は悪化していく一方である。
		スナック（経営者）	・猛暑で人出がないため、売上に影響を与えている。残暑が続けば外出や外食が減少し、売上は今月並みの数字が予想される。
		観光型ホテル（専務）	・直近の予約が増える傾向があり先行きが読めないが、団体の問合せが多くなっており、多忙な状況が続くと予想している。
		旅行代理店（職員）	・海外旅行の観光商品はパッケージツアーがまだ主流であるが、国内の交通と宿泊セット型旅行は、ますますオンライン販売へ変わっていくと予測している。
		タクシー運転手	・通勤、通学の時間帯の需要は減少しているものの、インバウンドの行動の時間帯など相変わらずタクシー不足は続いており、現状維持はできると考えている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		タクシー運転手	・夏休みが終わり、県外からのゴルフ客が増えるのではないかと期待をしている。
		通信会社（社員）	・業界の景気が上昇するような話題がないため、今後も変わらない。
		通信会社（企画担当）	・このまま販売力が減退する危機感がある。
		通信会社（役員）	・物価高や地場企業の賃金据置き等、生活者の消費意欲が高まる兆しが見当たらない。消費意欲を刺激するような施策が実施されると景気を底上げする流れができると考えている。
		テーマパーク職員	・景気が良い状態が続いているが、これ以上良くなる確証はなく景気に変化はない。
		ゴルフ場（従業員）	・景気は前年並みで推移している。
		競馬場（職員）	・景気動向を左右する経済現象が見当たらないため、現況と変わらない。
		学習塾（従業員）	・特に景気が悪くなるような話題を聞かない。
		その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	・新卒採用の主力となっている高校生の動きが前年比で鈍くなっている。人材採用は全体的に厳しくなっており、人材確保次第で経営の先行きに大きな影響を与える。
		設計事務所（所長）	・材料や製品単価は価格転嫁された高値のまま供給されると考えられるが、仕事の対価としての人件費は上昇するとは限らないため、事業所の意識が変わる必要がある。
		設計事務所（代表）	・良くなる条件がないため、景気は変わらない。
		百貨店（経営企画担当）	・化粧品や特選商品は継続して好調であるが、相次ぐ値上げで消費者の購入は厳しくなっている。今後も天候不順の影響等で物価の上昇は避けられない状況で、景気が上向く要素は少ない。
		百貨店（営業企画担当）	・物価高は今後も継続することが想定され、景気が良くなる要素は乏しい。また、円安や株価の不安定さから投資に対する慎重さが増しており、更に財布のひもが固くなると懸念している。
		スーパー（店長）	・商品単価の上昇が収入の増加を上回っているため、消費意欲の低下は今後も続き、景況感の悪化も継続する。
		コンビニ（経営者）	・必要なものだけ購入し、ついで買いが減少しているため、客単価が落ちている。
		コンビニ（経営者）	・3か月後も同様の推移で販売量が動いていくと予想される。10月からは最低賃金が大幅に上がることから買上点数が伸びていくのではないかと期待しているが、まだ先行きは見通せない状況である。
		家電量販店（店長）	・夏商戦が終わり、爆発的に売上を押し上げるものがないため、しばらく景気は低迷する。
		観光型ホテル（支配人）	・前年と比べて宿泊予約が減少している。
		観光名所（従業員）	・夏休み期間で客が多いが、11月の旅行シーズンになるまでは来客数が減少するため、景気はやや悪くなる。
		美容室（経営者）	・この夏、台風や豪雨で自然災害が多かったため、中小企業の先行きは悪いと予想される。
	住宅販売会社（従業員）	・来客数減少の動きが販売量にも影響してくるが、一部住宅ローンの長期金利の変動許容幅の拡大もあり、潜在的な客の動きは継続し、大幅な落ち込みはない。	
	x	コンビニ（経営者）	・自然災害等が多いため、景気は悪くなる。
企業 動向 関連 (九州)		-	-
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・九州各県の主要都市の地図更新を予定している時期であり、地図購入が予測されるため、景気はやや良くなる。
		化学工業（総務担当）	・損益が前年から回復傾向にあり、同様の状況が続くと予想される。
		金属製品製造業（事業統括）	・収入の上昇や株価の堅調な動き等の明るい話題が続いており、景気の好況感がある。
		電気機械器具製造業（取締役）	・製品価格の上昇を通じて部品など諸物価の上昇に対応できているため、景気はやや良くなる。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・顧客からの情報によると、景気はやや良くなる。
	輸送用機械器具製造業（営業担当）	・価格面で労務費・物流費高騰などの価格転嫁がおおむね完了した影響もあり、価格転嫁分の売上が増加し、生産量は大きな増減もなく横ばいで推移すると予測している。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金融業（営業）	・猛暑で我慢していた消費活動は涼しくなると再び活発化し、消費マインドは高くなる。
		農林水産業（経営者）	・9月に關しては生産・販売に問題はないが、10月に一部原料の不足が予想されるため、売上は減少し、客先に若干迷惑を掛けてしまう状況である。加えて、資材等の値上げや最低賃金の上昇、2024年問題などの大きな負担があり、秋口くらいから影響が出そうである。経営が少し厳しい局面を迎えるため心配である。
		家具製造業（従業員）	・受注件数に大きな変化はなく、当面は現状が続くと予想している。不安定である為替の影響もあり、海外輸入品の販売戦略が難しい状況である。
		一般機械器具製造業（経営者）	・客の声や見積状況にはそれほどの変化がなく、3か月先の景気の状況は今と変わらないと予想される。
		建設業（従業員）	・官庁の受注は難しい現状であるが、今後規模の大きい工事を行うため、必ず受注できるように緊密な積算を心掛けたい。また、民間の工事も同様に規模の大きい工事を受注できるよう努力したい。
		建設業（社員）	・受注の状況によるが、現状では景気は変わらないと予想される。猛暑が続くため社員の健康管理に十分留意し、受注に向けた努力をしていきたい。
		輸送業（従業員）	・円安だけが要因ではないが、物価が上昇しているため、商品の動きが期待しているほど動いていない。
		通信業（職員）	・電気工事の受注状況は好調であるが、情報通信工事に関しては今年度も部門としての年度目標額に対し厳しい状況が続いている。特に入札・プロポーザル案件の競争が厳しくなっている。
		通信業（経理担当）	・四半期決算は期首の計画どおりとなり安心している。今後も堅調に推移する見通しである。
		金融業（従業員）	・百貨店やスーパーマーケットの売上は比較的順調に推移している。一方、住宅や家電の売行きは力強さに欠け、物価上昇や人手不足などもあり、先行きにやや慎重な見方を持つ企業がみられる。
		金融業（調査担当）	・当面は物価高騰が続き、景気回復の足かせとなると予想している。
		金融業（調査担当）	・金利の上昇により設備投資時の負担増加が見込まれることから、注視すべき状況が続く。
		金融業（営業担当）	・日本銀行の利上げ宣言により、金融機関による貸出金の利上げが計画されている。そのため、取引先の中小企業には負担増加となり、借入れによる設備投資等のマインドは低下する。
		不動産業（経営者）	・同業者や金融機関と会話する限り、今後も余り景気に変動がないと考えられる。
		新聞社〔広告〕（担当者）	・好材料が見当たらないため、景気は変わらない。
		広告代理店（従業員）	・物価上昇の影響で大企業では賃上げが進んでいるが、当社及び同業他社では賃上げが進んでいない。世界情勢についても改善が見通せず、景気全体としては今後3か月は余り変わらない。
		経営コンサルタント（代表取締役）	・先行きの判断に迷うところではあるが、景気が良くなる要素はなく、しかし悪くなるような状態ではないと考えられるため、しばらくは現状が続くと予想される。
		経営コンサルタント（代表取締役）	・自社Webのアクセス数や問合せ件数に変化がない。
		経営コンサルタント（社員）	・当社から積極的な働きかけはしているが、相手先の経営状況もあり新しい動きをする機会が少なく、難しい状況である。
		電気機械器具製造業（経営者）	・全体的に受注が延期傾向にあるため、今後も景気はやや悪くなる。
		その他製造業〔産業廃棄物処理業〕	・金利の動向を静観する取引先が多いため、景気の先行き判断は難しい状況である。
		輸送業（総務担当）	・物価高や人件費高騰などの影響がじわりと効いてきている。各社共に生き残りに必死で、賃上げや値上げ等も慎重になっているが、対策が見いだせず疲弊している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		経営コンサルタント（社員）	・食品業界では秋の値上げの通知があり、一層乗客数が減少すると予想されるため、景気はやや悪くなる。
		その他サービス業〔コンサルタント〕（代表取締役）	・市町村の6月補正予算ではコンサルタントへの委託業務は多くなく、今年度全国の多くの市町村で予算化されていることも計画策定業務の発注がほぼ終わっている。このため、委託業務の発注に限られ、入札等では更に価格競争となることが予想される。受注の機会が少なくなる可能性があり、景気が更に悪くなることが予想される。
	x	繊維工業（営業担当）	・1年から2年は在庫調整が続くため、景気は悪くなる。国内生産が弱く海外で生産を増やしたことから在庫が多くなったと考えられる。
雇用 関連 (九州)		-	-
		人材派遣会社（社員）	・年末の繁忙期の求人が始まっており、例年並みの人材オーダーがある見込みである。
		人材派遣会社（社員）	・衆議院解散選挙になれば、関連イベントが実施されると予想している。
		人材派遣会社（社員）	・派遣受注数などはある程度は見込みそうであるが、転職の相談依頼などが入っており景気は若干良くなると考えている。
		学校〔大学〕（就職支援業務）	・株価や為替相場が乱高下する状況が続いており、物価高騰と賃上げの先行きが危惧されている。好調な輸出企業では物価高騰を上回る賃上げや、将来を見据えた設備投資の拡大など前向きな支出につながることを期待される。しかし、業界によっては働き手の人材不足もあり、企業の採用意欲は今後も続くと予想している。
		人材派遣会社（社員）	・特に大きなイベントがない時期であるため、景気は変わらない。最低賃金が大きく改定するため、派遣料金を改定する会社もあるが、大多数は来年度の改定になる。最低賃金上昇により、社会保険加入になる自社雇用のパート社員も出ており、派遣社員の後任について、どうすべきか検討している企業が注文数を控えている。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・例年、お盆明けからの秋需要が始まり、年末年始需要になると活発になるが、コロナ禍以降、景気の動きが止まっている。新型コロナウイルス感染症の分類が5類感染症へ移行してからしばらく市場も活況を帯びていたが、この2年は停滞している。
		職業安定所（職員）	・事業所を廃止する企業も出ているが、景気が悪くなったとは言いきれず、また、景気上昇の要因もみられないことから、今後の景気は横ばいが予想される。
		職業安定所（職員）	・南海トラフ地震臨時情報が発表されたことが当月のみではなく、今後の観光産業へ全体的に影響を与える可能性がある。また、物価上昇も収まっておらず、好転する要因がみられない。
		民間職業紹介機関（職員）	・求人数は増加しているが学生数は増えていないため、売手市場が続くと考えられる。
		人材派遣会社（社員）	・求人数が減少傾向であるが、求職者も減少傾向が継続している。また、派遣料金の値上げ交渉は人手不足感からスムーズに行えており、直接雇用への転換が進んでいる点を見ると、人材の囲い込みが進んでいる状況である。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・働き方改革や定年後の再雇用制度が定着しつつあるが、低賃金の状況で働くことが優先され、本来の余暇やレジャーなどに消費が回るような習慣が減少している。働いて貯蓄することが優先されている状況では、今後の景気は回復していかない。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・ガソリンや食料品、輸入品など生活必需品の値上がりが続くと予想される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	x	-	-

12. 沖縄（地域別調査機関：一般財団法人南西地域産業活性化センター）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (沖縄)		*	*
		一般小売店〔酒〕（店長）	・物価が上昇し、生活が安定しない。
		コンビニ（経営者）	・気温上昇の予報から、飲料や雑貨等の暑さ対策商品が増えているため景気は良くなるとみている
		家電量販店（営業担当）	・おきなわ省エネ家電買換応援キャンペーンが継続している。また、外国人観光客数は引き続き増加していくとみている。
		その他専門店〔陶器〕（製造）	・夏はガラス製品、秋冬は祭りの影響で陶器が売れやすいとみている。
		一般レストラン（代表者）	・全国放送により店が紹介されたため、来客数が増えるのを期待している。
		通信会社（営業担当）	・新商品の発売もあり、現在の好調な状態が継続していくと期待している。
		商店街（代表者）	・3か月前と同じく、良い業種、悪い業種が混在しており、まだまだ変わらない印象である。
		百貨店（経営担当）	・電気料金や物価などの現状から、今後の先行きに不透明感がある。
		スーパー（企画担当）	・2～3か月先は食料品の値上げも予想しており、景気は変わらないとみている。
		コンビニ（店長）	・物価高や賃金の上昇など客単価下落の要因が解消されない限り、良くなる見通しはないとみている。
		コンビニ（副店長）	・9月には与党の総裁、11月には米国大統領が共に変わることで、情勢が大きく転換するのか注視している。また、10月には最低賃金額が改正されるため事業者としては大変厳しい状況である。
		コンビニ（経営企画担当）	・9月以降も前年と比べて国内外の観光客には期待している。一方、7月の台風ではマイナスの影響が大きく、落ち込みが激しい。そのため、台風シーズンとなる9月以降は、台風が大きな不安要素である。
		衣料品専門店（経営者）	・今月は、例年以上に暑い日が続いており、セールの上も伸び悩んでいる。また、新しいシーズン商品の入荷が始まっているが、まだ売上に繋がっていない状況である。そのため景気が良くなる傾向がみえない。
		その他飲食店〔バー〕（経営者）	・現状、良くなる要素が見当たらない。
		観光型ホテル（代表取締役）	・宿泊部門と料飲部門の売上は、予約などの状況から今月より良くなるとみているが、新型コロナウイルス感染症発生前と比べてもまだ90%程度であり、人件費を中心とした様々な経費が上昇している。このことから、それに見合った売上とはならず、経営としては厳しい状況が続くとみている。
		旅行代理店（マネージャー）	・取扱は増加してもマンパワーに頼る部分もあり、人手不足の状態であるため、現状維持が微増程度でしか業務をこなせてない。
		住宅販売会社（役員）	・住宅ローン金利の先高観はあるが、販売状況の大きな変化はない。
		住宅販売会社（取締役）	・何かが変化する要因はみられないが、円高傾向にあるため、今後の動きに注視している。
		乗用車販売店（経理担当）	・受注量が減少している現状が継続するとみている。
		観光型ホテル（企画担当）	・ホテルの8月の販売室数が前年比26%増加なのに対し、8月末時点での11月の予約室数は前年比17%増加で、プラス幅が小さくなっている。
		その他サービス〔レンタカー〕（営業）	・先行きの受注状況は前年比90%前後と非常に厳しい。特に旅行会社経由が伸び悩んでおり、当社以外の同業他社も同様の状況である。
	x	-	-
企業		-	-

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
動向 関連 (沖縄)		食料品製造業(役員)	・今後も観光関連消費の増加に加え、最低賃金の上昇幅も大きいいため個人消費の伸びが期待できる。
		窯業土石業(取締役)	・前月から見積依頼が緩やかではあるが増加傾向にあり、3か月先は受注増加が期待できる。
		広告代理店(営業担当)	・基幹産業の観光が好調に推移するなか、県内企業の売上も増加傾向にあるとみているが、物価や人件費高騰などの影響で、県内企業の広告販売促進活動は消極的とみている。
		会計事務所(所長)	・観光をはじめとする景気状況の改善が、労働者の賃上げに影響するか不透明である。
	x	-	-
雇用 関連 (沖縄)		求人情報誌製作会社(営業)	・9~11月に向けて例年の求人動向としては増加傾向であるため、全体的に求人件数は増加するとみている。
		学校[専門学校](就職担当)	・早い企業では10月頃から2026年卒向けの求人票を送付してくる。また、この時期から2025年卒向けの採用に動く企業もあることから増加するとみている。
		人材派遣会社(総務担当)	・2024年度の県内最低賃金が、時給952円に引き上げられることが決定したことにより、中小企業が抱える問題等、今後の動きに影響がでるとみている。
		職業安定所(職員)	・求人受理の場面で、景気が上向きになる、下向きになるといった話は聞こえてこない。また、以前活発であった求人票の賃上げが減少していることから、現段階では景気は変わらないとみている。
		学校[大学](就職支援担当)	・金利調整などがうまく働いて、経済が好転することを期待したいがしばらく時間は掛かるとみている。
	x	-	-